



302.38
SA 63
⑦

302.38-Sa63ウ
1200800296470

0 1 2 3 4 5 6 7 8 9 30 1 2 3 4 5

始



労働同業

譯所查調働勞業産

DEADWEIGHT
UNION

866 禁止

マンレンメレ著

第二卷

版開文叢

1951

85

函
號 872
永久保存

禁安 1-573

302.38

SA 63

ソヴェート同盟

第二卷 目次

第五章 労働者階級の状態

一、社会主義的生活形態とその特徴	二八七
二、労働者階級の物質的状态	二〇三
三、××××××××下の労働者	二〇四
四、プロレタリア××××に於ける労働者の状態	二二五
(イ) 労働者数の増加	二二五
(ロ) 労働時間	二二七
(ハ) 週五日制	二二九
(ニ) 失業問題	二三三
五、賃銀	二三六
(イ) 賃銀體系に関する原則	二三六
(ロ) ソヴェート同盟に於ける賃銀動態	二三四
(ハ) 資本主義諸國における賃銀の動き	二四四



六、社會的賃銀……………二六〇

(一) 二つの經濟體制における賃銀の動き……………二五七

(二) ソヴェート同盟に於ける労働者の生存の確保のための社會的事業……………二六三

(三) 社會的保險制度……………二六五

(四) 疾病保險(一時的治療手當)……………二七〇

(五) 休暇……………二七三

(六) 母と子……………二七五

(七) 廢疾保險……………二七九

(八) 養老年金……………二八〇

(九) 労働の英雄に對する年金……………二八一

(一〇) 恩給……………二八一

(一一) 遺族扶助料……………二八二

(一二) 死亡見舞金……………二八二

(一三) 労働者保護……………二八二

七、住宅制度……………二八五

八、労働者幹部の教育……………二九四

九、社會主義的労働形態……………二九七

(一) 社會主義競争……………三〇一

(二) 突撃隊運動……………三〇三

(三) 誘導……………三〇五

(四) 労働コムミュン……………三〇五

(五) 貫通・先導隊・追加計畫……………三〇六

(六) 労働勳章——「勳章」。黒い板と赤い板……………三〇八

(七) 技術的進歩の大衆運動……………三二〇

(八) 労働熱意……………三二三

(九) 政治的活動……………三二五

十、ソヴェート労働組合……………三二七

十一、ソヴェート同盟に於ける婦人労働者……………三三三

十二、生産におけるレーニン主義的コムソモール……………三三九

十三、消費組合……………三三二

行し得るのは、彼等が何のために、何びとのために働いてゐるのかを知つてゐるときに於てのみである。資本主義諸國に於ける「雇主」が試みに同じやうな「實驗」をやつてみよ、——彼等は「彼等の」労働者をして、五ヶ年は息か五時間も、感激せしめて労働のたまはる英雄的行軍をさせ得ないであらう。此處にこそ、社會主義の下に於ける労働者階級の状態と資本主義の下に於ける労働者階級の状态との鋭い對比が現はれて來るのである。ソヴェート同盟の労働者は、彼等の生産するすべての富か、彼等の労働の乘産生産物か×××放逐なる用益者×××に利用されずに、残りなく彼等自身、彼等の階級、すべての労働者に利用されることを知つてゐる。

ソヴェート同盟には、益々多くの勤勞大衆が窮乏と困窮の中になるのに贅澤な生活をしてゐる上層の一小グループが幾十萬幾百萬といふ不勞收入を得てゐるといふやうなことはない。ソヴェート同盟ではまた、銀行や工場の支配人の幾十萬幾百萬といふ俸給もない。(註一) 此處ではまた社會主義的×××の幾十萬といふ買収費もない、此處には××××幕下の巨額の俸給もない。(註二)

(註一) 資本主義ドイツに於ける×××やその番頭共がどの位そのポケットに捻ぢ込んでゐるかはその「官廳」數字から測ることが出来る。それによれば彼等の俸給は次の如くである——

シメンス・シュツケルト會社總支配人ケットゲン.....	八〇〇、〇〇〇マルク
「ハーバーク會社總支配人クローノ」.....	六〇〇、〇〇〇
IG染料會社支配人ボツシ.....	五〇〇、〇〇〇
製鋼工場總支配人フェーゲル.....	四〇〇、〇〇〇
ダナート銀行支配人ゴルドシュミット(事業主として).....	一〇、〇〇〇、〇〇〇
DD銀行支配人ワツセルマン.....	三五〇、〇〇〇
フォン・シュトラウス.....	三五〇、〇〇〇
ドレスデン銀行支配人グツトマン.....	五〇〇、〇〇〇

國立銀行總裁ルーテル.....	一六八、〇〇〇
副總裁ドレイゼ.....	一一二、〇〇〇
國有鐵道總支配人ドルブミュラー.....	一〇〇、〇〇〇
クルツツ株式會社支配人ゲーレン.....	一一〇、〇〇〇

これになほ諸掛り、配當、株式利得等が附加はる。

ソヴェート同盟には經濟の最高役員、即ちトラスト、國立銀行(世界最大の銀行)等の支配人の俸給、黨最高幹部の俸給、これが月に三百ルーブル、若しくは年に三千六百ルーブルである。

(註二) 社會民主黨出身の前フランクフルト・アン・マイン警察署長ハリスは、ドイツ社會民主黨の官吏の機關紙「ダス・フライエ・ウォルト」紙のために一文を書き、その中で黨によつて高い收入のある官職を得たすべての社會民主黨員は月額千五百マルク以上の黨費を納むべきだと強調した。官吏の機關紙の編輯者、プロシヤ聯邦議會フランクシヨンの議長ハイルマンは、次の理由からその論文を反駁した——

「それは例へば吾々の大臣に月額千五百マルクを超える一切の收入を黨に納める義務を負はせようとする意圖なのか? それでもなほ大臣の椅子に就くやうな指導的同志を見たいものだ。」

註釋は要らぬ! 吾々は社會民主黨の労働者にたゞ次のことを知らせただけだ、——ソヴェート同盟では最高の役員、例へば人民委員長カリーニン及びすべての人民委員(大臣)に至るまで最高月俸僅か三百ルーブルしか得てゐない。それに住宅料とか「官舎」などといふものもなく、交際費その他資本主義階級の大臣のとつてゐるやうな金もない。

ハリス宛のハイルマン氏の書翰は吾々の手許にある。ハリスは今日ではドイツ×××の活動的なメンバーである。ソヴェート同盟の労働者は皆今日自分か資本主義諸國の労働者のやうに誰のために誰のためにも賦役をやらなくともいふことを知つてゐる。資本主義諸國では労働者は依然トラストイの次のやうな賢い言葉を想起するであらう、——

「富とは——労働の蓄積たといふのは正しい。たゞその際普通(資本主義の下では依然としてさうだ——著者)或る

銀××制には知られなかつた事なのだ。而かもこれらすべての階級社会、これらすべての生産形態はプロレタリア××とは極めて僅かしか類似してゐない労働の結果をさへ示してゐないのだ。従つて「ボルシェヴィキの憎むべき強力行使」の虚言は、實際の現象とは似てもつかぬものである。

階級社会の歴史で奴隷、農奴或ひは「自由な労働者」がお互に競争して仕事につき、全く文字通り「仕事を競ふ」といふやうなことをかつて聞いたことがあるか？ 階級社会に於て労働者が最大の労働の能率を挙げようとして突撃隊をつくり、それと共に他の労働者を刺戟して最大の能率を挙げさせるといふやうなことをかつて聞いたことがあるか？

何處かの資本主義國で労働者が彼等の労働時間のほかに閑になつた午後、夜若しくは日曜日に自發的な労働、それも多きは最も困難な仕事をやる（スポトニーク）ことを決議したといふやうなことをかつて聞いたことがあるか？

階級社会の歴史は、かつて一度もこれに似たことをさへ報告することが出来なかつた。この現象の背後にある「秘密」は、同志スターリンによつて第十六回××大會に於けるその偉大な演説の中で曝かれてゐる、――

「××更に廣汎な社会主義競争を組織し、工場に於ける大衆の労働意志を高めた。競争に關する第十六回××會議の呼びかけは、事態を飛躍させた。突撃隊はそれを指導して更に前進させてゐる。レーニン主義青年同盟及びそれに指導された労働青年は、競争の仕事と突撃隊の仕事とを決定的成功を以て飾つた。わが××青年が其處で大きな役割を演じたことは認められねばならぬ。今では、現在の階間に於て工場職場の社会主義競争、幾十萬の労働者による競争の結果の相互發表、突撃隊運動の廣汎なる展開が吾々の建設の最重要の要因でないにしてもその一つであることは毫も疑ひを容れない。たゞ盲人のみが大衆の相貌、労働に對するその態度が激變したこと、吾々の工場職場の様相が根本的に變つたことを見ないのだ。最近まではなほ吾々の間で「工夫し出された」そして「無内容な」競争や突撃隊運動が口にされたものである。今では「賢い人達」は笑はふとさへしない、人は彼等を簡單に、一世紀も生き延びた、「賢人」としてゐる。今や競争も突撃隊運動も擴がり強化してゐる。社会主義競争が吾々のところで尠くとも二百萬の労働者を捉え、突撃隊が百萬以上の労働者を引寄せてゐることは事實である。」（此處でも今日ではこれよりも著しく多い――著者）

さて、資本家やその柔順な従僕共、社会ファシスト若しくは労働組合官僚はこの「秘密」を眞似るなら眞似て見よ。それは××××××××××下に於ける労働者の労働に對する完全に變つた、そして直接對立した態度を示してはゐないか？ そしてそれが強力で達せられ得ると信ずるか？ 階級社会の労働に於ける経験はその反對を證明してゐる。だが労働者の労働に對する根本的態度の變化が労働者階級の全イデオロギーに如何に作用してゐるか、スターリンは同じ演説の中で吾々に示してゐる。一切の傳統的な德義的及び道德的概念は變つた内容を持ち、若しくは根本から變つてゐる。資本主義的××體系の下に於てプロレタリアートの階級道德の中で不德義である不道德であるとされてゐることも、今プロレタリア××××××××××では同じプロレタリア的階級道德の基礎の上で德義及び道德の最も尊い法則となる。而して逆の場合も同様である。資本主義の下で階級道德の最高法則とされてゐること、――ストライキに際して、またプロレタリアート××××××××××に對する××××××××××に際しての連帯性も、今この闘争手段が自身の階級に對して用ゐられるときには、最高度の不道德、階級に對する犯罪となる、このことは元來自明なことであり、階級意識ある労働者には皆明白且つ明瞭なところであり、資本に買収された××××××××××な反ボルシェヴィキ的憎惡のみかその眞理を否定し得るのである。労働者階級の道德がプロレタリア××××××××××で労働に對して如何なる關係に立つかについて、同志スターリンは第十六回××大會で言つてゐる、――

「競争で最も注意すべきは、労働に關する人々の見解を根本的に變へてゐることである、何となれば競争は労働を恥づべき、そして苦しい重荷――今までさう見做されてゐた如く――から名譽なこと、名譽高きこと、英雄主義のこと、に變へてゐるからである。資本主義國にはかゝるものはまたあり得ない、其處、彼等のところ、資本家のところでは利札を持つてゐて利息で生活してゐて、働かなければそれは熱望の的となり、社会的に稱讃される。何となれば労働は卑むべきことだからである。これに反してわがソヴェート同盟では、労働、労働、労働、労働、労働の選り、となつて幾百萬の勤勞者から名譽のオーロラで圍まれることは熱望の的であり、且つ社会的に稱讃される。」

公的生活への、即ち社會の共同生活の形成の共同決定と参加とへの社會のすべての個人の参加に基づいて、男子たる婦人たるを問はず一切の個人がその完全なる經濟的、社會的及び政治的獨立を獲得する社會關係と状態とが生れるのである。それと共にブルジョアの結婚×××粉碎され、破壊される。

ブルジョアの結婚はブルジョアの財產關係に基礎を置いてゐた。この結婚法則及びこの結婚道德の規準となつたものは、支配階級、ブルジョアジーの成文不文の法則である。だがブルジョアジーの結婚は、空中で取結ばれたものではなくて、銀行の金庫の中で結ばれたものであり、ブルジョア社會に於ける夫婦の愛に常に磅に換算された。新郎新婦の價値は、土地や銀行券の價値で測られ、此處で計算が合ふと坊主かその祝福を與へたものである。ブルジョアの結婚の動機となつてゐるのは、個人的な愛着や内的抄合ではなくて新郎の背後の物質的財貨に對する貪慾である。人間が結婚するのではなくて×××結婚するのである。これか、ブルジョアの結婚の人間×××——支配階級に認められた××××のものであり、得ない理由である。

然し、ブルジョアの結婚の廢棄は、夫婦、従つて家族一般の共同生活の除去を意味しはしない。正にその反對で、結婚、家族、家庭生活からはたゞ金錢的性質、私的資本主義的性質が除去されたゞけであり、夫婦は完全に平等な社會的獨立と個人的自由とに基づいて結合する。個人的愛着と個人的一致以外の何物も夫婦を結びつけ強制して共同生活をさせるものはないのである。

婦人の肩にかゝつてゐる婦人を奴隸として家に縛りつけてゐた家庭經濟の一切の労働と機能（料理、洗濯、裁縫、綴布等）は次第に全社會の特別の施設によつて引離され、それによつて妻も夫も、家庭×××から解放されて完全な公的社會生活に参加し得るのである。

プロレタリア×××の完全に變つた生活形態の下で全く別の種類の生活觀と全く別の生活内容を持つた人類が發展する。人間はその好みに應じて一切の可能な文化的、職業的若しくは他の領域に於て特別に活動し、更に教養を積み發展するに十分な時間と可能性とを持つてゐる。彼等はそれと共に、社會のすべての成員にとつて平等な社會的生活を

件の基礎の上に完全な個人的自由と自己決定とを得るのである。（註）

（註）裏切者にして俗人のカウツキーは、カール・マルクスが五十餘年前にそれを認識した如く、ヒルファディングの「ゲゼルシャフト」誌の一九三一年の一月號の叫びでソヴェート同盟に於ける關係の中心で次の如く言つてゐる、——

「用語法について吾々には無限に論争することが出来る。論争を、——今のロシアが現出してゐる今の地獄の代りになほ悪い物が來ることが可能か？ といふ間に歸着させるならば、吾々はおそらく最もよく結論に到達するであらう。×××××は地獄の緩和、妙くとも増加せる運動の自由以外のものを齎すことが出来るか？ 余の想像としては、ソヴェート・ロシアの今日の状態より怖ろしいものを考へることは不可能である。」

二、労働者階級の物質的狀態

プロレタリアートのヘゲモニーの下に於けるソヴェート同盟の國民の社會主義への發展は、吾々が既に示した如く、國の後進性と、プロレタリア×××舊封建的ブルジョアの社會から權力を引離した際に戦はねばならなかつた惨めな遺産との結果指導的階級へ多くの犠牲を課した歴史的、經濟的及び社會的條件の下で行はれた。右に擧げた諸條件の下に於けるこの困難はプロレタリアートの物質的狀態に關しても現はれた。物質的生活關係（住宅、交通、運輸の可能性等）について言へば、急激に發展した結果巨大な人間大衆が短期間に移住したところや、大都市ではまだ遂げられた全社會的及び文化的飛躍に相應するだけになつてゐなかつた。ブルジョア世界に、そしてその中でも特に社會ファシストにいても、ソヴェート同盟の労働者の「やるせない」状態に關する誹謗カンパニアをする動機を與へてゐるのはこの事實である。

だがこの問題を時々ソヴェート同盟を旅行する多くのブルジョアの「觀察者」のやるやうに、——ソヴェート同盟の労働者は資本主義諸國の労働者よりも「よき生活をしてゐる」か、といふ單純な問題提起に還元させて見れば、それは

次の簡単な事實によつて答へられる、——最近の二年間に資本主義諸國から幾萬の労働者が資本主義的××××から脱れようとしてソヴェート同盟に逃げて來た。これらの労働者は、所謂「最高の文明國」ドイツ、イギリス、アメリカから、従つて遅れた農業人口を持つ國からではなくて熟練工業労働者を持つ國から來たのである。これらの労働者は確かに移住して來たのではない、何となれば彼等の「祖國」では彼等は幸福ではなくて、彼等はソヴェート同盟が悪いどころかよいといふので其處に止まつてゐるからである。

何處が労働者に「幸福」かといふ問題に争ふ餘地なき決定を與へてゐるこの事實も然し、未だ決して全問題に觸れてはゐない。或る國の労働者階級の物質的及び文化的向上は、他の國々に於ける「幸福」の單純な問題提起では確認されな、吾々は或る國に於ける階級の生活關係は今までどうであつたか、それは今日どうであるか、を研究せねばならぬ、さうして初めてプロレタリアートが彼等自身の支配の下で比較的不利な條件を持ちながら既に成し遂げた巨大な向上が現はれて來るのである。この向上を認識するためには、昔の××××××××××に於けるロシアの労働者の生活状態の觀察が必要である。

三、××××××××××下の労働者

國の自然的原料資源や補助材料に於ける最も有利な前提や測り知るべからざる國內市場にも拘らず、昔の××××××××××に於ける近代的商品生産は西歐に於ける資本主義的發展に比して甚だしく後れて發展した。然し、××××××××××に於ける資本主義的發展は、極く當初から外國資本の強い刺戟の下にあつた。自分では既に飽食して西歐の××××××××××は、最も豊饒な地中の財寶、最も低廉な労働力及び最近に發生した市場可能性を持つてゐるこの國の××××××××××可能性に眼を向けた。

十九世紀から二十世紀に變る頃ロシアは約十五億ルーブルの資本をもつ一一二七の株式會社を持つてゐたが、約五億

ルーブル或は三分の一が外國資本であつた。資本が××××として求めた對象に關しては次の數字が説明を與へてゐる。

投資 (單位百萬ルーブル)

産業グループ	一八九三年	一八九六年	一八九九年
纖維産業	二二二、六	二二五、二	三四二、〇
鑛山	一〇一、〇	二〇九、四	四〇六、一
金屬産業	三二、七	八五、三	二五〇、三
化學産業	一七、一	四五、一	五八、四
石油産業	九、一	一九、一	四八、五

株式資本の著しい増加と外國資本が此處で持つてゐた——特にフランス、イギリス、ドイツ及びスウェーデンの資本が——強い勢力とは、構造に於て西歐とは本質的に異つた工業を創り出した、最初から近代的大經營が優勢だつたのである。

一八九四年には労働者數別に見た工場規模は次の如くであつた、——

労働者一〇〇人乃至五〇〇人を有するもの全經營の七七・八%	全労働者の三八・五%
労働者一〇〇人以上	一四・六%
労働者一〇〇人以上	一七・九%
労働者一〇〇人以上	一九・五%
労働者一〇〇人乃至五〇〇人を有するもの全經營の七三・七%	全労働者の三〇・六%
労働者一〇〇人以上	一五・一%
労働者一〇〇人以上	一一・〇%
労働者一〇〇人以上	四九・七%

一九〇八年にはロシアに一〇〇人以上の労働者を有する二九〇〇の工場と全體で百五十萬の労働者が數へられた。そ

て行く改良主義者からの分離は、ロシアに於ては既に一九〇三年に行はれた。ロシア社会民主党のボルシェヴィキとメンシエヴィキとへの分裂は、十月に於けるプロレタリアート××××××であつた。ロシア社会民主党のこの分裂と、労働者階級の獨立的××××××の創設とを、西歐の最も進歩せる××××××へ永い間理解し得なかつた。ドイツ社会民主党の最も良いマルクシストなるローザ・ルクセンブルグさへレーニンがプロレタリアート××××××に要求した「夜番の役目」を嘲笑したといふやうなことがどうしてあり得たのか。だがロシアに起つたことのこの無理解こそ、西歐に於ては最良の××××××へ幾世紀も眠つてをり、飢えた帝國主義による世界××××××の如き時代に於て全く新しい國民が舞臺に立ち現はれ改良主義の泥沼に埋められたマルクス主義の眞理を現實にしたことに氣づかしめなかつたのだ。西歐のプロレタリアートの××××××な部分はロシアのプロレタリアートが自分の解放のために舊封建的ブルジョアの社會に加へた××××××の一種の偉大な歴史的意義を理解してはゐたが、ロシアのプロレタリアートの××××××力のための前提を理解し得ず、ロシアのプロレタリアートの強味（獨立的な××××××の創設）こそその弱味（労働者運動の分裂）でなければならぬと信じてゐた。最大にして最もよく組織された労働者運動」に對する盲蛇物に怖ぢず式な大膽さ、傳統的な年功よく獲得された權威に對する特權及び「豊富な經驗」が、西歐の労働者運動を、その中の最も××××××部分をさへ、ロシアに於ける偉大な出來事に對して全く盲目にした。世界戦争の苦い經驗と第二インタナショナルの完全な破産とが初めて、西歐のプロレタリアートをロシアのプロレタリアートが既に一九〇三年に立つてゐたところまで齎した。

然し、強大な政治的大衆罷業とプロレタリア××××××との重い一槌の下に舊い封建的××××××支配體系が××××××的に震撼せしめられたことは、ロシアに於て大きな影響を與へたばかりでなく、ヨーロッパの全労働者運動に於ても大きな影響を與へた。資本の改良主義的従僕共——自分の主人がロシアに投じた資本を擁護し、その超過利潤の分前にありつてゐたは、ロシアのプロレタリアートをその「無理解と無意義なストライキ」とで「近代的な労働者運動を危険に曝す、無智な非文明的文盲」と侮蔑した。プロレタリアの最初の生みの機に關する帝國主義の従僕共——特に改良主義組合の陣營に於ける——この怒りの爆發に對して、當時（一九〇五年）なほこの陣營に立つてゐたカール・カウツキは

この小冊子「社會××」の中で答へた、——

「この『××のロマンテイク』に對してはたゞ、諸關係はヨーロッパにゐる吾々にとつては何物をも證明しはしないそれとこれとは根本的に異なるから、といふ抗議——勿論極めて屢々提起される抗議であるが——があるのみである。諸關係の相異は、それを誇張してはならぬが、勿論自分も知らぬことではない。吾々の同志ルクセンブルグの最近の小冊子は、ロシアの労働者階級が普通に考へられてゐるほど低い水準に立つてもゐなければ、僅かしか獲得してゐないこともない。イギリスの労働者カドイツの労働者を後れた種族として見下す習慣を捨てさせねばならぬと同様に、吾々はドイツに於てロシアの労働者に對する同じ習慣を捨てさせねばならぬ……イギリスの労働者は政治的要因としては今日なほ、經濟的に最も後れ、政治的に最も非自由なヨーロッパ國家、——ロシアの労働者よりも低い。ロシアの労働者にその偉大な實踐的力を與へてゐるのは彼等の生きた××××××な意識である、イギリスの労働者を實際の零にしてしまつたものは、××の拋棄、眼先の利益だけに限つたこと、所謂現實政策であつた。」

カウツキのこの判斷（註）の中に、ロシアのプロレタリアート及びその××××××階級闘争が今世紀の初めに全ヨーロッパのプロレタリアートに與へた偉大な××××××が表現されてゐる。

（註）一九〇五年一九一〇年にカウツキは眞正眞銘の日和見主義者の貌變を成遂げたのである。一九一〇年にローザ・ルクセンブルグは、カウツキが一九〇五年に於ける彼の態度とは反對にボルシェヴィキの最も狂暴な反對者になつたので、彼をして右の引用を想起せしめねばならなかつた。而してカウツキのこの貌變は、やがて彼を公然たる反革命家にしたのである。

ロシアのプロレタリアートが極めて短かい年月に××××××封建主義の最も野蠻な中世的狀態からその解放に到るまで如何に大きな途を經過したかは、前世紀の七十年代、八十年代に於けるロシアの労働者階級の狀態に關する當時の記録に明かである。吾々はK・A・ブシコフの著書「ロシアに於ける労働者階級の狀態」からその當時の記録の二三を引用する。工場に於ける狀態と労働者の生活關係とに關してフレロフスキの著書には次の如く述べられてゐる、——
「すべての工場や職場に於ける労働者の狀態は、労働者かその職業では食つて行けない程度のものである……不十分

な賃銀と企業家による頻繁な瞞着とは、労働者を益々深く債務の中に沈めてゐる……労働者と子供とはその力に餘る労働を日に十六時間もやらねばならぬ。」

戦前のロシアに於て労働者が十六時間の労働に對して饑餓的な賃銀を得てゐたといふやうな報告は、無数にある、吾はそれを無数に引用することが出来るであらう。だが、企業家が労働者を完全にその手中に握つておくために如何なる方法を用ゐたかは、労働者が××工場に縛りつけられたことからわかる。即ち彼等は賃銀の代りに他の職業に於けるよりもズツ、悪くて高い、その工場附屬の店の商品を得、それがまた労働者を不斷の債務奴隷の状態に置き、その上に労働者が工場から去つてはならぬといふ義務がつけられてゐたのである。労働者がこの體系によつて如何なる××を受けたかは次の報告からわかる、――

「労働者に強制してその生活資料のすべてを工場附屬の店から高い値段で借買させるといふ吾々の工場主のこの舊い習慣は、労働者に負債をつくらせ、企業家に労働者を農奴と同じやうに取扱はせる可能性を與へてゐる。……そこで支拂はれねばならぬ価格は、おそろしく高い。例へば、この工場附屬の店では最下等のバターポンドが三十七コペークから三十八コペークもするが、ペテルブルグでは最上のバターが三十一コペーク乃至三十三コペークしかしない。」

他の報告の中では次の如く述べられてゐる、――
「H・バルニン工場では皆工場附屬の店からとられるが、其處では市場の値段に比して尠くとも六割乃至七割高い。」この××方法の下でロシアのブルジョアジーは何處の資本主義國でも得られなかつたやうな配當を得たのである。例へば繊維産業は恐慌時に於てさへ、六割乃至八割の利潤を得てゐた。ペテルブルグの新木棉紡績工場の一つは、八十萬ルーブルの基礎資本で、既に第一營業年度に於て超過利潤を得、そのためにこの會社は配當として四十八萬ルーブル分配することが出来た。

經營内の衛生状態は考へ得る最も悲惨なものでおそろしい病氣を惹起し労働者の生命を破壊した。シルドフスキーと呼ぶカザン地區の工場監督はその地區の状態に關して次の如く報告してゐる、――

「多量の有毒瓦斯の出る燐及びマッチ工場は通風設備が全くないか、不十分にしかない。多くの労働者の齒が全く腐つてしまつてゐることは別として、私は二つの工場で燐蒸氣の作用で顎が腐つてしまつたために解雇されねばならぬ労働者に出會つた。」

同じ工場監督は皮革工場を視察した後に報告してゐる、――
「皮革工場の衛生状態もマッチ工場に比して少しもよくない。場所は平地にあつて、いつも暗く、とても汚く、そして少しも通風装置がない。其處のアンモニア瓦斯その他の瓦斯に慣れないものは、この場所に二三分とゐることが出来ない。自分にもさうした場所に三分以上止まつてゐることが出来なかつた。窒素瓦斯のために激しい咳嗽が出たり眼が熱くなつて何も見ることが出来なかつた。一般に皮革工場の衛生状態は話にならない。」

而してこの瓦斯地獄に男も女も、また少年時代の若い労働者も日に十四時間乃至十六時間もゐなければならなかつたのである。

×××××ロシアに於ける労働者の住宅状態は全く筆舌に盡し難い。今日ブルジョア記者がモスクワ或ひはソヴエト同盟に於ける「怖ろしい住宅状態」に關して社説を書いたら、吾々は既に、彼等が何故に昔の資本主義ロシアの「住宅状態」について何事も報告し得ないのかといふ問を提起せねばならなくなる。昔の×××××ロシアは産業及び商業に働いてゐる労働者、婦人労働者及び労働青年の大部分が全く住宅などを持たなかつた。産業部門若しくは商業の労働者は、多く彼等が働いた場所、工場若しくは職場で眠つた。工場の近くに、だが多くは工場の扉の内に特別な木造のバラツクをつくり、その中で労働者が誰彼問はずに、家持ちも獨身者も、若きも老いたるも、木片の上で眠れるやうにしてあるだけで、既に特別な人道的な偉大な行爲だつたのである。それが「大まかな」企業家だと、彼はなほ多く温められることも出来なかつた、このバラツクの中に原始的な机と椅子とを與へ、その上で労働者はその儂れたパンを嚼むことが出来た。この點に關する様子を、吾々はその卓越したボンボンと菓子とで若干の名聲を博してゐたモスクワの大パン焼工場に關するモスクワ工場監督の報告の中で讀むのである、――

ロホルムを使用しなくともいゝ位である。」
それが×××ロシアの紡績××の身の毛のよだつやうな状態であつた。フルドフの工場は當時あつた最大の工場であつた。それでもつと小さい紡績工場や他の産業の工場の様子も決してよくなく、悪かつたことは疑ひない。労働者が利潤のために生身×××させられた工場火災に際しての憎むべき×××、資本主義が如何に××××××をやり得るかの證明を與へるものである。フルドフのこの××××××決して例外ではなく、資本主義的××××××が権力を握つてゐるところでは一般にさうした××××××を實行するものだといふことは、ベテルスブルグの煙草工場の火災に際してのもう一つの報告が示してゐる。報告に曰く、――

「その直後ベテルスブルグのシャザル兄弟煙草工場にも類似の破局が起つた。この工場も焼け落ち、婦人労働者は煙草の竊盜を防ぐために閉ぢ込められた。その際多くの人命が失はれた。」
昔の××××××ロシアに於けるロシアの労働者のこの怖ろしい労働條件及び生活條件の下で労働者に對して最も××××××耕作が行はれ、そして労働者の健康と生命とにとつて××××××が始つたことは、明かである。年々新兵を撰拔すべき××××××軍隊の徴兵委員会も遂に、彼等が工場の近くの徴兵區で徴集した「悪い人間××××××」に關してコ、ボシてゐるのである。さうした報告の一つの中で次の如く言はれてゐる、――

「工業はロシアの經濟状態を向上させず、工場主と地主との同盟によつてロシアの労働者は全く不幸なものにされてしまつた。工業をやつてゐる十二縣に於て、乞食や泥棒しか住んでゐないロンドンのおそろしい區に於けるよりも死亡率が高い。この事實を認識するに到れば、愛國主義者は祖國を見棄るかも知れない。労働者の生産性を十倍にもすることを得しめた分業も、労働者にとつては××××××との源泉になり、高い死亡率の源泉となつてゐる。それは商工業を營む十二縣の中三縣で人口数が減少し、一縣では絶對的にも増加しなかつたといふほど悪い。」

自由主義的なインテリゲンチアの雑誌「祖國の想出」誌から、労働者の状態に關する次の告白をとる、――
「それ故、吾々の社會の大部分が工場といふものについて、労働者に破壊的な影響を與へる何か怖ろしいものといふ

以外の觀念を持たないのも怪むに足りないのである。だが何處に抑々労働者の恐るべき状態が現はれてゐるかを、多くのものは知りもせず理解もしてゐない。」

直接官廳や半官的な役所や事務所から出された當時の××××××記録は××××××證言であつて労働者階級のそれではない、――「××××××××××の制度」は吾々の言葉がなし得るよりも餘分に訴へてゐる。昔の××××××封建的、資本主義的社會に於ける労働者階級の状態は考へ得る最も遺憾なき、そして最も恐ろしいものであつた。労働者は社會の中で生活してゐたのではなく、社會の下で生活してゐたのである。彼はあらゆる點に關して無權利であつた。人間に相應しい生活の如きは全く問題にならなかつた。その状態は、屋根もなく、本來の家庭生活もなき、××××××で、際限のない日々を賦役で緊張してゐて殆んど眠る時間もなく、賃銀も飢えを鎮めるにも足りぬ程度のものであつた。労働者に對して最も××××××耕作が行はれた、彼は××××××でもかまはなかつたのである、過剰の人口を有つ村落が十分に新しい労働力を提供したのである。昔の資本主義社會に於けるロシアの労働者のこのひどい窮乏状態を知つたときに初めて、吾々は労働者階級が資本主義を××××××彼等自身××××××の下に十年間に成遂げた巨大な發展を理解するのである。

四、プロレタリア××××××に於ける労働者の状態

(1) 労働者数の増加

賃銀や俸給の取得者、即ちその家族を持つてそれを維持するにたゞその唯一の商品として自分の労働力しか持たぬ人間は、ソヴェート同盟ではドイツその他の工業國のやうに労働者の壓倒的多数をなしてをらす、この巨大な農業國では労働者の最大の層をなしてゐるのは農民大衆である。このことは勿論、第一に急激に國が工業化したために工業労働者

が増加したことにより、第二に個人的農民経営が共營農場へ移行し、それと結びついて大農場の發生がまた幾百萬の農民を、社會的地位から言つて私的に生産してゐる農民よりも遙かに工業労働者に近い勤勞者に變へたことによつて、今では大變化を來してゐる。

國民經濟の社會主義的部分に働いてゐる労働者及び勤勞者の數の増加は次の表に明かである、(單位千人)

各 部 分	一九二七年	一九二八年	一九二九年	一九三〇年	一九三一年	一九二七年に 對する一九三 一年の百分比
調 査 産 業	二、八三八・六	三、〇三三・三	三、二六六・九	四、二五五	四、九八一	一七五・四
非 調 査 産 業	四二二・八	四〇八・二	四〇八・二	三六〇	三三二	七八・五
建 築	五四六・八	六八三・八	八一七・八	一、六六二	二、四七一	四五一・九
鐵 道 運 輸	九六一・一	九五六・八	九五二・一	一、〇八四	一、二五四	一三〇・五
その他の運輸	二九五・九	二九八・一	三一九・六	五八四	六〇四	二〇四・二
商業及び信用	六六九・〇	六七八・九	七七一・六	一、一三二	一、二二八	一八三・六
社會的及び文化的施設	一、〇七九・八	一、一八三・三	一、二五四・三	一、四〇五	一、五六七	一四五・一
行 政	一、二六〇・一	一、二四二・六	一、二四九・二	一、三六七	一、二九二	一〇〇・三
その他の労働部門	七九二・〇	八八五・一	九六四・八	六九五	四九六	六二・六
農業及び林業	二、一二四・〇	二、〇八六・〇	二、一三八・〇	二、二二二	二、六一六	一一三・一
合 計	一〇、九九〇・一	一一、四五六・一	一二、一四一・五	一四、七五六	一六、八四〇	一五三・二

この表は、國民經濟のすべての部分に於て労働力が年々増大するテンポで増加してゐることを示してゐる。五ヶ年間に増加は六百萬人、或ひは五三・二%で、その際工業、建築及び運輸の増加が著しく、このことは國の生産力の發展のテンポ、社會主義建設のテンポを示すものである。

吾々は、五ヶ年計畫の遂行によつてソヴェート同盟の労働者數が激増したのを見てゐる。それは今後更に鋭く現はれるであらう。大工業ギガントの經營開始の結果労働者階級の増加、跳躍的な發展は、近き將來に於てなほ本質的に高まるであらう。ドイツでは賃銀及び俸給取得者の數は戰爭終結以來略々同じに止まつてをり、そして景氣の動搖にのみ追隨してゐた。

それは一九二七—二八年までは増加して來たが、大恐慌の開始以來減退を示してゐる。現在ドイツには概算で二千二百萬の賃銀及び俸給取得者(労働者、使用人、官吏)がある。

(ロ) 労働時間

社會主義的生產方法に對する資本主義的生產方法の狂妄は、労働時間の問題に明瞭に現はれてゐる。ドイツその他の資本主義國に於て日々に益々廣汎に經營が休止せしめられてをり、現存の生産機構の利用が益々減退してゐるとは言へ、企業家は九時間、十時間、十一時間、否十二時間も労働させてゐる。世界戰爭終結に際してのドイツに於ける資本主義體系の最初の×××震撼によつてドイツの労働者階級は八時間労働制を獲得し得た。否、ブルジョアジーは八時間労働制を「法律の上で」制定せざるを得なかつた。だがそれは一時のことであつた。労働者が「社會主義」大臣や資本主義的救國主と國粹社會主義の×××群との協力によつて×××××されてしまつた後は、労働時間は全く系統的に再び戦前のドイツと同じに延長され、八時間労働日は間もなく九時間、十時間及びそれ以上の労働日に變つた。

ブルジョアジーは失業問題を片付け得ないであらう。だが永い労働日は動かされてはならない。利潤に對する、そしてそれと共に剩餘労働に對する渴望は鎮められねばならない。だが資本家にあつては剩餘労働に對する渴望は、労働時間を無制限に延長しようとする欲求に現はれる。——マルクスは資本論の中でかう言つてゐる。労働時間が永ければ永いほど、利潤もそれだけ大きいのである。かくて利潤のインテレストは、幾百萬の失業者があるにも拘らず、労働時間の延長を命ずるのである。この點でもまた、吾々はソヴェート同盟に於て實に逆の發展を見るのである。

ロシアのプロレタリアートは、經濟の他のすべての問題と同じく計画的に労働時間の問題を規整した。労働時間の問題はプロレタリアートの文化的向上にとつて極めて重大な意義を有つてゐる。政權をその手に握り、それを行使し、擁護せねばならぬプロレタリアートにとつては益々然りである。このプロレタリアートは、經營内で労働するほかに、國家及び經濟の一切の行政管理の事務に關する任務を持つてゐる、彼等は資本主義諸國のプロレタリアートよりも遙かに高い教育と教養とを持たねばならぬ、また彼等は工場労働のほかに技術、自然科學及び行政の一切の智的領域に働かねばならない。確かに資本主義諸國に於ける労働時間も労働者の文化的向上の緊急問題ではあるが、ブルジョアジーが精で労働者に教養手段として提供してゐるものは、 $\times \times \times$ 、 $\times \times \times$ 、 $\times \times \times$ 、 $\times \times \times$ 、 $\times \times \times$ 、 $\times \times \times$ である。

すべての資本主義國に於て販路の不足にも拘らず日々八時間乃至十二時間も労働させられてゐるに反し、吾々はソヴェート同盟に於て生産の激増にも拘らず労働時間の持続的系統的な短縮を見るのである。同様に計畫經濟の構成部分となしてゐるところの労働時間の短縮は、この二三年間に労働時間に關する次の如き計画的な規定に従つて規整されてゐるのである、――

労働時間の長さ	
一九三〇年	一九三二年
石油經營.....七・二五	七・〇八
鑛山.....六・七八	六・三〇
金屬及び機械製造.....七・六四	七・四〇
建築.....七・〇二	六・八二
木材工業.....七・八一	七・五七
化學經營.....七・三七	七・一三
紡績産業.....七・六一	七・五二
	六・八九

皮革工業.....七・七九

七・五三

六・九七

諸々の産業部門に對するこの労働時間の計畫から、労働時間が一九三二年にはすべての産業部門に於て一日七時間以下になることがわかる。現在地下労働六時間の鑛山に於ては、それは一九三二年にはすべての労働者に對して六時間以下になるであらう。

(ハ) 一週五日制

生産手段、仕事の設備、工場、機械等の不足は、ソヴェート政權に對してそれを最高度に、最も合理的に利用することを強制した。機械は日夜働かねばならなかつた。日曜日にもそれは休止してゐることは出来なかつた。中絶することなく、息抜きもなく、休息もなく機械は働かねばならなかつた――かうして連續労働行程が生れたのである。労働者は三交替で機械に就く。労働者は交替するが機械は中絶することなく廻轉し、たゞ食事中一寸休むだけである。

然し生産が三交替に移行したばかりではない、昔の六日の労働日と一日の休日といふ一週の振分けも消滅してしまつたのである。労働週は四労働日になつた。六日毎に一日の休日ではなくて五日毎に一日休日があるやうになつた。この労働の振分けは最初は、試みに大工場に實施されたのであるが、間もなく全經營に擴がり、三交替の仕事をしてゐないところや、機械の合理的な利用など問題にならぬところでも行はれるやうになつた。やがて一週五日制はすべてのビユーローや官廳、すべての賣店、職業等でも施行されるに到つた。すべての工場、すべての官廳やビユーロー、すべての店舗は年中毎日開かれ、何處でも毎日仕事が行はれ、たゞ人間だけが交替する。國家の祭日、――一月二十一日(レーニンの死せる日)、五月一日及び二日(二日の世界の労働祭)、八月一日(國際××デー)及び十一月七日及び八日(二日の勝利せる十月××記念日)だけは例外である。すべての宗教的祭日(新年、復活祭、聖靈降臨祭、クリスマス)は國家によつて廢止されてしまつた。

ソヴェート同盟の労働者は資本主義諸國のやうに七日毎ではなくて、五日毎に休止を、即ち「彼の日曜日」を持つ。

ソヴェートの暦では一週間は、資本主義キリスト教世界のやうに七日ではなくて僅か五日である。一年は五十二週と五十二日の休日ではなくて、七十三週と七十三日の「日曜日」を持つてゐる。一月は四週ではなくて六週を持つてゐる。このこともまた、社会主義社会では資本主義世界が遂行し得ないやうな××××だといふことを示してゐる。

(註)一九三一年十月、まだ一週五日制を施行してゐない経営、若しくは連続的な労働行程に働いてゐない経営には一週六日制が施行される旨の布告が発せられた。それに従へばこれらの経営では五日毎にはなく、六日毎に一日の休日がある。然し一週六日制では一日の労働時間は六時間ではなくてはならない。それに従へば、一週六日制では一週の労働時間は三十時間、一週五日制では二十八時間である。

然してこのことはまた同時に、プロレタリア××××がブルジョア××××××××として高く立つてゐることを示すものである。フランスのブルジョアジーも舊キリスト教的封建的社會體制を倒した後、新ブルジョア社會の生誕と共に、新しい時間の計算を實施しようとした。彼等は最早キリスト教的暦で年代を計算せずフランス革命の年を以て計算した。然し彼等は最早、既に封建制の下にあつた舊い労働賦役をキリスト教的計算に置き換ふる以上のことをなし得なかつた。一週は七日、一月は四週であつた。ブルジョア××××は各月に別の名稱を與へ、各日に別の呼稱を與へたが、長い労働賦役は少しも變へはしなかつた。プロレタリア××××××××に行動した。ブルジョア××××があんなに大きな價值を置いた名稱や呼稱は、プロレタリア××××とつては單に音響に過ぎない。プロレタリア××××は労働××××制に重きを置いた、それはキリスト教的な計算のことなど齒牙にもかけなかつた。それは第一に長い労働時間を廢棄し、第二に長い労働週を、そしてそれと共に、キリスト教的封建的社會からブルジョア社會に受繼がれた物質的基礎を變へた、このことは實に労働する人類の文化水準を舊いブルジョア世界の上に根本的に高めた行爲である。カール・マルクスは既に天才的に、ブルジョア××××とプロレタリア××××との間のこの偉大な世界史的差異を認めてゐた。彼はその著「ルイ・ボナパルトのブルメール十八日」の中で言つてゐる、――

「十九世紀の××××はその詩味を過去から汲むことは出来ない、たゞ未來からのみ汲むことは出来るのである。そ

れは過去に對する一切の迷信が拭ひ去られる前に自分で始めることは出来ない。從來××××は自分自身の内容について耳を聳らすために世界史的な懷古を必要とした。十九世紀××××は、それ自身の内容に到着するために死者をして死者を葬らしめねばならぬ。其處では内容に関する言葉が問題であつたが、此處では内容が言葉を超えてしまつてゐるのである。」

ソヴェート同盟に於ける××××××××が資本主義の××××群の怒りに満ちた怒聲に抗して斷乎としてその途を歩み最早地球上の如何なる力も時代の車を食止めたり逆轉させたりすることを許さないところの、人間相互の社會的關係に於ける偉大な、世界史的な變化を遂行したのは、その偉大な名譽ある行爲の一つである。この××××がブルジョア××××のやうに二つの戦線、それを引戻さうとする舊い封建社會と、それをそれ自身の目標を超えて押進めようとする××××××××××とから脅かされないこと、この××××が前進と退却との間、臆病な改良の試みと反動の波の常に新たな時代との間に投込まれないことは、プロレタリア××××顯著な點である。かうしたことはプロレタリア××××の少しも知らぬところである。プロレタリア××××××××するや、舊社會の束縛を脱ぎ棄てる、ブルジョア××××のやうに自分の力を發展させて行く過程に於て再びそれを刺戟せず、更にその過程の中に於て壓殺してしまふ——それは、ブルジョアが維持し得ないことを暴露したその既得權を再び拋棄することなく、常に新たな、偉大な成果ををさめる。プロレタリア××××が一たびプロレタリアートの××××××とるや、それは不斷に、且つ抑え難く突進せねばならぬ、常に前方に眼を向け、決して過去を振り返つてはならぬ。確かにこの大膽な途上にも前進のテンポに差異はある、立止まりも息抜きもある、確かに時々迂回もある、けれども全體の方向に於ては人間的生存のよりよき、より高い内容を目指してゐるのであつて、この障礙によつて少しも變らないのである。資本家の御用記者が「立往生のボルシェヴィズム」に關して如何に屢々歡呼の聲を擧げたことか、彼等が「方向轉換」に關して如何に屢々歡呼の聲を擧げたことか、また彼等が如何に屢々、短期間の後に悲みと怒りとを以て所謂方向轉換や立往生がまたしても何でもなかつたことを認めねばならなかつたことか。

(二) 失業問題

二三三

今日では全世界が、ソヴェート同盟は最早失業者がない、そして將來もないであらうといふことを知つてゐる。ソヴェート同盟では工業プロレタリアートの増加と共に、今日すべての資本主義國に於て解決出来なくなつてゐる失業の問題も規整されてゐる。その際資本主義諸國に於ける失業問題は、その原因から言つてもまたその内容から言つても、ソヴェート同盟に於て二三年前まであつた失業問題とは全く異つたものである。資本主義諸國では幾百萬の失業者大衆はブルジョアジーが機械や生産手段が餘つてゐるにも拘らず最早その賃銀××に仕事もパンも與へ得ないために仕事がなく、解雇された工業労働者である。これに反してソヴェート同盟では二三年前まで存在した失業者は全く、農村が都市に送り出した人口増加からなつてをり、それらのものは機械や仕事場が足りなかつたために、まだ仕事を待すにゐたのである。

吾々はもう一度、三億七千萬の人口を有する全ヨーロッパに於て年に僅か二百五十萬、即ち〇・六七%しか増加しないのに對して、一億六千萬の人口を有するソヴェート同盟に於ては人口が年に三百五十萬人、即ち二・三%も増加することを指摘する。資本主義諸國は例へばイタリー、ポーランド、全バルカン諸國、半フアシスト的・及び全フアシスト的接懐(ソヴェート同盟との一譯者)諸國等の如く、その過剰人口の大部分を外國に送り出す。ソヴェート同盟はその存立以來未だ一人の勤勞者をも他國に送つたことはない。而して二年前にキリスト教の使職説教師によつて移住させられたドイツの大衆さへ、間もなく再び歐米の「文明」の資本主義的恩恵に背を向けて、大部分ズツ前に再びソヴェート同盟へ來てゐる。確かにソヴェート同盟も「人間」を送り出した、——プロレタリアの國で要らなくなつた層を。ソヴェート同盟は、工業家、大地主、貴族、資本家、大商人、××××××××××、××××××××××、××××××××××その他勤勞人民××××××××××、今日彼等の天賦の「文化的本性」を持つて押込××××××××××として、紳士××××××××××××者としてワルソーヤバリでその資本主義的××××××××××同僚的な寛容と大まかな迎合との下でその仕事を續けてゐる人

達を國外に送り出した。

舊ロシアの「××」にして排他的な「尊敬すべき社會」は亡命地でやがて社會的犯罪者から刑法上の犯罪者に變り、ヨーロッパのキリスト教諸國でその昔慣れた××商賣を色々な形で續けてゐる。労働者政權の國に於ては、舊キリスト文化世界のこの「尊敬すべき社會」のためには最早座席も活動領域もない。西歐の尊敬すべき社會はその商賣仲間や宗旨仲間を喜び迎へるべきである。

一九二四—二七年にはソヴェート同盟に時には二百萬以上の失業者があつた。五ヶ年計畫の開始以來それは急激に變つた。ソヴェート同盟の労働局に於て見られた最近の労働力の需要と供給との關係を見るに、——労働力の供給一〇〇に對し持續的若しくは臨時的労働の次の如き需要があつた、——

一九二七—二八年上半期……………九四・五

一九二八—二九年上半年……………一二八・四

一九二九—三〇年上半年……………一七四・七

この數字から、五ヶ年計畫の開始(一九二七—二八年)當時はなほ労働力の供給の方がその需要よりも大きかつたことがわかる。然し一九二八年には既に著しい労働不足が現はれ、それは絶えず高まつて行つた。労働力に對する需要は一九三〇年及び一九三一年は一九二九年よりもつと大きかつた。(註)

(註)二三年前社會フアシスト的誹謗者共はその機關紙の中で、ソヴェート同盟は失業手當を廢止し、それと共に失業者を餓死に曝したといふ報告を擧げた。實際はどうであつたか？失業は既に述べた理由からソヴェート同盟では清算されてしまつてゐた。それは最早存立しなかつたのである。國家豫算では失業手當に一億五千萬ルーブル以上も豫定されてゐた。そこで政府は、この額を簡単に資本主義諸國に於けるブルジョア政府の處方箋通りに「節約する」ことを決議せず、この額を更に幾分の不熟練労働者に與へるために使つた。これがソヴェート同盟に於ける失業手當廢止の真相である。然し社會フアシスト共は、ブリーニング政府やウイツセルの布告による失業手當××××に際しての彼等の恥づべき態度を隠蔽するために誹謗せねばならなかつたのである。

ソヴェート同盟は熟練労働者幹部を養成するために一九二九年に二千萬ルーブル、一九三〇年に八千萬ルーブル使つた。工場及び経営見習の占める分は、一九三〇年の終りに五六七、〇〇〇人であつたが、一九三一年の年平均分前は一、〇一六、〇〇〇人の工場及び経営見習であつた。工場見習のための支出は、一九三一年には二億四千萬ルーブル(原案では九千五十萬ルーブルであつたが)であつた。

然し、農業國を工業國に變へる費用は、此處に擧げた熟練労働者の養成のための額で盡きはしなかつた。熟練工業労働者の不足から、最も近代的な経営、最も熟練を要する生産が皆工場で働いたことのない全く新しい労働力で動かされたといふやうなことも屢々であつた。或る期間さうした工場で高い割合で屑物や悪くなつて使用出来ない商品が出、後永くやつてゐるうちに、大きな困難を克服して漸く経営が機能し出し、正常的な仕事をやるやうになつた。(註)ブルジョアの觀察者は、資本主義經濟が社會主義經濟に遙かに優つてゐるといふ證明を與へるために、或はソヴェート體系が崩壊するに違ひないことを證明するために、この困難やかうした事情をよく報道することを心得てゐる。然しその後發展の歴史は、資本主義體系が社會主義體系へ優つてもゐなければ、この周知な困難からソヴェート體系が崩壊するものでもないことを示した。こゝに現はれたことは、新しい社會體制の建設と不可避的に結びついてゐる出費に他ならぬのである。

(註)この種の有名な例は、スターリン、ゲラシド、トラクター、工場の経営開始である。この経営はアメリカの技術の最高級の設備を有し、六分毎に一臺のトラクターを、即ち六時間交替の中に七十臺のトラクターを供給する管であつた。経営と作業を開始するために、幾百名のアメリカ技術者、技手、親方、専門家、職工長、調整工、専門工が長い契約で雇はれ、またドイツの多くの専門工が呼寄せられたにも拘らず、経営は一年近くも機能しなかつた。時折二臺乃至三臺のトラクターが供給され始め、それから十臺乃至二十臺のトラクターを供給したが、時には一臺のトラクターも供給せずに日中全く休無しにゐたこともあつた。この状態は、ソヴェート同盟の全く輿論がこの拒否(経営が用をなさないこと——譯者)に向けられるまで續いた。「ブラウダ」その他ソヴェート同盟の全新聞は、この経営の拒否に對して幾週も激しい闘争を行つた。工場指導部や従業員(この経営の経営委員等)個々の労働者は

新聞紙上で態度を決定した)も、この拒否の原因をなしてゐる誤謬や缺陷を公然暴かねばならなかつた。後に仕事を改善するため提議がなされてから、経営は漸次正常的に、益々少い障害で廻轉し始めた。一年半の試験の後、確定された模範、正常的な仕事の能率が達せられた。今日ではこの経営は、一交替七十臺のトラクターといふ計畫通りの數を供給してゐる。

吾々は、資本主義諸國に比してソヴェート同盟に於ける失業の問題のこの例で、プロレタリアートがブルジョアジー×××自ら支配階級となつたときに何をなし得るか、如何なることを成し遂げ得るかを示した。その際、ソヴェート同盟で成し遂げられた偉大な變化は、一億の農、民人口と僅か千百萬の労働者を持つこの大國に於て巨大な困難と抵抗とに對して闘はねばならぬプロレタリアートが何を創造し得るかを示してゐる。だが、ドイツのやうな工業國に於てプロレタリアート×××××つたら、先づ何を成し遂げ得るか? ドイツのプロレタリアートが×××××つたら、人間の歴史にかつて想像されなかつた、未だ見られなかつた工業、技術、國民經濟及び全社會的進歩の巨大な成功を獲得し得るし、また獲得するであらう。その高度に發展して組織能力を持ち、その高度な技術的教養と實踐とを持つドイツの労働者は、資本主義の束縛から解放され、彼自身の階級のために社會主義建設の仕事に無限の創造力を以て働いたならば、社會的活動と文化的進歩との驚異すべき仕事を成し遂げることが出来る。

失業は今日勤勞國民大家にとつて最も怖るべき災禍となつた。それは資本主義的生產體系と經濟體系とを益々袋小路に追ひ詰めてゐる。未曾有の規模の世界經濟恐慌である現在の恐慌の如き恐慌に於て一時的失業者の大軍が生れることが問題であるばかりでなくて、資本主義に於てそれがその労働×××を最早維持し得なくなつた時代が始まつたことが問題なのである。カール・マルクスは既に「×××××」に於て、それと共にブルジョアジーが社會の支配階級として止まる事が出来なくなる時代が始まることを指摘してゐる。「×××××」にはこれに關して次の如く言はれてゐる——「此處に於て公然、ブルジョアジーが××××××××として止まる事が出来ないことが暴露される……彼等は、その××××××××××の内に於てさへ生存を保證することが出来なくなつてゐるからして、支配することが出来ないのである……」

たゞ最も残酷な、最も殺伐なフアシストの×××××、×××××、×××××、×××××、×××××、×××××、×××××、×××××、×××××、×××××、×××××の手段を以てしてのみ、ブルジョア階級はなほ×××××辛ぶじて××し得てゐるのである。失業を益々望みなき慢性的なものにしてゐる資本主義のこれらすべての×××××から解放されて、ソヴェート同盟は永遠に残りなく解放されてゐるのである。

五、賃銀

(1) 賃銀體系に關する原則

資本主義的社會體制は賃労働の上に、賃銀×××××の上に基礎を置いてゐる。賃労働は、労働者が×××××、彼がその労働力を生産手段の所有者に、資本家に賣る——然らざれば彼は餓えて了ふ——ことによつてのみその生計を立て得る無産者であるといふ前提を持つ。その中にこそ、死ぬかそれとも自らを賣るかの彼の「自由」があるのである。

「それ故、生産的労働者といふ概念は決して單に活動と効用との間、労働者と労働生産物との間の關係のみを含むものではなくて、労働者に資本の直接的利用手段たる刻印を押すところの特に社會的な、歴史的に發生した生産關係をも含むものである。それ故、生産的労働者たることは決して幸福ではなくて一個の不運である。」〔資本論「第一卷」第十四章〕

資本主義的生産方法が支配してゐる限り、労働者は××××××××××れる。労働者の×××××上に實に資本主義社會といふ建物が建てられてゐるのである。だが労働者階級の社會的存在は賃銀×××××によつて決定される。労働者はこの賃銀×××××の下にあつて常にたゞ×××××對象に過ぎず、資本主義的生産、剰餘價值生産の目的に従屬せしめられてゐる。労働者の存在理由は、資本主義の下では彼が一個の商品、それなくしては資本主義社會が考へられぬ商品、労働力と

いふ商品を持つてゐるといふことに基礎を置いてゐる。労働力といふ商品の價格は、他のすべての商品と同じく、需要と供給とによつて決定される。(註)今世界經濟恐慌の下で際限なき賃銀切下げに觀られる如く、賃率契約もそれを少しも變へはしない。だが労働力といふ商品はなほ、それが労働者の身體に結びついてをり、彼がその労働力を賣つてゐる間は彼自らも労働力の把握者として賣らねばならぬといふ厄介な特質を持つてゐる。労働者は彼の持つ唯一の商品を、×××××を賣ることなしに賣ることは出来ないのである。此處に彼の×××××、資本主義の下に於ける×××××の根源が横はつてゐるのである。

(註)此處では労働力の價格が問題ではなくて、労働力の價格としての賃銀が問題なのだといふことがわかる。マルクスはこれに關して「資本論」第一巻で注意してゐる。——「全體として賃銀の一般的な動きは全く産業の景況の週期的交替に應ずる産業豫備の擴大と縮小とによつて規整される。」〔資本論「第一巻」三五九頁〕

労働力といふ商品に對する商品市場のこの法則は社會主義の下でも通用するか？ 否！ 労働力は社會主義的生産關係の下では、生産手段が最早或る××階級の獨立的財産ではなくて、生産者自身の社會的財産であるから、その商品的性質を失ふのである。商品市場が使用財貨の價格を決定するのではなくて、計畫的に規整された欲求經濟がそれを決定するのである。同様に「賃銀」即ち労働能率に對する等價物も計畫的に社會の富に從つて規整される。(註)それ故、資本主義の下で盲目的に支配するところの、無政府的な、生産關係の規整の法則は、社會主義の下では最早存立しないのである。従つて社會主義の下では、賃銀は資本主義の下に於ける如く労働力といふ商品の價格ではなくて、計畫經濟によつて規整される社會的労働者の分前である。社會主義の下に於ける賃銀の性質は、その經濟的法則及びそれと共にその社會的内容を根本から變へてしまふ。それと共に賃銀の發展は社會主義の下では全く異つた途を進み、全く異つた——吾々は言ふことが出来る、垂直に對立した經濟法則に從つて遂げられるのである。

(註)一九三一年十月中に例へば嶺山労働者、冶金労働者、運輸労働者等の賃銀は全く本質的に高められ(嶺山労働者は七ループルから十三ループルに、等)同時に生活資料、衣服、靴等二五%乃至三〇%引下げられた。何處の資本主義國でも政府若しくは他の

方面でさうした方策は遂行され得ない。

資本主義の下では如何なる貨幣の経済的法則が行はれてゐるかをもう一度想起しよう、——生産力が多く且つ高くなればなるほど、そして生産量が上れば上るほど商品の価値、特に労働力といふ商品の価値は下る。この理由から一般的法則として次の如きものが生れる、——生産力が發展すればするほど、富が容易に生産されるやうになればなるほど、そして社會が富めば富むほど、労働者階級の困窮と窮乏とは増し、労働者階級は資本主義の下に於て益々鋭くその生計を脅やかされる。

この経済法則は社會主義の下でも支配するか？ 否！ 此處に支配する法則は正にその反対である、——生産力が發展すればするほど、富が容易に増加するやうになればなるほど、資本主義の下に於ける如く、 $\times \times \times \times \times \times$ 、少数者 $\times \times \times$ によつて領有されずに労働する者の全社會の使用と利用とに供せられる社會的生産物も大きくなる。それ故、社會が富めば富むほど、社會主義の下ではすべての労働者に對する「貨幣」は高まり、労働者の生計は益々保證され、よくなるのである。

資本主義社會では餘剰価値は資本利子、配當、地代、商業利得等の形で労働せざる、生産手段の所有者のポケットに流れ込み——社會主義の下では全社會の餘剰生産物は生産者に歸し、それがやがて社會的施設として、社會の富として生産に關はるすべてのものにその生活状態やその文化財を増すために利用される。

此處に述べられた資本主義と社會主義との間の對立は、社會ファシズムの最も痛い所である。それは、第二インタナショナル及び黄色アムステルダム・インタナショナルの理論家達は、この領域に於けるマルクス主義の「反駁」に主力を集中する。先づカール・マルクスをして言はしめ、それから社會ファシストの「理論」がそれに對して何と言つてゐるかを見よう、——

「然し剩餘價值生産のすべての方法は同時に蓄積の方法であり、蓄積の擴張はすべて逆に剩餘價值生産の方法を發展せしめる手段である。そこで資本が蓄積されるに應じて、労働者の状態は、その支拂が高くなるとも低くとも、悪化

せざるを得ないことになる。」「マルクス、「資本論」第二十三章。

「資本の蓄積はそれに應じた窮乏の蓄積を條件づける。従つて一極に於ける富の蓄積は同時に對極、即ち自身の生産物を資本として生産してゐる階級の側に於ける窮乏、労働苦、 $\times \times \times$ 、 $\times \times \times$ 、 $\times \times \times$ 及び道德的頹廢である。」「(マルクス、同上)。

これをマルクスは資本主義の一般的、絶對的法則と名付けた。それは貨幣 $\times \times$ 制の上に基礎を置く資本主義的生產方法の自然的、強制的法則である。貨幣 $\times \times$ 制の下に於ける労働者の状態の決定的な點は、労働者が彼の生産した、そして彼のみが生産した社會の富に對して何等の分前をも得ることが出来ないといふことである。彼がその労働に對して等價物として受取るもの、彼が貨幣として受取るものは、労働力を社會のため、資本主義のために維持し、且つ繰返すため——資本主義の存立に必須なる彼の階級の生産及び再生産のための、彼の労働力の價値の代償に他ならない。

これがプロレタリアートの階級地位であるといふことを、ブルジョア及びその御用學者等はあらゆる手段を用ひて争はうとしてゐる。マルクス主義に對する彼等の闘争は就中貨幣 $\times \times$ 制とその原因に關するこの $\times \times \times$ 學說に向けられる。而してこの資本主義的 $\times \times$ に關する此處、この根本學說の克服に於てマルクス主義の一切の敵は手を握つてゐる。ファシストも社會ファシストも此處、マルクス主義の根本學說に對する闘争に於て全く一致する。差異はたゞ、ファシストが自分等はマルクス主義 $\times \times$ であると公言するに反して、社會ファシストが「マルクス主義」と自稱し、マルクスをたゞ「補足」しようとし、或ひは現代に適合させるために「修正」しようとしてゐるといふ點だけである。

マルクス主義の敵が出發點としてゐる基礎をなすものは、彼等が階級對立と階級闘争とに關するマルクスの學說に對立させてゐるところの階級調和に關する「學說」である。この階級調和は「労働給與者」と「労働受容者」との、資本家と労働者との明瞭な依存性から來てゐる、それは自然的に與へられたものである、といふのである。資本家と労働者とは生産に於て一緒に働き、それから獲得された生産物を「正當に」分離することを強制されてゐるといふのである。多く生産されればされるほど、多く分配され得る、従つて労働者は資本家と同様、出来るだけ多く生産することに同じ

利益を有つといふのである。資本家と労働者との利益は対立するものでなく一致するものであり、且つ同一であるといふのである。(註)

(註)ファシストのゲッベルスは「攻撃」紙の中で言つてゐる、——
「確かに獲得された利得はそれを創り出した者に歸する。兩者の労働力の供給者は生産手段の供給者が經濟利得を創り出したのであるから、それはまた彼等の間に分配せられることを義務づけられてゐる。」

「社會民主黨の「理論的燈火」の一人、社會ファシストのブラウンタールは言つてゐる、——

「勿論、生産されたより多くの物は分配され得ない、而して多く生産されればそれだけ、多く分配することが出来る。それ故、労働者が出来るだけ生産を高めることに利益を有つてゐることは疑ひない。」

従つて吾々は、破廉恥にも「マルクス主義者」と自稱してゐる社會ファシストのブラウンタールが斷々乎として、ファシストのゲッベルスが言つた結論を引出してをり、マルクスの教へたことと戦つてゐるのを見るのである。彼のこのファシスト的理論を強調するために「マルクス主義者」ブラウンタールは言つてゐる、——

「従つて最も狭い意味に於て生産行程に参加してゐるもののみが、労働者としてであれ、生産手段或ひは土地の所有者としてであれ、原始的収入を得るのである。」

従つて資本家と労働者との間の關係を、資本主義的生產關係の下に於てさうである如く、 $x \times$ 關係及び賃銀 $x \times$ 制に見えないやうにするためにこの社會ファシストは資本家及び地主を「生産行程の参加者」に變へ、資本家の収入をマルクスが證明した如く不拂労働から引出して來すに、それを「原始的」収入と呼んでゐる。この際このブラウンタールには勿論すべての労働者と同じやうに生産手段の所有者がブラウンタール氏がマルクス主義と關係してゐると同じく生産に關係せねばならぬことを知つてゐるのである。……「何となれば、その中で働いてゐるのは獲得せず、この中で獲得するのは働かないからである……」「マルクス主義者」ブラウンタールはカール・マルクスの有名な書物「 $x \times x \times x$ 」の中にこの些細なことを見逃したとでもいふのか？

吾々は社會ファシストのこの理論を、たちどころにその矛盾を認識するためにのみ必要とするのである。何處で、そして何時、労働者と労働供與者とが、工場の中で「一緒に」生産した生産物を分配したといふのか？ モーターが生

産されると假定し、それから一日に一臺のモーターが完成するとして、双方各々その一部分づつを得、双方、労働者と資本家とが満足して家に歸るといふのか！「そんなことを考へてゐやしない」、——吾々はブラウンタール氏やネルティング氏が抗議するのを聞く、「吾々は勿論社會的生產物、即ち各階級力に應じて『共同者』若しくは『契約の相手方』から勝ち獲るところの全體的商品生産のことを考へてゐるのだ！」それを社會民主黨の理論家は「政治的賃銀」と呼んでゐる。さて、この「政治的賃銀」なるものがどんなものであるかを見よう、——「多く生産されればさほど多く分配され得る！」それは中つてゐるか？ このテーゼが既に中つてゐない。現在の世界經濟恐慌は、多く生産され過ぎた——即ち資本主義的商品市場にとつて多く生産され過ぎたからこそ起つたのであり、従つて今ではこの商品量を生産したものに何れも「分配」されてゐないのである。「社會的生產物の分配」に關するこのテーゼが資本主義的現實に、即ち眞理と合せしめられねばならぬとすれば、それはかうでなくてはならぬ、——「資本主義の下で多く生産されればされるほど、社會的富が増加すればするほど、生産者（即ち労働者）の間には益々少しか分配されない！」このマルクス主義の學説は、どの労働者も實踐に於て感じてゐるところの資本主義的現實に合してをり、その逆の、ブラウンタール氏やネルティング氏の理論はそれに合してゐないのである。

だが、賃銀労働者と資本家との依存性を證明しようとして「労働者と企業とが利得を分配する！」と主張する公然のファシストの理論も亦これに劣らず無恰好なものである。勿論——そしてこのことはどの労働者も自分から知つてゐるところだが——このテーゼも「生産物の分配」に關するテーゼと同様に失敗である。ファシスト的企業家——而してさうした企業家はほんたうに山ほどゐる——で今までにその經營の利得を「その」労働者と分配した者は一人もゐない。賃銀は決して剰餘價值の不變の部分ではなくて、最初の資本の變化した一部分である。資本家は、それによつて先づ剰餘價值を、而してそれと共に企業家利得を、得るために、一部分賃銀として支出された資本を動かす。資本家はその得た利得の中から一文の賃銀も支拂はずに、彼は利得の一部を——彼がそれを他に使用しない限り——再び資本に變へるが、もつと高い利得を得るためばかりにさうするのである。賃銀の高さは、同一の條件の下では少しも變へられはしな

い。資本家は、彼が労働力を利用し得る限りに於て、即ち労働力が彼へ利得を齎す限りに於て、それを買ふのであつて彼が労働者から××取つた利得を後で労働者と「分配する」ことなど彼の思ひもよらぬところである。然しファシストや社会ファシストは、共に表面は労働者と労働給與者によつて「共用で」生産される如く見ゆる社会的生産物若しくは利得の「分配」に關するさうしたお伽噺を工夫し出さねばならない、さうしなければ資本のための従僕としての彼等の商賣はあがつてしまふからである。

然し社会ファシスト共は、彼等がマルクスの賃銀論を反駁し得ると信するほど彼等には「××的に」思はれてゐる異論を持つてゐる。然り、若しそれが眞實だとすれば、何をマルクスは主張したのか、然らば賃銀を高めるための労働組合闘争は如何なる目的を有つのか?—マルクスはこの異論を豫見し、そして彼は答へてゐる、—

「正に近代的工業の發展が益々、天秤を資本家に有利に労働者に不利に押下ねばならなかつたこと、またこの結果資本主義的生産の一般的傾向が平均賃銀を高めずそれを引下げた、即ち労働の價値を多少ともその最低の限界まで引下げたことを示すには、この僅かばかりの暗示で十分である。だが、この體系の下に於ける事物がこの傾向を持つとすれば、それは労働者階級が資本の攻撃に對するその抵抗を断念せねばならぬ、そして生起する機會にその状態の部分的改善のために最善を盡す彼等の努力を抛棄せねばならぬといふことを意味するか? 彼等が若しそれをやるやうならば、彼は最早濟度し難いから、一般大衆と何等異なる飢餓者に墮すであらう、といふことを意味するののか? 私は、私が正常の賃銀のための彼等の闘争は全賃銀體系と不離に結びついてゐる事件であること、百中九十九までこの賃銀を引上げようとする彼等の努力は現在の労働價値を維持する努力に過ぎないこと、そして労働の價値に關して資本家と争ふ必要は彼等が自分を商品として賣らねばならぬ彼等の地位と關聯してゐることを示したと教へる。若し彼等が資本とのその日常の闘争に於て退けば、彼等自身等かの大運動をも企てる能力をも奪はれてしまうのである。」(カール・マルクス、「賃銀、價格及び利潤」)。

吾々はマルクスが、マルクス主義を「労働組合的見地」から「補足」し「修正」すると稱するドイツ労働者同盟の理

論家よりもよく、そして鋭く労働組合的××××のことを考へてゐたのを見るのである。

何故に資本と労働との調和を唱へる社会ファシスト的理論家は恰かも今恐慌時に於て、明かに「デモクラシー」、社会民主黨及び改良主義的労働組合の「政治的影響」の中にその支點を有つてゐるところの彼等の「政治的賃銀」のテーゼのことを想起しないのか? 何故彼等は恰かも資本による絶大な賃銀××の時期に於て、労働者が労働組合××××反對派の指導下に労働組合闘争に關するカール・マルクスの××××學説を追及なしてゐるときに公然たるストライキ破りに移らないのか? それは彼等が、資本主義的賃銀法則に對する決然たる××××××××が全資本主義的××××を残らず××××にはゐないことを知つてゐるからである。而して彼等が恐れてゐるのはこの點である。

此處で残るは、マルクスが資本主義的賃銀體系について言つたこと、そして今日どの労働者も身に感じてゐることである、—

「市場の景氣が悪くたれば、労働者は餓え、乞食し、盗み、救貧院へさへ行く、景氣がよくなれば、彼は生産を擴張するために労働せねばならぬ——そして……の限りに於て——だがこのことは既に再び狂暴なる過剰生産の時代を豫定してゐるのである。」(同上)。

これがマルクスの唱へる、生物若しくは利得の「正常な分配」など少しも知らぬ資本主義の賃銀法則である。マルクスはこの、社会民主黨の綱領の批判(一八七五年)で言つてゐる、—

「賃銀労働者は彼自身の生活のために働くことを許されてゐるだけである、即ち或る期間無償で資本家のために働く限りに於て生活することを許されてゐるだけであること、全資本主義的生産體系が労働日を延長することにより、若しくは生産性を發展せしめ、或ひは労働力を一層緊張せしめる等によつてこの無償労働を引延することを主眼としてゐること、従つて賃労働の體系が××××の、而かも、今労働者の受ける支拂がよくとも、悪くとも労働の社会的生産關係が發展するにつれて苛酷になる××××の體系であることは、……」

これが資本主義的賃銀體系に關するマルクスの學説であつて、その正當性と眞理とは今日ではどの労働者も、ファシ

ストや社会ファシストが睦まじさうに教へる資本家と労働者との間、ブルジョアジーとプロレタリアートとの間の階級利益の協調に關する破廉恥な嘘言と同じやうに、明瞭に身を以て感じてゐるところである」(註)

(註)社会ファシズムが何處まで深く身を墮してゐるかは、ドイツ労働總同盟によつて發行された「國民經濟講話」がこれを示してゐる。第四講、第十七節に曰く、――

「今日では關係が本質的に變つた。企業家と労働受容者との間に賃率契約を結ぶ法律關係が創設された。吾々は今日では、一般に最早の企業家による労働者の×××口にするのは出来なくなつた。」

この穢らしい従僕の言葉で、ドイツ労働總同盟の社会ファシスト共は、労働者に對する如何なる虚言、最も馬鹿げた虚言や最も破廉恥な欺瞞をさへ躊躇しない。これらの理論を弘めてゐるブラウントールやヘルテイング教授は、ドイツ労働總同盟の學校の教師で、彼等はこの學校のために「科學」讀本を發行してゐる。この反マルクス主義的理論の根本的論駁をH・リンデの「社会民主黨の賃銀理論と賃銀政策」(リテラトゥール・ウント・ポリテイク刊)がやつてゐる。

吾々は、資本主義の賃銀×××と社会主義的賃銀體系とが形づくつてゐる非妥協的な對立を説明するために、先づ資本主義的賃銀體系に關するこの學說を明かにして置かねばならなかつたのである。

ロ ソヴェート同盟に於ける賃銀動態

×××の目指すところは、社會的富を生産するがこの富の分前に與する者×××××××に於てこの社會的富を領有する者のない、×××××××の下では、搾取者もなければ被搾取者もない、抑壓者もなければ被抑壓者もない、他人の労働の利用者もなければ労働×××もない。×××××××の下ではたゞ共同して働くもの、共同して享樂するものがあるのみである。それ故、×××××××下ではまた労働者がその労働力を商品として他人に賣り、それに對して賃銀を受取る賃銀體系もなく、此處では、――「各人その能力に從つて働き、その欲求に從つて得る」といふ法則が支配する。各人その精神的及び肉體的能力に從つて社會的生產に對する分前を得――萬人共同して社會的總生産物を創り出し、

そしてこの共同的生産物の中から彼の物質的及び精神的欲求を充たすに必要な分前を受取る。從つて、最早資本主義的賃銀體系の意味に於ける「賃銀」は問題にならない――だがまた同様に、ブルジョアの概念による利潤或ひは地代、利子或ひは何等かの「權限」からの「儲け」または「收入」としての他の收入も問題にならないのである。生産者は×××××社會に於ては賃銀ではなくて、生産者自身の共同體によつて創り出された社會的生産物に對する分前を受取るのである。社會的労働に参加しないものは、社會的生產物に對する何等の分前をも要求出来ない、或ひは、――働かざるもはまた食ふべからず！である。

「だがソヴェート同盟でもたゞ賃銀體系が支配してゐる！」と人は異論を立てるであらう、「そして最早それに基づいて×××少數者が富むことの出来る資本主義の下に於ける如くではないにしても、なほ一個の賃銀體系があつて、其處では労働者はその欲求に從つて生活することは出来ないのだ！」然り、これは當つてゐる、だがまた何ひともソヴェート同盟に既に×××××××が成立してゐるとは主張してゐない。ソヴェート同盟は五ヶ年計畫の成功と共に「×××××の段階に」入つた、――ボルシェヴィズムの指導者はソヴェート同盟×××第十六回×大會に於てかう宣言した。それは然し、ソヴェート同盟で×××主義社會の第一階段に過ぎない社會主義が既に完了してゐるといふことではない。同志スターリンは第十六回×大會で言つてゐる、――

「吾々が既に社會主義の段階に入つたことは明かである、何となれば、社會主義社會の完全な建設と階級對立の除去とは前途なほ遠遠なりと雖も、社會主義的部分が全國民經濟の一切の經濟的槓杆をその手に握つてゐるからである。」カール・マルクスは正に賃銀體系の領域で×××主義社會の二つの段階の差異を強調した。一八七五年の×綱領に於てドイツ社會民主黨は「労働收益の正當な分配」といふラツサールの命題を採用した。この命題に對してマルクスはその有名な「標註」の中で論争し、如何なる生産關係(そしてそれと共に社會體制)に對してこの原則が當該めらるべきかといふ問を提起してゐる。彼は、それが資本主義に對して通用せしめられる限りに於てこの命題を片付けてしまつてゐる。それから彼はこの命題が×××××の第一階段、社會主義に對しても通用せしめられ得ないことを示してゐる。此處

きが廣汎に除かれた極めて激しい労働をしてゐるドネツ盆地の鑛山労働者の賃銀が、例へば、比較的樂な仕事をしてゐる食料品産業の労働者のそれと簡単に平等にされてゐた。或ひはまた、高い要求を課せられてゐる熔鑛爐の労働者も、比較的困難ならざる仕事をする加工工業の金屬労働者と略々同額の賃銀を得てゐた。同様にまた、熟練した、練磨された専門労働者と不熟練の、農村からやつて来たばかりの労働者との間の賃銀の差を廣汎に除去するといふ誤謬が犯された。此處では特に、トムスキーの下の右翼の者によつてこの非マルクス主義的方向に於て行はれた誤つた労働組合政策が影響した。

賃銀のこの誤つた平等化の宿命的な結果は觀面であつた。

賃銀平等化を止め、賃銀を段階づけることのみが、唯一のマルクス主義的な途であり得たのである。×××建設の段階に於ては、ソヴェート同盟は再び、マルクス・レーニン主義と完全に一致する段階的賃銀に移行せねばならなかつた。同志スターリンの有名な演説は、このことを明瞭に示した。

誤謬は今では訂正された。今日ソヴェート同盟では出來高制度若しくはプレミアム制度が行はれてゐて、それによれば仕事に於ける最高の能率のものに對しては最高の賃銀が支拂はれ、その際賃銀は、労働者の熟練程度、労働の質に應じて賃銀が區分されるといふやうに段階づけられる。

だがそこで決定的なことは、賃銀の段階づけが今の賃銀を最高として止めて置き他の労働者の賃銀が引下げられるといふやうなことはないやうに行はれるといふことである。反對でなくてはならぬ。第一に最高賃銀が高められ、第二にソヴェート同盟に於ける全發展がすべてのもの、賃銀、しかも實質賃銀を高める方向に於て進んでゐる。

この方向に於て一九三一年九月に鑛山及び製鐵業に於て新たな賃銀制度が實施された(註)。賃銀は果進的な率で一交替六・二五ルーブルから十三ルーブルまで、即ち一〇〇%以上も高められた。ドイツのどの鑛山労働者若しくは金屬労働者が一交替十三ルーブル、即ち二十六マルクも取つてゐるか!その際を押し置かねばならぬのは計畫が遂行され、追越されるに應じて賃銀も高まることである。資本主義下に於けることは反對に×××建設にあつては賃銀率は如何な

る點に於ても、労働者階級に不利にではなく労働者階級に有利に作用する。労働能率の大きなものには高い賃銀が支拂はれ、賃銀の全般的傾向は上向的であり、不熟練労働者はあらゆる方法を用ひて熟練するやうに促され、新労働者幹部をつくり出す過程は急速なテンポで行はれてゐる。

(註)一九三一年十月一日より效力を發し、一九三二年一月一日までには他の産業部門にも適用される商工業のための規定には就中次の如く述べられてゐる、——

製鐵業に於ては労働者は果すべき任務の最初の三分の一に對しては正常の賃銀を受取り、第二の三分の一に對しては二〇%多く第三の三分の一に對しては五〇%多く、そして計畫された量一口の各單位當り一〇〇%多くの賃銀を受取る。(例へば或る熔鑛爐労働者が三二四噸の鐵を産出することになつてゐるとすれば、彼は最初の一〇八噸に對しては一噸につき二・八コベツク、第二の一〇八噸に對しては一噸につき三・四コベツク、そして最後の二〇八噸に對しては一噸につき四・二コベツク受取る。計畫で豫定された三〇四噸といふ量を超える物に對しては一噸毎に五・六コベツクづつ受取るのである。)更に機械をよく始末し、世話したとか、熔鑛爐を均等的に働かせたとかいふものに對しては、プレミアムが支拂はれた。高度の熟練を有する労働者や、困難な、若しくは健康に有害な労働をやるもの、賃銀は正常の賃銀の二八〇%に達してゐたのであるが、今や三七〇%まで高められた。熟練の度に從つて段階分けがなされたとは獨立して、基本賃銀も三〇乃至一〇〇%高められた。

鑛山では基本賃銀が一般に三〇%高められた。賃銀支拂に十二段階つくられた。率は次の如く分けられてゐる。——基本賃銀の四三%引上、果進的に段階づけられたプレミアムは五三%支拂。突撃隊の組織ははかに突撃隊の共同の儲けの五%だけの割増を受取り、固定して五十ルーブルのプレミアムを受取る場合もある。

労働者は日々その賃銀の高さを開込む権利を有してゐる。

明瞭に注意して置かれなければならないのは男子の労働と婦人の労働との間に何等特別の區別が行はれてゐないといふことである。此處では、——同一の労働に對する同一の賃銀の原則が行はれてゐる。

その外形に於ては×××のソヴェート同盟に於ける今日の賃銀制度も資本主義の下に於けるそれと類似してゐるがその内容、本質及び性質に於ては資本主義下の賃銀制度と根本的に異つてゐる。

ソヴェート同盟に於ける賃銀制度は、資本主義の外界に對する最も×××の現在の時期に於てはソヴェートのプロレタリアートの×××集中の條件×××せしめられてゐる。この時期に於てはソヴェート政權は國の生産力を最も急速なテンポで發展せしめ、國の一切の財寶を×××建設に利用し、以て無類の短期間に巨大な規模の計畫的工業を樹立し、農業に生産手段を與へる、しかも過去の歴史に見られない程多くを與へることを餘儀なくされてゐる。

従つて、ソヴェート同盟に於ける賃銀制度は、吾々の確言せる如く、プロレタリアートの×××との集中に役立つてゐる。これに反して資本主義の下に於ては、先づ市場關係の偶然的事實が、そして次に漸く階級間の力關係が副次的に賃銀の高さを決定する、而して此處では××××に於て逆の努力、即ち先づ賃銀を無限にひき下げて××××××××××××××××××××、そして第二に賃銀を一切の××××手段を用ひて益々低い水準に押し下げる努力がなされる。

ソヴェート同盟に於ける賃銀の發展は、労働時間の發展と同じく、全國民經濟の生産計畫の中に存在する確固たる計畫に従つて行はれる。而して此處でも直ちに、資本主義諸國に於けるとソヴェート同盟に於けるとの發展の垂直的對立があらはれる。資本主義諸國に於ける賃銀が絶對的にも相對的にも低下してゐるのに、即ち資本主義諸國に於て實質賃銀が益々低下し、社會の全生産物及び全富とに照して相對的に著しく低下してゐるのに、吾々はソヴェート同盟に於て實質賃銀が絶對的にも、社會の富の増加に比例して相對的にも増加してゐるのを見るのである。勿論、賃銀の基礎は×××××發展の時期に於て××××經濟の先行者の水準から、即ち、全××××經濟が資本主義の遺した遺産から始めねばならなかつにやうに、資本主義經濟の賃銀水準から出發せねばならなかつた。

然し、労働行程に對する等價物の性質は先づ第一に國民經濟の一切の要因の範圍内に於けるその特殊の重要性によつて決定される。そのことは吾々が既に賃銀に關する原則的な部分に於て述べたところである。賃銀は社會主義の下では最早労働力といふ商品の價格ではなくて社會的總生産物に對する勤勞者の分前である。社會主義の下で賃銀の高さを決定する國民經濟の決定的要因が相互に如何なる關係に立つか次の表がそれを示してゐるが、この表は同時に×××××下に於ける賃銀の性質に關する吾々のテーゼを證明するものである。労働者數の統計で注意すべきはそれが最高國民經濟會議に直屬する産業の労働者であるといふことである。

新經濟政策時代（一九二一—一九三一年）に於ける労働者及び賃銀

要因單位	一九二一年	一九二六—二七年	一九三〇年	一九三一年	一九三二年對一九三一年對	一九三三—三七年	一九三〇年對一九二一年對	一九三一年對一九二一年對
工業労働者數…千	二,四〇〇	三,一〇〇	四,一七〇	六,一六〇	二六〇	一,七六〇	七三	二六
大工業の労働者…	一,〇九〇	一,五七〇	二,一三〇	三,一七〇	二八〇	一,〇八〇	九七	三〇
大工業に於ける一労働者の生産額(一九二六—二七年の價格のチエルポネツツに表はせる月平均生産額)	一八	二五	三三	四三	二四〇	二四〇	一三	一三
大工業に於ける労働者の賃銀(月平均)	一,二〇〇	一,八〇〇	二,四〇〇	三,一〇〇	二六〇	一,一〇〇	二一	一七
大工業に於ける労働者の賃銀(月平均)ポネツツ	一三	一七	二二	二九	二二〇	一八	一三	一七
大工業に於ける労働者の賃銀(月平均)ポネツツ	一三	一七	二二	二九	二二〇	一八	一三	一七

この表から賃銀が最早労働市場に於ける需要供給によつて決定されずに、それが産業に於ける個々の労働者の生産行程に合してゐることがわかる。この表は同時に労働者數の増加と個々の労働者に對する平均賃銀の増加とを示してゐる。都市及び農村に於ける×××建設の巨大なテンポはソヴェート同盟の労働者階級と勤勞大衆との生計の系統的向上その政治的、技術的及び文化的水準の向上と雁行してゐる。次の表は、個人賃銀のみを考慮し労働者階級の生計の向上を意味するところの、賃銀の著しい常に増大する社會化部分を表してゐないが、一九二七—三一年の年賃銀の状態を示してゐる。

ループルに表はした年額賃銀

二四二

	一九二七年	一九二八年	一九二九年	一九三〇年	一九三一年	一九二七年に對する一九三一年の百分比
調査産業(註)	七七八	八四七	九二五	一〇三三	一一三六	一四六・〇
非調査産業	五六一	六二八	六三八	六七五	六九八	一二四・二
建築	九一一	九四三	一〇〇一	一一〇〇	一一四四	一二五・五
鐵	七七〇	八二一	八八一	一〇三三	一一四〇	一四八・一
其他運輸及び通信	七八八	八五二	九二四	一〇五七	一一〇一	一五二・四
商業及び信用	七三九	七六六	七七七	九二五	九六六	一三〇・七
社會施設及び文化施設	五五二	六四五	七二三	八六五	九五六	一七三・二
其他の労働部門	二七八	二九六	三一五	五〇六	五八六	二一〇・七
農業及び林業	二七四	三〇六	三三六	四九五	六三四	二三一・四
平均	六二四	六八一	七三八	九五九	一〇六四	一七二・一
前年に對する絶対増加	五七	五七	二二一	一〇五
前年に對する増加百分比	九・一	八・三	二九・九	一〇・九

これらの數字は、労働者の平均賃銀が五ヶ年間に七二・一%高まつたことを示してゐる。資本主義の下ではかくの如きは遠く不可能なことである。かくの如き賃銀増加はソヴェート制度の下に於てのみ、資本の権力が労働者階級の権力にかはり、生産手段、土地及び企業が直接的生産者の手中にあり、且つ生産の發展が競争と資本主義的利潤との原則に従つて行はれず、計畫性と勤勞大衆の系統的な物質的及び文化的向上の原則が生産の發展を決定してゐるところに於てのみ、可能なのである。國民收入の分配は、労働者と勤勞農民との物質的状態の系統的

向上のため、都市及び農村に於ける×××生産の擴張のために行はれる。労働者階級が國の主人となつて居り、彼等が資本家のためではなくて自分自身のために働いてゐるところのソヴェート同盟に於てのみ、賃銀のかくの如き向上が可能なのである。

ループルに表はした月額賃銀

一九二七年に對する一九三一年の百分比

産業別	一九二七年	一九三一年の八ヶ月	一九二七年に對する一九三一年の百分比
全産業	六三・八八	九三・六六	一四六・六
その中、			
炭坑	五六・〇一	八九・八六	一六〇・四
機械製造	七八・五八	一〇九・九一	一四〇・〇
冶金工業	六三・二四	九四・五四	一五〇・〇
電気技術工業	八九・七六	一二八・四五	一四三・一
木材産業	五六・三七	七九・一八	一四〇・四
硝子工業	五一・一三	七八・一二	一五二・八
セメント工業	五八・六四	八一・四四	一三八・八
化學工業	六四・九七	九四・八七	一四六・〇
ゴム工業	九二・三五	一〇五・〇〇	一一三・七
製紙業	五五・二一	八八・二一	一六〇・〇
印刷業	七九・九一	一〇三・九四	一三〇・〇

第五章 労働者の状態

二四三

木綿工業	五二・八七	六九・二二	一三〇・九	二四四
羊毛工業	四九・三〇	七二・八〇	一三二・五	
製麻工業	三九・二四	五三・七八	一三七・五	
食料品産業	六八・四二	八五・七一	一二五・二	
製菓業	六九・四〇	七九・四三	一一四・四	
製革業	七八・二二	九一・八三	一一七・四	

一九三二年十月一日、最高國民經濟會議及びソヴェト同盟労働組合中央評議會の決定に基いて、更に賃銀が次の如く高められた、——製鐵業が二三・五%（労働者四十萬以上）、炭坑一五%（既に一月一日に行はれた賃銀引上げと合すればそれは三五・五%である、鐵鑛業に於ては二九%、コークス工業に於ては二〇%。一九三一年十月、鐵道運輸に於ては賃銀が二二%、水上運輸に於ては一二%高められた。この新たに行はれた賃銀引上げを考慮すれば、工業労働者の平均月額は一九三一年には約九七・五ルーブルに達した。國民經濟の社會化部分のための年額賃銀基金は（共營農場を除く）、國家計畫委員會の計算に従へば、一九三〇年の百三十五億ルーブルに對して一九三一年には百九十二億ルーブルに達した。それは三八・八%の増加である。

なほ一九三一年秋には、賃銀制度が全く新しい基礎の上にたてられた、即ち以前の賃銀制度の代りに、我々が既に述べた出來高拂賃銀が採用された。出來高拂賃銀によつて労働者には、自己の資格向上とイニシアチヴとにより賃銀を十割及びそれ以上に高める事が可能になつた。だが資本主義の下では出來高拂賃銀は一層の×××資本主義的×××最も巧妙な方法であるに反して、ソヴェト同盟ではかゝる悪い性質は持つてゐない。ソヴェト同盟では七時間労働日、四日週、及び労働者保護規定（不斷の醫者の巡回と診察、傳導ベルトにおける各時間十分の休憩——一時間五十分作業——、その他の労働者保護規定）は、資本主義において出來高拂或は賃金制度によつて生じたあらゆる有害な結果の起らぬ様に作用してゐる。

出來高拂賃銀制度とならんで、資格労働ないし資格労働者の制度がある。まさに此の資格労働の領域において、ソヴェト権力は全く特別な事業をなさねばならなかつた。これについては尙後に特別な章で述べるであらう。あらゆる労働者はソヴェト同盟においては、短期間のうちに資格労働者となる事が出来る。それが爲にはそこでは數年の學習を要しない。そして其の資格を向上する様に、労働者を刺戟する様に、賃銀の段階は資格労働者が無資格労働者よりは著しく多くを得る様に按配されてゐる。例へば高資格の金屬労働者の賃銀は、ソヴェト當局の最近の指令によれば、非熟練労働者の賃銀の三・七倍に達する。此の指令以前でもそれは二・八倍であつた。労働者の賃銀の各段階がどんなに高まつたかは、次の表から見る事が出来る。

「鋼鐵」合同の賃銀（一九三一年九月二十日以降）

第一級	三・五〇	一一・五〇—一二・八〇	新
第二級	四・二五	三・〇〇—三・二五	舊
第三級	五・一〇	三・六五—四・一〇	
第四級	六・二〇	四・四〇—四・九〇	
第五級	七・五〇	五・一〇—五・七〇	
第六級	九・〇〇	五・八〇—六・五〇	
第七級	一一・五〇	六・五〇—七・二五	
第八級	一三・〇〇	六・五〇—七・二五	

かくの如くあらゆる等級の賃銀が高くなつた。だが資格労働者の賃銀はより著しく高まつてゐる。かゝる賃銀の段階化は生産力のより速かな發展の一要素であるが、労働力が生産力全般のうち最重要である。

機械製造	三三六〇〇	二四八	六四四〇〇
其他の金屬工業	一二六〇〇	二五	二二〇〇〇
織維工業	三五二〇〇	一一五	四六五〇〇
被服業	一九〇〇〇	七五	一八五〇
公共施設	五八〇〇〇	四三〇	四八五〇
食糧品工業	一一五〇〇	九〇	一九〇〇
木材加工工業	四〇〇〇〇	二五	八二五〇
鐵紙及びグラフィック業	五五〇〇	二五	七五〇
建築業	四九八〇〇	一一〇	四三五〇〇
公營工業	三二二五〇	二二〇	三二二〇〇
運輸	四三八〇〇	一八〇〇	五一四五〇
雜	五六〇〇	三〇	九二五〇
合計	三三八五〇	五二二五	三二二二五〇

一九三〇年の上半期において貸下げは十一萬ポンドに達し、百萬六千の労働者の上に及んだ。
 一九三一年の一月から八月迄に貸下げは二百五十八萬九千の労働者の上に加へられ、三十三萬四千七百五十ポンドに達した。最もひどくやられたのは左の産業部門である。

産業部門 週賃銀切下額(單位ポンド)

機械製造工業	六五六〇〇
運輸業	五一五〇〇

織維工業	四八五〇〇
鑛山業	四三五〇〇
炭坑業	四〇四〇〇

イギリス労働者階級の賃銀基金減少は次の如くである。

平均減少額(單位ポンド)

一九二九年	五七〇〇〇	週あたり	一五〇〇〇〇〇
一九三〇年	八〇〇〇〇	年あたり	四一六〇〇〇〇
一九三一年	一一二〇〇〇〇		一一五〇〇〇〇〇

右の数字は、イギリス××「××」の「労働黨」政府が、貸下げ並びにあらゆる其他の問題についても、決して保守黨のボールドウィン政府にひけをとらぬ事を示してゐる。労働黨の大言した約束は、イギリス労働者階級にとつて反古でしかなかつた。マクドナルドを首班とせる新「舉國一致」政府は、労働黨政府が作成したイギリス労働者階級及び勤勞大衆の生計に對する一層の攻撃綱領を精力的に強行しつゝある。

ドイツでは一九二八年以來、系統的な貸下攻撃が行はれつゝあり、それはクチンスキーが「財政々策通信」に發表した次の報告によつて特徴づけられる。

ドイツ労働者の週賃銀(單位ライヒスマルク約五十錢)

一九二九年	四八・五五	賃率協約による平均賃銀	賃率協約による賃銀の超過額(プラス)	失業による賃銀喪失(マイナス)	租税及び社會保險の掛金(マイナス)	失業手當(プラス)	以上の加減を計算した賃銀上の週
一九三〇年	四・三五						
一九三一年	七・七〇						
合計	一・二五						
一九二九年	四・八五						
一九三〇年	七・七〇						
一九三一年	一・二五						
合計	二・四九						

第五章 労働者の状態

一九三〇年……四九・二〇	一九三五	一九三〇年	一九三一年	一九三二年	一九三三年
一月……四八・七五	一九三五	一月……四八・七五	一月……四八・七五	一月……四八・七五	一月……四八・七五
二月……四八・三〇	一九三五	二月……四八・三〇	二月……四八・三〇	二月……四八・三〇	二月……四八・三〇
三月……四七・八五	一九三五	三月……四七・八五	三月……四七・八五	三月……四七・八五	三月……四七・八五
四月……四六・六五	一九三五	四月……四六・六五	四月……四六・六五	四月……四六・六五	四月……四六・六五
五月……四六・四〇	一九三五	五月……四六・四〇	五月……四六・四〇	五月……四六・四〇	五月……四六・四〇
六月……四六・三〇	一九三五	六月……四六・三〇	六月……四六・三〇	六月……四六・三〇	六月……四六・三〇
七月……四六・一五	一九三五	七月……四六・一五	七月……四六・一五	七月……四六・一五	七月……四六・一五
八月……四六・一五	一九三五	八月……四六・一五	八月……四六・一五	八月……四六・一五	八月……四六・一五

事実上の週賃銀は一九三一年七月では、一九三〇年に對して二割一分、一九二九年に對して三割一分低下した。

此の表及びソヴェート同盟の賃銀に關する先に擧げた表に基いて、一九三一年の最初の八ヶ月におけるドイツの労働者とソヴェート同盟の労働者の一人あたり一日の賃銀を比較するならば、ドイツの労働者の賃銀は（あらゆる割増や差引をいれて）二・二五ルーブル（二圓二十五錢）となるのに對して、ソヴェート同盟の労働者の賃銀は社會化された賃銀部分（社會保險、醫者の診察、住居、教育制度、等）を除いても、三・九四ルーブルに達する。かくの如く貨幣單位に表現されたソヴェート同盟労働者の賃銀は、ドイツ労働者の賃銀よりも著しく高い。それに對して實質賃銀についてみれば、その際には單に社會化された賃銀基金のみならず、次の事情も亦考慮に入れねばならぬ、即ちソヴェート同盟の労働者は統一的な配給所及び公設食堂を通じて、國家が指定した價格でその需要の八割以上をみたしてゐるのであり、そのため生計費はドイツのそれよりは遙かに安いのである。例へば工場食堂における三皿の晝飯は三十五乃至四十五コペック（三十五錢乃至四十五錢）である。

ドイツ労働者の實質賃銀 (クチンスキーによる)

一九二九年……四九・六五	一九二七年	一九三一年
一九三〇年……四七・五五	を百とする	を百とする
一月……四五・三〇	九一・三	九七・六
二月……四四・八〇	八五・四	八九・二
三月……四四・四五	八五・四	八三・五
四月……四四・二五	八五・九	八三・〇
五月……四四・三〇	八四・九	八二・三
六月……四四・五〇	八四・二	八一・七
七月……四四・三五	八三・六	七七・七
八月……四四・三五	七九・五	

(「財政々策通信」一九三一年九月二十七日號)

ベルリン景氣研究所の報告によれば、一九三一年の第二四半期において勤勞者は賃下げと解雇とによつて十二億五千萬マルクを失つた、これは一九三〇年同期に對して一割二分をなすものである。

本年上半期における賃銀基金の引下げは、ベルリン景氣研究所の報告によれば約三十億マルク、クチンスキーによれば四十一億マルクに達する。全賃銀基金は一九三二年の上半期では前年同期に對して二割五分の低下である。一九三二年全體を通じてブリュニン政府は、社會ファシストの支持を得て、その賃銀攻撃を繼續した。社會ファシスト的「フォルゲルツ」紙ですら、織維労働者の賃銀が五割引下げられた事をみとめてゐる。八月十七日以來自治

體使用人の賃銀は一割削減された（既に春には六分減額され労働週の短縮に關聯して、更に八分乃至一割二分減額された。）最近の九月では、ルール炭坑における七分の賃下げに關する仲裁判決が下された。現在「更新せる」一九三一年秋（當時はまだ無名の策士だつたパーベンの策動で、ブリュニング政府の改造が行はれ、内相ワイルドが追ひ出され、國防相グレーナーが内相を兼任し、新たにイー・ゲー染色の代理人ワルムボルトが入閣した——譯者）ブリュニング政府は新たな斷乎たる賃銀攻撃の準備を講じてゐる。

だが資本主義諸國における上述の賃銀切下では労働者の貧困化の全貌を示すものではない。上述の統計では、單に上層の労働者のみを包含してゐる賃率協約賃銀しか問題になつてゐない。更により多數の労働者は、賃銀協約を持つてゐないか、持つてゐるにしても紙の上だけで、實際の賃銀は多くの場合はるかに賃率協約賃銀よりも低いかであるが、此等の労働者の有様は示されてゐない。

ドイツ聯邦共和國保險局の報告に基けば、も一つ別な、兎に角も少しは正しい姿が示される。こゝで問題になつてゐるのは、單に賃率協約賃銀ではたらく労働者のみならず、例外なくあらゆる労働者である。こゝには一九二九年度からの報告しかない、従つて状態を更に一層悲惨なものとしたそれ以後の著しく低下せる賃銀は示されてゐない。

疾病保險局には一九二九年度には、（従つて恐慌が完全に展開する以前だ）總計二千二百三十萬の賃銀及び俸給生活者が被保險者として申告してゐた。そのうち彼等の所得は、

疾病保險局の報告による賃銀高

年一〇〇マルク以下の労働者	……………	三百三十萬	一五パーセント
一〇〇—一八〇マルク	……………	千七百十萬	七七パーセント
一八〇—三六〇マルク	……………	百六十萬	七パーセント

以上から、ドイツ労働者の名目賃銀は、三百三十萬の労働者を平均すれば週に二三マルク以下、更に千七百十萬の勞

働者を平均すれば週に三四・四六マルク以下、最後に百六十萬の労働者を平均すれば、最もいゝ場合で週に六九・二三マルク以下である事がわかる。

千二百マルクから千八百マルクを得てゐるドイツ労働者の主要層（七割七分）をとつてみれば、一九二九年の平均賃銀は千五百マルク即ち週二八・八六マルクの賃銀である事がわかる。

以上の事から、一九二九年におけるドイツ労働者の現實の平均賃銀は、クチンスキーの統計の中の賃率協約賃銀の總括から生じた四二・二〇マルクではなくて、僅か二八・八六マルクに過ぎぬのである。従つて一九二九年以來のあらゆる賃銀減額の後では、一九三二年の現實の平均賃銀も亦、クチンスキーが賃率協約賃銀から計算したものよりは、はるかに低いのである。

一九二九年における二八・八六マルクの平均賃銀に基くならば、一九三一年には賃銀關係は次の如くなる、これは一九三二年の労働組合×××反對派手帳に載つた表で、租稅簿からとつたものである。

月收	一〇〇マルク以下	……………	一六〇〇〇〇〇〇	(二五〇パーセント)
	一〇〇—一二五マルク	……………	六〇〇〇〇〇〇	(一一九)
	一二五—二〇〇	……………	七五〇〇〇〇〇	(一二二)
	二〇〇—五〇〇	……………	二五〇〇〇〇〇	(七)
	五〇〇—一五〇〇	……………	五〇〇〇〇〇〇	(一一・七五)
	一五〇〇—三〇〇〇	……………	七七〇〇〇〇	(二〇・九)
	三〇〇〇—六〇〇〇	……………	一八〇〇〇	
	六〇〇〇—一五〇〇〇	……………	四〇〇〇	
	一五〇〇〇—三〇〇〇〇	……………	四〇〇〇	
	三〇〇〇〇—五〇〇〇〇	……………	六六〇	

五〇〇〇〇マルク以上……………二四〇

二五四

右の表によれば、賃銀及び俸給生活者の尨大な部分は（千六百萬以上）月百マルク以下、即ち週二十五マルク以下しか得てゐないのである。

この際注意すべき事には、租税簿には労働者の賃銀は一厘一文も残らず記載されるに反して、上層の數萬人の収入には税務當局は目をつぶつてゐるのである。労働者や下級使用人からは賃銀や俸給から租税が差引かれるが、これに反し搾取者は自分で『評價』する、即ちいくらの租税を納付するかを自分で申告するのである。従つて大収入或は大財産は全然租税を免れるか、もしくははそのほんの一部に課税されるに過ぎない。かゝる事實についてフェルチナント・フリードはその著『資本主義の終焉』において種々な實例を引用してゐる。例へば彼の報告によれば、クルツプフ・ボーレンハルバツハ一家は二億マルク以上の財産を所有してゐる。此の家族の邸宅はルール地方のエツセンにあり、その租税簿にも記載されてゐる。だがエツセンの租税簿には、合計六千七百萬マルクの財産を有する三富豪しか載つてゐない。數億の財産は租税簿には全然みあたらない。

大収入の統計についても同様である。二億の財産からは、少くとも一千萬マルクの年收がある。かゝる大収入或はより以上のものも、ドイツに（國粹主義新聞の主張をかりれば『貧しいドイツ』に）澤山ある。だが官廳統計ではかゝる貧困については『謙遜に』黙つてゐる。フリードの上述の著書は大収入の統計を載せてゐるが、それには次の如き數字がある。

平均年收 一、五〇〇、〇〇〇マルク……………一四〇人
 五〇〇、〇〇〇……………一、〇〇〇
 一〇〇、〇〇〇……………四、〇〇〇
 一〇〇、〇〇〇……………五、〇〇〇
 一〇〇、〇〇〇……………一〇、〇〇〇

一〇〇、〇〇〇……………一〇、〇〇〇

これによると年收十萬マルクを得てゐる資産家は三萬人ゐるわけである。明かにこれは税務當局の報告から出たのは別な姿である。

だが上記の報告では賃銀は實際に支拂はれた賃銀に従つて計算されてゐる、即ちまだ工場に就業してゐる労働者が得る収入についての報告である。だが労働者の約二割—二割五分は繼續的失業であるから、我々がもし労働者の實際の平均賃銀を確認しようとするならば、更に失業による二割—二割五分の賃銀控除を計算にいれねばならぬ。あらゆる以上の報告を總括するならば、我々はドイツについての収入のピラミッドを見る、それはほゞ次の如くなつてゐる。

ドイツにおける収入のピラミッド

人数	所得者別	百分比	年 收	一日の收入
一四〇	資産家		一、五〇〇、〇〇〇マルク以上	四〇〇〇マルク以上
一〇〇〇	〃		五〇〇、〇〇〇—一、五〇〇、〇〇〇マルク	一四〇〇—四〇〇〇マルク
四〇〇〇	〃		二〇〇、〇〇〇—	五〇〇—一四〇〇
五〇〇〇	〃	〇・四パーセント	一五〇、〇〇〇—	四二〇—五六〇
二〇〇〇〇	〃		一〇〇、〇〇〇—	二八〇—四二〇
一八〇〇〇	〃		三六、〇〇〇—	一〇〇—二〇〇
七七〇〇〇	中間層		一八、〇〇〇—	五〇—一〇〇
五〇〇〇〇〇	〃		六、〇〇〇—	一六・六〇—五〇〇
一〇〇〇〇〇〇	〃		三、六〇〇—	一〇—一六・六〇〇

第五章 労働者の状態

二五五

る。併し又掛金と被保険者に對する給付の點に於ても、ソヴェート同盟の保險體系と資本主義諸國のそれとの間には、單に量的差異のみならず根本的な差異がある。

ソヴェート同盟に於ける社會保險制度と資本主義諸國に於けるそれとの間の決定的な差異は次の諸點に存する。
一、ソヴェート同盟では經營（國家經營）が被保險者の掛金全額を負擔しなくてはならない、労働者は何等の掛金も負擔しない。

二、全保險制度の管理は労働者によつてのみ行はれ、經營指導部はそれに對し何の勢力も持たない。

三、被保險者は保險金の請求の廉で（疾病、妊娠その他の場合）解雇されることはない。
如何なる他の國にもかくの如き保險制度に恵まれてゐる労働者はない、資本主義諸國に於ては數十年に亙つてそのたぬめ×××はれて來たものではあるが。×××ロシアには保險制度が殆んど無かつたことを思ふ時、右のことは益々重大な意義を持つて來る。×××ロシアでは一九二二年（即ち世界戦争勃發の直前）に初めて社會保險が施行された。この社會保險は疾病、瘵疾、並びに災害に附せられてゐた。しかし乍ら全労働者の約五分の一だけがこの保險法の適用を受けたに過ぎなかつた。この法律はヨーロッパ・ロシアの領域にのみ通用し、シベリア、コーカサス、中央アジア、クリミヤ半島その他は保險から除外されてゐた。又、×××ロシアの保險法は工場法の適用を受ける工場の労働者のみに適用し、二十人以下の労働者を使用する經營の労働者、建築労働者、農業労働者、商業、鐵道、並びに商船の労働者には適用されなかつた。

これに反しソヴェート同盟に於ける今日の保險制度は凡ての労働者使用人を例外なく包含してゐる。
プロレタリア×××で、労働人民委員部の法令において社會保險のため確定された根本原則は次の如き主要事項を含んでゐる。

- 一、都市農村の凡ゆる賃銀並びに俸給受領者に例外無く保險を擴張すること。
- 二、凡ゆる種類の労働及び給付能力の喪失（災害、疾病、妊娠、失業、瘵疾、老齡、寡婦及び孤兒）にまで保險を擴張すること。

張すること。

三、凡ゆる保險費用を企業家が負擔すること。

四、労働能力を一時的に喪失した凡ゆる場合には、完全賃金の最低額に達するだけの手當を支給すること。

五、凡ての保險團體で被保險者の完全な自治が行はれること。

六、療養施設（サナトリウム、病院、療養温泉、休養所、夜間サナトリウム等々）を疾病保險局の使用にまかせること。

プロレタリア×××、保險制度が如何に擴張されたかといふことは、労働人民委員部によつて發布された當該法律の次の如き規定がこれを示してゐる。

「全労働者は、彼等が國家の、公共團體の、協同組合の、特許的、小作經營の、混合的、或は私的な、企業乃至經營に従業してゐるの如何を問はず、或ひは又私人の許に従業してゐるも同じく、且つ又彼等の労働、その従事してゐた期間、又その労働に對する支拂方法の如何を問はず、すべて社會保險の給付を受く。」

あらゆる労働者にとつての且つあらゆる種類の労働中絶に對する、かくの如く擴大された保險制度の下にあつては、資本主義諸國に見るやうな労働者の生活生存の不安定なぞが最終的に根絶されてゐることは自明の理である。労働者は最早彼の生存に就いて恐れるには及ばない。

ソヴェート同盟の被保險者

（單位百萬）

經濟年度	賃労働者數	被保險者數	百分比
一九二二—二三	六・七三七	五・二四一	七八・〇
二三—二四	七・三三〇	五・六六四	七七・七
二四—二五	八・二二五	六・七二一	八一・五

第五章 労働者の状態

二六七

二五二二六	九・八四三	八・一八六	二六八
二六一二七	一〇・三四六	九・〇三八	八三・二
二八一二九	一一・一七七	一〇・五四四	八七・四
二九一三〇	一三・二四五	一二・八五九	九四・三
一九三一	一四・九九二	一四・七八八	九七・一
			九八・八

以上の統計から知られるやうに、被保険者の極度の激増と全労働者の保険加入をみとめることが出来る。經濟年度一九三〇年及び經濟年度一九三一年に於てはいづれも被保険者が二百萬人づつ増加してゐる。ドイツでは、疾病保険における一九二〇年から一九三〇年へのまる十年間に、やつと千九百萬人か二千萬人へ即ち百萬人の増加を見たに過ぎなかつた。ドイツの養老保険に就いても同じやうな状態が見られる、即ち一九二〇年の千七百五十萬から一九三〇年の千八百萬になつてゐるに過ぎない。かくして明瞭となるやうに、資本主義諸國に於ける被保険者数は好景氣の頂上ですら殆ど固定してゐて特に激増するといふが如きことは無いが、ソヴェート同盟に於けるそれは一九二二―二三年度の五百二十四萬一千人から一九三一年の千四百七十八萬八千人へ殆ど三倍加した。

被保険者数の増加につれて保険局の支出も増加した。のみならず、被保険者一人あたりへの給付も絶えず増加したことは次の保険局支出額表に示されてゐる通りである。

一九二四―二五	四七二、〇〇〇、〇〇〇	被保険者一人當り	七〇・五〇
二五―二六	七〇三、四〇〇、〇〇〇		八五・九二
二六―二七	八六九、八〇〇、〇〇〇		九六・三七
二七―二八	九八〇、〇〇〇、〇〇〇		一〇一・一〇

保險局支出額

(單位ループル)

被保険者一人當り

上表から明かであるやうに、保險の給付は被保険者数の三倍加に對して總額では殆ど五倍加し、一人當り給付は二倍加した。被保険者数の増加に比してより、迅速に補助金額が増加した原因は次の點に存する、即ちその間に労働者の賃銀は著しく騰り、被保険者が彼等の労働不能期間に大ていの保險でうける賃銀全額の支給が支出増加の原因である。現行法律によればソヴェート同盟の社會保險は次のものを含む。

- 一、被保険者並びにその家族に對する無料診察及び施藥。
- 二、病氣、災害、失業、妊娠による労働能力の一時的喪失の際には、完全労働賃銀額の手當を現金で給付すること。
- 三、病氣或ひは妊娠時休暇、並びに定期の義務的保養休暇に際しては、病院、療養所、治療所、温泉場、保養所、分娩所に於いて無料の取扱並びに看護をなすこと。
- 四、災害、廢疾乃至老衰によつて労働能力の完全喪失を來した際(五十パーセント以上の喪失は完全喪失とみなされる)被保険者に現金手當をなすこと。但し金額は一定せず。
- 五、被保険者の遺族に對する現金支給(埋葬料、妻子家族への年金、恩給)
- 六、妊婦への授乳料並びに乳兒保護のための凡ゆる物資の供給。

被保険者取扱ひのための資金は社會保險機關によつて支辨されるのみならず、主として保健事業機關によつて又國家並びに公共團體の資金から賄はれる。治療並びに豫防(治療場並びに療養場なしの)のために過去數年間に莫大な支出がなされたことは次表によつて明らかである。

治療のための支出額

一九二五―二六……………一九二・六 百萬ループル

二六一二七……………二三四・七
 二七一二八……………二四六・三
 二八一二九……………二五〇・一
 二九一三〇……………三二二・六

(ハ) 疾病保険 (一時的治療手當)

ソヴェート同盟では保健制度に關して次の原則が支配してゐる、即ち、豫防は治療にまさり、より安い！ この原則がソヴェート同盟に於て、他の資本主義諸國には全く知られてゐないやうな患者治療體系を成立せしめた。即ち、大經營内には醫師と衛生係とがゐて、勞働過程の際の男女勞働者を保健上から監督する事を任務としてゐる。この事は、あらゆる著大な勞働給付——それは特別な個人レヂスターに記録される——の後に測定や診察を絶えず行ふことによつてなされる。それはあらゆる勞働者に適用され、青年の時から勞働者の健康状態を記録する。かく絶えず觀察を行つてゐる間に、若し何かの病的現象が起ると、直ちにそれは中央臨床レヂスターに申告される。經營内の衛生係は病人の治療は決してしない、たゞ突發した災害に際してのみ應急手當を施すだけが任務とされる。かくの如く全勞働者を絶えず醫學的に觀察し監督することは豫防的闘病の第一段階である。

第二段階は「早期者」の治療である。工場内の衛生係が何等か疾病の兆候、現象を確めると、その患者は臨床研究所(ポリクリニク)へ引渡される。殆ど凡ての場合——農村においても、だが殊に都會の大きな勞働者街に、又大工場の内部にすら彼等自身の臨床研究所を持つてゐる。大臨床研究所は二つの主要部に分れてゐる。第一が患者診斷部、(病人の診察)、第二は患者治療部。患者診斷部は病氣の性質本質を確める任務だけを持つてゐる。この部がやがて病人を患者治療部へ廻すのである。

かくの如く多數の醫師が交替に且つ共同に患者の治療を遂行することによつて、資本主義諸國において私的醫療制度

の結果惹起される不利益と偶然性は殆ど全く消除される。

患者の治療は病氣の輕重と性質に應じて各種の方法でなされる。輕い疾患は、患者に臨床研究所内で勞働を繼續させながら直接に治療される。重患者は病院か療養所に移される。資本主義諸國で一般に實行されてゐるやうな患者の自宅診療は出來得る限り避けられてゐる。患者の完全な恢復のためには非常に屢々サナトリウム乃至湯治療法が命令される、それは資本主義諸國の勞働者にとつては極めて稀にしか見られないことだ。

病氣中も勞働者には勞働賃銀の全額が支給されるから、彼が困窮の故に未だ癒り切らない間に勞働に就き、大抵はさういふ無理のために疾患が往々不治の慢性病になるのを避ける豫防がされてゐるわけである。

試みに資本主義諸國に於ける疾病保險の情況を見るならば、「國際勞働局」の存在にも拘らず、又、ブルジョア諸政府の世界會議に於て勞働者保護に關する諸多の誇大な決議の存在にも拘らず、「國際勞働局」に参加せる七十七ヶ國中僅か四十ヶ國が疾病保險を行つてゐるに過ぎず、而もこのうち二十八ヶ國だけが義務的保險を行つてゐるに過ぎず他の十二ヶ國は自由意志による保險がある。これらの資本主義諸國の疾病保險にあつては勞働者がその掛金中の莫大な部分を支拂はねばならぬ、而も彼等は疾病保險管理に就いては殆ど口をさしはさむことが許されないのである。これに關しては次の統計が説明を與へる。

被保險者、企業者並びに國家の保險掛金分擔率			
(國名)	被保險者	企業者	國家
イギリス	三三・〇	四〇・〇	一一・〇
ハンガリー	五〇・〇	五〇・〇	—
ドイツ	六六・七	三三・三	—
ノルウェー	六〇・〇	一〇・〇	三〇・〇
ルーマニア	一〇〇・〇	—	—

第五章 勞働者の狀態

チエツコスロバキア.....	五〇・〇
フラン ス.....	五〇・〇
オーストリア.....	五〇・〇
ソヴェート同盟.....	一〇〇・〇

上表の示す如く、資本主義諸國では労働者が疾病保険、即ち労働の犠牲のための、掛金の主要部分を支拂はなければならぬ。ブルジョア國家はイギリスとノルウェーを例外として何等の補助も與へてゐない。たゞソヴェート同盟に於てのみ、疾病保険の全負擔を國營の經營が残りなく支拂つてゐる。

更に興味あるのは、疾病保険の被保険者に支拂はれる保険金額である。次表は一九二九年度のものであるが、資本主義諸國に於ては、ドイツの例によつて知られる如く今は既にこの保険金額が著しく制限されてゐる。

疾病保険金の賃銀に對する百分比

國 名	自宅治療の場合	入院治療の場合
イギリス	一〇—三〇	ナ シ
ルーマニア	三五	一〇—一七・五
ド イ ツ	五〇—七五	二〇—三七・五
フラン ス	四〇—五〇	一〇—一五
ハンガリー	六〇	三〇
チエツコスロバキア	六六・七	三三・三
ソヴェート同盟	一〇〇	一〇〇

以上二つの統計から知り得る如く、有名なドルの國ア、メ、リ、カには労働者に對する疾病保険は全然ない。他の一聯の資本主義國、例へばフランス・イタリアその他も同様である。

更に、資本主義諸國ではソヴェート同盟と反對に一聯の制限的規定がある。たとへば、

- 一、イギリスでは被保険者が二十六乃至一〇四週間、即ち半年乃至二年間掛金を支拂つて後でなければ全然保険金をうけ取ることは出来ない。ルーマニアでは、被保険者が保険金の「恩恵」にありつくまで六週間付たなくてはならない。
 - 二、待つてゐる期間、即ち全然何等の保険金も支給されない期間は、大抵の國家で四日乃至五日間である、従つて保険金請求の申告をしてから五日目乃至六日目から初めて疾病保険金が支拂はれる。ドイツ、イギリス、チエツコスロバキアでは第四日目から、ハンガリーでは第三日目から保険金が支給される。
- 總括すれば——資本主義諸國に於ては病氣になつた場合、労働の犠牲者は肉體的苦痛の上に、著しく減少した収入で自己の家族を養ふことの困難から来る精神的苦惱を堪えねばならない、が一方ソヴェート同盟に於ては、労働者はかゝる生活の××××××××××××××××××××されてゐるのである。

(二) 休 暇

ソヴェート同盟の全労働者は、經營内での彼等の仕事の長さに応じて一年一回、十四日乃至三十日間の定期休暇を持つてゐる。但し彼が同一經營内で少くとも五ヶ月半働らいてゐたことを前提とする。多くの經營に於ては全労働者に一齊に休暇が與へられその期間工場が閉鎖されるか乃至より根本的検査や大修理の時にあてられる。他の經營では經營の中絶が起らないやうに交替に休暇が與へられる。

臨床研究所の醫師團によつて確認された特別の場合には休暇の代りにサナトリウム乃至保養地滞在が行はれるが、その期間は少くとも一ヶ月、最長三ヶ月半までに達する。休暇の際もサナトリウム滞在の際も等しく全賃銀が依然支給される。

ミネラロイヴォチからキスロヴオヂスクに至る北コーカサスの大保養地、ズークムからクリミアに至る黒海沿岸の百キロメートル以上に及ぶ地域、ノヴォロシスクからオデッサに至るクリミア半島の全域、南コーカサスの諸礦泉等々、

並びにレーニングラードが臨むフィンランド灣に至る北方地方にさへ、疾病保険局並びに労働組合は、多数のサナトリウム、湯治場、療養所、保養所、静養場等々を確保しており且つ年々非常な勢いで新設されつゝある。従つて嘗てはブルジョア階級に封建貴族の遊興的な温泉場乃至保養場であつて××××ロシアの労働者農民が足ぶみも許されなかつた處が、今日では、早春から晩秋に至るまで休暇を得た幾百萬の労働者勤勞者によつて安息所として訪問されてゐる。一九三〇年以來はコーカサスの保養場とクリミア半島のそれとが冬期間も終始開放されてゐる。

五六年前、チユアブゼからズークムに至る黒海東岸の約四百キロを自動車とばした者は、長くのびた丘陵地の人烟まかれた所を通つたのであるが、今日も一度此の所を通るならば、絶え間もなく全區間に立ち並んでゐる宏大なサナトリウムの建物や大規模の休養所のある多数の新しい住宅地をみて、驚嘆するであらう。

サナトリウム、療養地、保養地に休暇滞在することは、資本主義國に於ける「遊民」や贅澤趣味をしてゐる支配階級の上層の特權ではなく、働く者、價値を生産する労働者階級の特權である。これは×××××××との間に存する一つの對立である。

労働者の保養地滞在とそれに対する支出

ソヴェート同盟の保養地で、一九二四年から一九二九年の間に労働者を取扱つた數並びにその労働者の取扱ひのために必要とされた物資に支出された數字は

労働者數	金額
一九二四年.....二〇〇,〇〇〇人	不詳
二五.....二五一,〇〇〇	三一・八百萬ルーブル
二六.....四八七,〇〇〇	四四・六
二七.....五一一,〇〇〇	四〇・四
二八.....六〇二,〇〇〇	三六・五

二九.....八一〇,〇〇〇

四五・三

一九三一年度には、ソヴェート同盟の温泉地及び療養地のサナトリウムや休養所で取扱ふ労働者の數は豫定では始めて百萬を超えた、即ち十五人に一人の労働者がソヴェート同盟では温泉地や療養地に滞在する可能性を得た。どの資本主義諸國で、これに少しでも類似の事がみとめられるか？

(木) 母 と 子

ソヴェート同盟の人口政策に就いては既に他の個處で取扱つた。社會主義經濟の決定的な要因は、芽生えつゝある生命の保護である。この點でソヴェート同盟は資本主義世界が全く見知らない道を行んでゐる。資本主義諸國に比してソヴェート同盟の人口が激増してゐることは既述の通りであるが、而もソヴェート同盟では資本主義諸國に於けるが如き中世紀的××××を持つた出産強制はない。そして婦人が出産するか否かを自分で決定する權利が通用してゐると同様、社會の後継者を保護すべき法律も亦確保されてゐる。

妊娠保護は左の如くである。

(イ) 出産××××××××××××××××××××××

(ロ) 出産の場合には、出産の前後八週間づつの休暇が與へられ、當該婦人労働者には賃銀全額が依然支給される、婦人使用人及び農婦には出産前後六週間づつの休暇が與へられ賃銀全額が依然支給される。

(ハ) 九ヶ月間は三十六ルーブル乃至七十二ルーブルまでの授乳料が支給される。

(ニ) 十六ルーブル乃至三十ルーブルの乳兒手当が支給される。

分娩毎には、保險當局乃至國家が、醫者の費用乃至サナトリウムや分娩手当の費用を除いて、平均二百二十五ルーブルを負擔する。

だが母と子に対する保護は以上の事だけでなく、尙次のものがある。

に××××××××××を實踐するに過ぎず、決してそれを緩和することも取除くことも出来ないものである。

教育に於ける資本主義的體系に最も鋭く對立するものとして、ソヴェート同盟で適用されてゐるところの社會主義的體系が存する。此處では、若きゼネレーションを支配階級に仕上げるといふことが最高の原理である。此處では教育方法は、専ら、××××××××××精神のあらゆる殘滓と戰つてこれを除去し自己意識ある獨立な自由な人間を造り上げるといふ目的に奉仕するものである。かゝる目的から、來るべきゼネレーションを教育する方法が生れて來るのである。社會主義的教育體系の最重要方法の一は、全學校、教育組織が教育される者、即ち學生と當該施設並びに機關の先生との手によつて自ら管理され形成されるといふことである。資本主義社會に於てはこれと類似の方法の反映が専門學校乃至大學だけにみとめられる、即ち其處では或る小さな部分的問題に就いて學生生徒が共同に協議決定してゐる。併し乍らこの私的資本主義的社會體制は、社會的共同生活並びに生活形態の形成といふ點においては結局、ソヴェート同盟における社會主義的教育體系と同様のもの乃至同價値のものではあり得ない。ソヴェート同盟に於けるそれは、成熟しつゝあるゼネレーションの教育によつて社會的存在の全生活形成や生活形態を新しい未だ嘗つてなかつた軌道へ導くものである。教育制度に於けるかくの如き根本原理によつて初めて、××××××××××、青年に對する肉體的精神的××××××××××、並びに若きゼネレーションの發達しつゝある肉體及び精神××××××××××を以つて行はれる——これはたゞ××××××××××教育方法の無能を曝露するものに他ならぬ——怖るべき野蠻な教育制度を徹底的に根絶することが可能となるのである。ソヴェート同盟に於てはかくの如き××××××××××者を處罰し即時教職から遠ざけることにより、××××××××××の獨特な教育方法を禁止してゐる。(註)

(註) 小ブルのホダン氏はその著「ソヴェート同盟の昨日、今日及び明日」の中で「放浪兒」即ち所謂「ベスブリソニス」を全く獨特な意味に解してゐる。彼は其處で、かの社會ファシストの御用著述家ステーションゲルが一九三〇年の國會選舉戦に際して××××××××××に對する特別な惡宣傳として持ち出さうとした有名な××××××××××を繰返してゐる。尊敬すべきホダン氏——彼は常に「マルクス主義的立場」から語るやうに見せかけてはゐるが、實はマルクス主義のほひすら持つてはゐない——は一九二九年ソヴェ

ト同盟を訪問した際次のことを見たと言つて主張する。「子供達は三十人乃至百人がグループになつて集まつてゐる。往々五百人も集る巢窟がある。」恐らくホダン氏が到着した時にソヴェート同盟の全「浮浪兒」が、この奇妙な同時代人の中に全く特殊の焼肉のほひをかぎつけて、一人知らず駆け集まつたでもあらう。彼はなほ先をつゞける「彼等は野良犬の如く國中をかけめぐり渡り鳥の如く氣候に従つて北へ南へ、絶えず川や鐵道線路に沿つて彷徨する……彼等は毒蟲や糞尿で固まり言語に絶したボロをまとひ糞壺をヒツクリ返した様な惡臭を放つ。傳染病や性病にむしばまれ彼等はその有害な武器を自覺してゐる、成人も彼等の前には尻ごみして、彼等に觸れさうになる事でも恐れてゐる。」さて、ホダン氏がソヴェート同盟を訪問した時、何が一體彼をか程まで極端に不安にしたのかは明瞭だ。改めて言ふ迄もないことだが、ホダン氏が報告の中には、同様に危険なゲ・ベ・ウがあり、それは日夜ソヴェート同盟の全住民を監視してゐて、たゞ小ブルのホダン氏のみが「安靜に旅行することが出来た」といふのである。これは彼の報告の正體を知るための、特に際立つた見本だ。一億六千萬の人口を考へて見るが、その一人一人の背後に一人のゲ・ベ・ウ・而も晝夜の監視だから一人の住民につき二人のゲ・ベ・ウがついてゐると見なければならず、合計三億二千萬のゲ・ベ・ウが存在することになる。この小ブルがそのソヴェート同盟滞在中、さぞかし多くの不安を抱かねばならなかつたことだらうか？

（一） 廢疾 保險

廢疾保險は疾病保險と最も密接な關係に在り、それと共に統一的な中央管理部の下に置かれてゐる。而してソヴェート同盟に於ける廢疾保險は資本主義諸國に於けるその類似體系を遙かに凌駕してゐる。それは、資本主義諸國に於ける保險制度では廢疾保險の保險義務には該當しないところの職業、すなはちソヴェートでは經營事故と同様の位におかれてゐるといふ事實からも明らかである。事故或は職業病による労働不能は、それが一時的性質のものである限りは、即ち再び労働能力を持ち得る場合には、普通の病氣と同様に取扱はれ、労働不能の全期中労働賃金の全額が依然支給せられる。若しも事故或ひは職業病が、完全な乃至部分的な廢疾を招來した場合には年金保護が效力を發生する。廢疾年金は、労働年限及び労働者の年齢の大小に応じて段階づけられてゐる。一ヶ月に四十九ルーブル未滿の賃銀を得る労働

者乃至婦人労働者は完全賃銀額を年金として得る。五十乃至一〇〇パーセントの労働不能に陥つた労働者並に婦人労働者は五十パーセントまでの手當を得る。即ち、痲疾による労働不能者は永久的年金を得るのであつて、賃銀の低い者は殆ど平生の賃銀と同額を得、最高一ヶ月に百五十ルーブルまでは得る事が出来るやうな事になつてゐる。資本主義諸國に存在する小つぽけな×××年金では痲疾者は到底生活して行く事が出来ないが、ソヴェート同盟ではそんなものは知らぬのである。

(ト) 養老年金

養老年金は、凡ゆる職業を通じて六十歳以上の全労働者に支給される、婦人労働者並びに鑛山労働者には五十歳以後から支給される。養老年金額は、該労働者がその最盛時代に於て所得してゐた賃銀額の五十パーセントで、少くとも一年に二〇〇ルーブル以下のことではない。養老年金の最高額は一ヶ月につき一五〇ルーブルである。たとへ養老年金受領者が、たほ労働関係の中に止り依然として労働賃銀を得てゐる場合でも、養老年金は同じ割合で支給されることになつてゐる。以上のことから、ソヴェート同盟は、資本主義諸國の×××體系の如く恐るべき年金壓迫を全く知らぬことがわかるであらう。

資本主義諸國の養老保険はどうなつてゐるか？ 知名の七十七ヶ國の中で養老保険の存するのは三十ヶ國に過ぎず、而もその必ずしも全部が義務的なものではないのである。

養老年金

(労働賃銀に對する養老年金の百分比)

國名	熟練労働者	非熟練労働者
ベルギー	六・二	八・六
チェコス	一〇・一	一七・〇

スエーデン	一五・二	一八・七
イギリス	一五・三	二一・六
デンマーク	一六・三	二二・三
イタリー	三一・四	四〇・五
ドイツ	三二・一	三九・四
オーストリア	三三・五	五〇・〇
ソヴェート同盟	五〇・〇	

此處でも亦、ソヴェート同盟が凡ゆる諸國のトップを切り、養老年金受領者に充分に保険金を與へてゐる唯一の國であることがわかるのである。此處にも亦アメリカは他の保険に於けると同様に、その制度を持つてゐないのである。

(チ) 労働の英雄に對する年金

二十五年間、労働に従事した男女の労働者、又は、生産、國政、科學或は國民經濟等の諸分野に於て特別の功績を示した男女の労働者は、彼等が嘗つて最盛時代に得てゐた最高賃銀の七十五パーセントの恩給を得る。

(リ) 恩給

教育機關の労働者、醫者、及びソヴェート共和國に特別の貢獻をなした労働者は、痲疾或ひは養老保険の原則に則つて一年に一八〇〇—三〇〇〇ルーブルの恩給を得る。

痲疾及び養老保険を得た人員數	三七八、〇〇〇人
一九二四	四八四、〇〇〇
二五	

二六	六〇三、〇〇〇、
二七	七二五、〇〇〇、
二八	八八七、〇〇〇、
二九	一、〇八六、〇〇〇、

(又) 遺族扶助料

働き手を失つた家族、死せる労働者の所得によつて生活してゐた十六歳以下の子供や労働不能の両親及び姉妹は遺族扶助料を得る、遺族扶助料の額は、子供の數乃至は家族員數に應じて、嘗つて働き手であつた人の全所得の三分の一乃至四分の三までの範圍で、各段階に分れてゐる。

(ル) 死亡見舞金

労働者並に婦人労働者の死亡した場合は、死亡見舞金が支給されるが、これは六階段に區分されてゐて、二二—四五ルーブルの範圍を上下してゐる。遺族たる十歳以下の子供一人毎にこの見舞金の半額づつが追加支給される。

(オ) 労働者保護

あらゆる保險制度を司る労働者保護局は、その完全な獨立性によつて保險負擔者(經營指導部)の勢力から確保されてゐる。ソヴェート同盟においてそれがどういふ具合に任命されてゐるかは、次の對比が示してゐる。

一九一三年(××××のロシアでは)百十三人の工場検査官が存するに過ぎなかつたのが、一九二七—二八年(ソヴェート同盟では)には

労働検査官……………八〇〇人

都市監督官……………五二八、

工場 醫……………三〇六、

(但し右は工場に駐在してゐる保健使用人ではない)

農業に於ける労働検査官……………三四三人

交通に於ける労働検査官……………三七〇人

合計 労働者保護のための監督官二、三四七人である。

労働者保護のための支出は(單位百萬ルーブル)

重 工 業……………	一九二八—二九	一九二九—三〇
輕 工 業……………	二〇・四	二四・七
合 計……………	五四・七	五九・一

労働者の生命、健康の確保のため労働者保護局から要求して來る方策、規定は經營指導部によつて遂行されねばならない。労働者保護官の全權は極めて廣汎で、經營指導部はその命令を即時實行しなければならぬ。労働者保護官は、労働者の生命、健康を脅す危険のある生産行程を、かゝる危険の原因が除去されるまでは、停止せしむる權能を持つてゐる。如何なる資本主義國家の労働者保護局も、正にソヴェート同盟に於けるその如く廣大な全權を持つてはゐない。これこそは、プロレタリア×××、社會政策の分野に於て擧げ得たる大きな成果の一つである。

一九三一年の社會保險豫算 (全同盟社會保險評議會による)

全同盟社會保險評議會は、保險官中央管理部によつて提出された一九三一年度の統一的社會保險豫算案を大體に於て

承認するものである。これによれば収入は二、一七三、六五二、〇〇〇ルーブル、支出は一、九七六、四二七、〇〇〇ルーブル、豫備基金一九七、二二五、〇〇〇ルーブルと提案されてゐる。

管理及び組織費は二千五百萬ルーブルと提案されてゐる。保險機關の再組織及び工場保險基金——これは組織費の増加を排除しない——の創設を考慮して、本評議會は保險官中央管理部に、此の問題における彼等の立場を詳細化し、同盟人民委員部會議に組織支出増額の提案をたてる様に、委任するものである。

社會保險の總額は七億八千八百四十萬ルーブルに達する。内譯——一時的勞働不能の場合の手當（三億四千五百萬ルーブル）其他の手當部門に（六千萬ルーブル）癡疾、孤兒及び養老手當に（三億七千四百四十萬ルーブル）被保險者への食料（一千萬ルーブル）及び牛乳調理場制度の擴大のため（二百萬ルーブル）。

保健並びに豫防策のための支出は豫算では六億一千百萬ルーブルに達してゐる。この額に包括されるものは、醫療への支出（四億九千百萬ルーブル）、授乳所への支出（二千萬ルーブル）、保養所、サナトリウム及び治療温泉地滞在への支出（五千六百四十萬ルーブル）、これらの設備に對する新設費（二千九百萬ルーブル）、これらの設備の補助經營の建築への支出（二百五十萬ルーブル）、休日——五日週——のための保養所の設立（六百萬ルーブル）、ピオニール合宿所及び青年移住地に對する支出（二百萬ルーブル）等である。

教化活動の支出額は一億二千六百三十萬ルーブルに達する。これらの支出に屬すものは、幹部養成（一億ルーブル）保險制度に關する啓蒙（二百五十萬ルーブル）、社會保險及び勞働に關する研究事業（二百五十萬ルーブル）、幼稚園に對する支出（千四百萬ルーブル）、生徒食費（六百萬ルーブル）などである。

勞働者住宅建築並びに衛生諸設備の支出は三億五千百萬ルーブルと提案されてゐる。

國民經濟の規準的部門に於ける工業勞働者の手當基金への支出として七千五百萬ルーブルが指定されてゐる。

衛生諸設備への金額の分配に際して、同盟評議會はソヴェート同盟の主要保險官に次の如く提案した、即ちこれらの目的のための共和國の全支出から千八十八萬ルーブルをウラルに、二百萬ルーブルはクズネツキー地方に指定すること、

同様にウクライナ・ソヴェート共和國の主要保險局はこの目的に定められた全資金——五百四十萬ルーブル——をドン地方及びクリウオリシユ地方に使用すべきである。

各共和國の保健人民委員部は同盟評議會から、醫療基金から最少二百萬ルーブルの額を控除して（全同盟の共和國總計）それによつて突撃勞働者に割引でサナトリウムに場所を與へるやうに、命令された。」

だが社會保險はソヴェート同盟に於ては單に社會化された賃銀の一部分に過ぎない。吾々が社會的賃銀の總支出に關する表からみたやうに、一九三一年度に於ける社會保險に對する支出は社會的賃銀の總支出九十九億六千百萬ルーブルのうち二十四億ルーブル、即ち二十四パーセントに過ぎぬ。社會的賃銀の七十六パーセント——それは勞働者の生活を確保しまた彼等の生計を益々より高き段階に高める爲めに支出された——は他の目的のために支出された。即ち勞働者の生計改善基金に一億八千五百萬ルーブル、住宅建築に十一億一千七百萬ルーブル、教化基金に四十億八千八百萬ルーブル、保健基金に十二億七千一百萬ルーブル、公共施設無料給付及び文化支出に六億八千萬ルーブル、及び共同給食に二億二千百萬ルーブルである。吾々はこれらの領域から第一に住宅制度をとつてみよう。

七、住宅制度

住宅制度は資本主義の下では、勞働者が殊に苦しまなければならぬ不治の疾患の一つである。小ブル的山師共はいつの時代においても、住宅問題を特殊なものとして資本主義内部で、それだけを單獨に解決せんと欲し、その際×××××經濟體制には手を觸れることはない、或はオーストリー・マルクス主義者の如く、住宅問題を通じて資本主義の×××××とに導かうとさへ欲する。勿論どちらも同様にナンセンスである。フリードリツヒ・エンゲルスはその著『住宅

れた生産減退により、多くの大都市（レーニングラード、オデッサ、等）の人々は四散し、そこには充分以上に住居が存在し、ふみ止まつた人々は随意に家をえらぶ事が出来た。だが大ていの都市ではその人口数が恐ろしく増加した、例へば殊にモスクワ、ハリコフ、スウェルドロフスク、等。モスクワでは、人口は短期間に二倍となり三倍となつた。そして人口のかゝる急速な増大と共に次第に住居の狭さも亦感ぜられるやうになつた。そこで現存の住宅を合理化しなければならなかつた、かくて各人がどれだけの大きさの住居を持つべきかの規定が講ぜられた。

住宅難——殊にモスクワにおける住宅難は、長い間、ブルジョア殊に社会民主主義の新聞の絶好のテーマであつた、これによつてソヴェートを恐ろしいものに思はせようとしたのであつた。資本の御用著述家はこれを述べる際に、第一には住宅難がいかなる原因から生じたか、第二にはソヴェートがいかなる手段で此の不幸を克服しつゝあるか、を説明する事に用心して避けた。資本主義諸國では住宅缺乏は益々大きくなるばかりだ、 $\times \times \times$ は少しもそれに配慮しない。資本主義において $\times \times \times \times$ 、 $\times \times \times \times$ 、 $\times \times \times \times$ の $\times \times \times \times$ げられぬ様に、 $\times \times \times \times$ ばかりだ。こゝでは次の原理が適用する——金を持つものは住宅を持ち、金を持たぬ者或は僅かしか持たぬ者は、その棲家を探さなければならぬ！

ソヴェート権力はこれとは別な事をやつてゐる。現存せる住宅は住居人数に従つて配分された。人口の急速な増加の際、新造建築が押しかけて来る人間の波に追いつき得なかつた——例へばモスクワや其他の都市でさうだつた如く——場合には、新人口は既に住まはれてゐる住居に配分され、ために殊に一九二五—二八年頃のモスクワでは住宅の狭隘さが目立つた。他方レーニングラードやその他の土地では相變らず、必要なよりも餘計な住宅が存在してゐた。

資本主義諸國だつたならば、一九二五—二八年のモスクワと同様な事情の際には、新しく増加した人口大衆を收容する爲の何等の手段も講じなかつたであらう。資本主義においては住宅を持たぬ者は、どこに住むかを自分で探さなければならぬ。

五ヶ年計畫においては、新しい巨大工業の創設と共に大規模な住宅建築計畫がたてられ遂行された。こゝでも新造住宅建設は、最初にたてられた計畫を遙かに追ひ越した。住宅建築計畫がいかに大規模に遂行されたかは、次の數字から

明らかである。

ソヴェート同盟における住宅建築への資金投下（一九二八—三二年）

建築組織（百萬ルーブル）	百分比（一九二八年—一九三二年）				
	一九二八年	一九二九年	一九三〇年	一九三一年	一九三二年
工業運輸經營	二二・二	三一・八	四一・五	七六・九	一〇〇
ソヴェートの執行委員會	一一・一	一一・八	一一・三	一一・二	一一・〇
國家諸施設の住宅建設總計	三五〇・三	四三四・六	五一七・四	一〇〇一・六	一〇〇
住宅及び建築協同組合	六九・四	七六・三	六五・〇	一〇〇・〇	一〇〇
國家及び協同組合の住宅建築總計	四一九・七	五一〇・九	五八二・四	一一〇一・六	一〇〇

此の數字は住宅建築活動の物凄い増大を示してゐる。資本主義諸國では此の一兩年住宅建築が殆ど全く停止してゐる一方で、ソヴェート同盟には此の三年間、殊に一九三一年には、いかなる資本主義國もかつて達し得なかつた程の住宅建築工事がみられるのである。

國家の及び協同組合の住宅建築活動を賄ふ費用は、中央自治體銀行（國立銀行の支店）の資金、ソヴェート、個々のソヴェート共和國、個々のトラストやシンヂケート、工業運輸及び其他の企業の特種な基金、又建築協同組合や住居借家協同組合自身の資金であり、又消費組合及び小さな範圍では一人によつても、金融される。住宅建築の資金融通の際に本質的な役割を演ずるものは、各企業毎にある労働者使用人の生活形態向上資金から與へられる支出である。此の基金は各年の純益の一割に達する義務的控除から生じた。一九三一年度には此の基金の支出は總計二億八千五百萬ルーブルに達したが、内譯その七割五分即ち二億一千四百萬ルーブルは労働者住宅建築への資金融通のために提供された。労働者住宅の建築への信用は石造及び煉瓦造家屋の場合には六十年、石造と煉瓦造との折衷家屋の場合には五十五年

木造家屋の場合には四十五年間與へられる。信用の利子は信用額に應じて年二厘五毛乃至一分である。労働者住宅及び建築協同組合は、信用を得るためには、組合員自身の出資から少くとも建築物価値の二割を調達しなければならぬ。一九三一年以降は、新造の住宅面積の平均価値の一分五厘の率で年々積立が行はれてゐる。労働者の個別的な私住宅建築にも信用が與へられる。但し條件は若干ちがふが、建主は少くとも建築費用の三割を自分で調達し、與へられた貸附には二分の利子を拂はねばならぬ。

次に一切の新建築活動は、私有に基いた土地の上に行はれてゐるのではなく、全く自由な處理に委された土地及び長期の繼續的借地に基いて行はれてゐる。利潤のための住宅建築はソヴェート同盟には全然存在しない。私的住宅建築は依然としてかなり著大な意義を持つてゐる——は、全く大きな一家族の住む家屋だけである、私的家族の建主のうち六割四分四厘はプロレタリア要素、而も四割二分が労働者で、二割二分四厘が使用人であつた。更に三割四分八厘は、賃労働者を使役せぬ小業者(家内工業者、手工業者)、自由職業者、農業に従事してゐる者である。私的新建築の平均住宅面積は三十二平方キロメートルである。それは全く小家屋、大ていは夏期だけ住む夏の住宅(ダリチエ)である。

住宅建築協同組合は國家諸組織よりも低廉に建築する、それは主として、協同組合員が建築工事に極めて關心を持ち喜んで協働し仕事を統制するからである。住居借家協同組合は一九三一年一月一日には、約三千五百萬平方メートルの住居面積を占め、そこに住む人口数は約六百萬であつた。住宅建築協同組合は一九三一年一月一日までに、四億ルーブルの價值の四百五十萬平方キロメートルの住居を新造した。四十萬家族、合計五百十萬人が組合に加入してゐるが、そのうち約五十萬人には住居が(協同組合で建てた)一戸あつてがはれてゐる。此の事からもわかる様に、舊住宅では各住居人(借家人に非ず)一人あたり六平方メートルの面積であつたが、新造建築では各一人あたり既に八平方メートルに達した。管理機關としての住宅協同組合の質的長所にうながされて、工業企業並びに自治體執行委員會は彼等が建築した家屋を、協同組合の管理に委任するに至つた。家屋管理の質的向上のために特別な講座が開設された。

ソヴェート同盟に存立してゐる様な全く一變した諸關係の、資本主義諸國におけるそれに對する大きな差異は、住宅建築活動を見れば明らかである。ドイツ(或はどの資本主義國でもいゝが)で、例へば二十億マルクの住宅が建築されねばならぬと假定しよう。此の建築はいかにして實現されるか? 先づ資金を出す者が存在しなければならぬ。それは資本主義國では「奉仕住宅建築及び公益事業株式會社」とか何とかの體裁のいゝ名前をもつた建築投機の株式會社でもあらう。そこでいふ公益とか奉仕とかいふのは、住宅建築のために幾十億の金を調達するための口實であり、そのうち一割—一割五分の銀行口錢、仲介者の儲け、其他の費用となるのである。だが公益心のある奉仕心のある株主も結局は損をする事を欲しない。それは年々もう一割「株式資本の利拂」を要する、そして此の利拂は帳簿には記入されてゐるが、實際は半分しか拂はれない。それに管理費が加はる「公益事業」株式會社の頭取、重役及び監査役の大収入、これが必ず三分—五分を占めなければならぬ。以上の總計は、少くとも總資本の二割五分となる、従つて残るのは二十億でなくて十五億となる。第二には、土地を調達せねばならぬ。幸ひにそれが建築資本の三分の一ですむとすれば、これは七億である。そこで建築のためにまだ八億が残る。建築材料と勞賃のために八億——だが家屋は二十億を要したのであり、二十億かゝつたものとして家賃が拂はねばならぬ。

ソヴェート同盟ではこれとは全く別である。ソヴェート或は住宅建築協同組合が、二十億で建築することを決定する。銀行が六十年間で、二分五厘乃至一分の利子で信用を與へる。土地には一文もかゝらない、それはすべての者の爲に存在してゐる。銀行利子を一分として二十億の中から控除すれば、十九億八千萬マルクで建築される事になり、資本主義の條件の下におけるが如く八億で建築されるのではない。資本主義諸國における十倍以上の毎年の銀行利子及び株主の年々の儲けの分前を考慮すれば、ベルリン大會で確認された事はつきりわかる——即ち住宅建築は資本主義諸國ではソヴェート同盟におけるよりも三倍も高くつき、従つて同じ面私に對する資本主義諸國における家賃はソヴェート同盟におけるよりも三倍乃至五倍高い、資本主義諸國では家賃は労働者の賃銀の二割—二割五分だが、ソヴェート同盟では僅か八分に過ぎない!

によつて或は彼等を代表する経営委員によつて署名される。協約には、競争に入つたすべてのグループ或は従業員がもつ一切の義務が精確に列挙される。通常協約は、経営の生産計畫の遂行とそれ以上の遂行、労働生産性の向上、生産費の低下、破損品の比率の引下げ、労働規律の鞏固化、等の領域における義務が含まれる。競争参加者は大ていの場合、経営の合理化及びよりよき労働組織の遂行や現存する機械工場の空運轉の除去に積極的に参加し、規則正しく生産會議を開き、労働方法改善のための提案を作成し、生産向上の目的に適ふ其他の任務を果す——といふ義務をも引き受ける。多くの協約においては、クラブの設立、技術的及び政治的（部分的にはまた科學的）教育講座の設立、補習學校の設立、圖書館、體育（スポーツ）部の創設、等々の如き従業員の文化水準向上のための義務も亦引き受けられてゐる。協約期間には競争するグループ或は従業員は、義務の遂行についての定期的な報告を交換し、一定の期間において交互に特別委員會を派遣して視察する、その際に同委員會はその觀察及び経験を、視察される側の者並びに自分の方の従業員に報告する。

社会主義競争の運動においては、全プロレタリアートの眞に全面的な大衆運動が問題になつてゐる事は、國家計畫委員會がこれに關して發表した統計の證明する所である。此の統計によれば一九三〇年度に全労働者の七割二分三厘が、各々の協約によつて社会主義競争に参加した。

社会主義競争へのプロレタリアートの大衆的参加は、それが全労働者階級の關心事である事を證明してゐる。労働者階級はその全體としては、支配し且つ一切に責任ある階級として自覚し、かつかゝる者として行爲してゐるのだ。全プロレタリアートは社会主義において、全生産、全經濟に責任あるものと自覚して居り、此の責任感から社会主義競争がその表現として發生するのである。同志スターリンは社会主義競争について次の如く言つてゐる。

「社会主義競争において最も注目する事は、それが人間の労働に對する見解に根本的な變化を與へた點にある。蓋しそれは労働をかつての好ましくない困難な重荷から變じて、名譽ある事柄、光榮ある事柄、有益な英雄主義の事柄となしたからである」

(ロ) 突撃隊運動

社会主義競争はその發展過程において、より高き段階に高まり、突撃隊、生産集團、コムミュン、個々の突撃労働者、などの突撃隊運動の形態をとるに至つた。最も普及してゐる形態は突撃隊であり、突撃労働者の九割を含み、なほそのうちでも十名からなる隊が最も多い（七割三分）。

突撃隊、生産集團、コムミュンは、經營における労働組織の新形態をつくり出す。あらゆる突撃グループは一定の義務を引き受け、その内容は通常職場に揭示される。此の義務は社会主義競争の際と同じ性質のものであるが、より具體的である。一方經營管理部或は經營各部門の監督の方でも、生産における一切の缺陷を除去し、労働者の提議を猶豫なく實現し、なされた労働の報告を適時に——通常十日目毎に——職場に揭示する、等の事を自らの義務とする。社会主義競争及び突撃隊運動のあらゆる形態の根柢をなす社会主義的協働の原理、競争する者の間の共同の利益及び任務の一致——これらのことは労働生産性の著しい向上をもたらすものである。例へばドネツ地方のスタリノの冶金工場では突撃隊は機關車の修理を平均六十九時間でやりとげた。突撃隊以外の労働者がやれば九十六時間を要する所である。レール部の突撃隊は一日に以前の五十噸に對して百六十六噸生産した。ルガンスクの機關車工場では、導管部では一日に百二十五噸の導管を生産してゐたが、突撃労働者は第一日に早くも百三十八噸を、第二日目には百四十噸を生産した。だが突撃隊は單に個々の經營でその經營のために起つたばかりではなく、生産の結果がより好ましくない所の従業員から懇請されて、労働方法の改善を教へる爲に、屢々經營から經營へとわたり歩く。

大ていの競争協約には次の如き章句も含まれる、即ちそれによれば、より好ましい生産の結果を達成した經營の従業員は、協約を結んだ經營でその達成が劣つてゐる方に、突撃隊或は個々の突撃労働者を派遣する事を義務づけられる。

働生産物（機械、器具、機械部品、等）の使用を共同に引受ける點だけである。工場における分業はこゝでは各一人づゝの労働者には關係しない、こゝではコムミュニオンがその成員の間での分業を自ら統御するのである。同様に又労働の取得の分配も、工場管理部によつてコムミュニオンの一人づゝの労働者に與へられるのではなくて、コムミュニオンはコムミュニオンの行爲に對する賃銀として全額を受取るのである。その受取つた額を各成員間に分配するとか、或はその一部を共同の目的の爲に支出するとかは、コムミュニオンの成員のきめる事柄である。

労働コムミュニオンからは極めて屢々生活コムミュニオンが生ずる。その特徴は、コムミュニオンの成員が單に工場における労働の際に共同の事柄を行ふばかりでなく、あらゆる其他の生活形態の際にもさうする、即ち共同居住、共同炊事、教育や娯樂やスポーツや其他の生活表現における共同、といふ點にある。

突撃隊、集團、コムミュニオンは根本的にみるならば、此等の労働形態の×××××傾向を表現した三つの段階である。此の點で賃銀の分配は特徴的である。突撃隊の成員の一人一人は各々自己の賃銀簿を持つてゐて、それに各人の個々の所得がその出来高に應じて記入されるのであるが、これに反してコムミュニオンの加入者は通常全コムミュニオンに一つの賃銀簿を持つてゐるだけである。その際に賃銀はグループの各成員に様々に分配される。あるコムミュニオンは同一の或は殆ど同一の資格の労働者から成つてゐるので、全賃銀をあらゆる加入者に平等に分配する。又あるコムミュニオンは基準以上の行爲のためにその集團に與へられた出来高餘剰所得をその成員に分配する。最後に又、全所得を賃銀率に比例して即ち各労働者の資格に比例して分配するコムミュニオンもある。

(木) 貫通・先導隊 (Durchgangs- und überführung brigaden) 追加計畫

普通の突撃隊の他に貫通突撃隊も亦廣く普及した。その任務は、全生産過程の經過において何等かの成果を得る様に労働を促進し、生産過程における障害物や中絶を除去する點にある。貫通突撃隊は、一つだけの經營部門ではたらくのではなくて、當該生産過程に關係ある一切の部門ではたらく。それはあらゆる關係部門の代表者に從屬してゐる。貫通

隊は一經營或は全産業部門内の各生産方法を同一化する際に、大きな役割を演ずる。本部は全従業員大衆を生産の計畫的指導に引きよせる。計畫的指導の役割は工業の急速な發展と共に増大し、それはあらゆる新しい社會主義的労働形態の創造的源泉をなすものである。此の巨大な過程の指導は社會主義的労働組合の手中にある。

全プロレタリアートが生産の指導及び組織化に参加する點で、ソヴェート同盟における労働者は資本主義諸國における労働者と根本的に異なる。社會主義においては労働者は、その社會的地位並びに個人的地位よりして、資本主義國とは全く別な社會の一環となつた。

ソヴェート同盟プロレタリアートによつてつくり出された社會主義的労働形態は、労働者を労働に對する全く新しい態度、×××としての態度、社會主義的意識的な建設技師としての態度に教育しつゝある。これは、經營における労働者が管理部の計畫に對して追加擴大計畫をたてる事のうちにあらはれてゐる。此の追加計畫は、生産を出来るだけ擴張し裝備を出来るだけ完全に利用し、經營の内部的資力を動員する事を目的とする。突撃隊によつて作成される此の計畫は工業の成長の特に急速なテンポに達する可能性を與へるものである。例へばキエフの金屬工場「ボルシエヴィキ」では労働者の提案によつて最初の生産計畫八百二十萬ルーブルを一千八百萬ルーブルに増大する可能性が與へられた。ドニエプロフスクの金屬工場「ベトロフスキ」及び「レーニン」は、追加計畫によつてその計畫を二割一分六厘増大した。ドネツ嶺區のクラマトルスキー工場は従業員提案に從つて、そのコークス生産計畫を七萬噸から七萬八千噸に、マルチン鋼の生産計畫を二十萬六千噸から二十一萬六千噸に高めた。レーニングラードの國家發電所第五號では、従業員による統制數字の協議によつて、發電所が休みなく活動してゐない事がわかり、労働者の輿論はトラストの計畫四億八千萬キロワット時間に、自己の計畫六億五千キロワット時間を對置した。社會主義經濟のための配慮は、労働者が五年計畫の終るまでは工場を去らぬ事を自己の義務とした點にあらはれてゐる。かくの如く自分で義務を課した事は、工業に幹部を供給し、労働力の流動を克服し、意識的でない労働者が労働から脱走する事を防止するのを目的としてゐる。蓋し失業がなくなり、農村や小ブル層からの新しい労働者層の流入がとまつた結果、労働から脱走する者の數が増大し

資本主義的習慣はまだソヴェート経営にもしばらくは新しい労働者層によつて維持されてゐたのである。

社会主義競争運動と突撃隊運動、労働コムミュン、誘導「曳船」等は、五ヶ年計畫遂行の力強い槓杆をなすものである。五ヶ年計畫の第一年度の終りには、生産の増加は計畫で豫定されてゐた二割一分ではなく二割四分となつた、即ち三分だけ追ひ越した。第二年度では計畫に豫定された二割五厘の代りに二割四分、即ち既に五分だけ追ひ越してゐた。若干の機械工場では、全く特に著しい結果がみとめられた。例へばレーニングラードの機械工場「レーニン」は前年度の計畫を二割二分八厘追ひ越し、労働生産性の増大も亦計畫以上だつた。モスクワの電機工場は經濟年度一九二九—三〇年の計畫を、全生産の點では四分六厘追ひ越し、生産費の低下は計畫に豫定された八分六厘ではなく、二割二分であつた。労働者の提案は九千七百八十四件に達し、それによつて百二十五萬ルーブルの額の節約が出来た。等々。

かくの如く社会主義競争及び突撃隊運動は單に五ヶ年計畫の遂行を促進してゐるのみならず、同時に又、その規模、それが幾百萬人を包含してゐる事によつて、次の事を證據だてるものである。即ちもはや既に前衛ばかりではなしに、ソヴェート同盟の最も廣汎な大衆がその經驗を通じて社会主義建設の特長を納得し、そのために、共同の×××××事業のために熱心にはたらし、人間の歴史上はじめて社会主義的労働形態をつくり出し、ソヴェート體制の下においてのみ労働者階級の創造的イニシアチヴとエネルギーを發揮し得る事を證明してゐるのだ。これは、ソヴェート同盟における事實無根の賦役労働についての帝國主義者及びその社会主義的従僕の無力なデマに對する最もよい答である。

（一）労働勳章——龜甲「勳章」。黒い板と赤い板

特にすぐれた仕事——計畫數字の追ひ越し、或は全經營のうち質の高いすぐれた給付——に對しては、労働及び防衛協議會によつて、その經營に労働勳章或はレーニン勳章が與へられる。その他尙従業員の相互の競争的となつてゐる多數の表彰がある。例へばウラルの全經營に對しては、ドイツでは禁止されてゐる×××××同盟の旗があつて、經營従業員の競争的となつてゐる。此の旗は巡回賞で、ウラルの大工場の従業員が毎年新しく交互にこれをかち得る。バク

1及びブロスヌイの石油地方では、×××××同盟の第二の旗をめざしてたゞかつてゐる。

拔群な給付に對する労働勳章やその他の表彰に對立するものに、龜甲章がある。これは最も悪い給付をなし、一般的テンポに歩調を合せず、他の經營よりも立おかれてゐる經營に「授け」られる。どの經營でも、たとひ労働勳章をかち得る事は出来なくとも——何故ならそれを目ざして非常に多くの經營がたゞかつてゐるのだから——、決して龜甲章だけは貰ひたくないものと思つてゐる。

全従業員に對する集團的表彰の他に、すぐれた或は悪い給付をした個々の労働者グループ、突撃隊、労働コムミュン、經營部門に對する表彰もある。同様に又特別な給付をした個々の労働者も表彰される。殊に労働の改善のためのすぐれた實踐的提案、発見、發明をなした者は表彰される。特に拔群な労働給付によつて表彰された労働者は「労働の英雄」と呼ばれる。此の名稱を受けた者は、賃銀と同額の終身年金を與へられる。

計畫された生産目標に達した場合或はこれを追ひ越した場合、並びに又此の目標に立ちおくれた場合には、無限に種々種々な宣傳手段をもつて、従業員の給付及び成果を、従業員自身に、及び又全労働者公衆に知らせられる。此の領域におけるソヴェート新聞雜誌の仕事については既に述べた。だが更にもつと印象深く影響力のあるものは、プラカート、横旗、告知燈、巨大な表、及び屢々藝術的なデコレーション（裝飾）等で、これらは公衆の集る場所に、デモや示威集會の際に、或は工場の入口やあらゆる職場や食堂やクラブの部屋——一言にしていへば労働者が必ず往來する所はどこにでも、掲げてある。よく用ひられるのは告知燈であり、色のついたランプで毎日の給付を示す事によつて、給付における追ひ越しや立おくれを従業員及び他の經營の労働者に知らせるのである。給付を高める爲にはあらゆる種類の宣傳が用ひられる。例へば各従業員の間であり、殊にコムソールス（×××××同盟員）によつて組織されてゐる宣傳隊のシユブレツヒコール、芝居の上演、小演出、等々。その際に、諷刺、頓智、皮肉、諷刺詩や歌、等が大きな役割を演ずる。非常に屢々見られる宣傳手段は、黒い板と赤い板である。此の二つの揭示板は工場の入口或は各部門にある。従業員が計畫數字に達した或は追ひ越した時には、赤い板の上に掲げられる、だが給付においておくれた場合には黒い板

三二二
萬ルーブル、西部地方では二千五百萬ルーブル、中央黒土地方では二千萬ルーブル、スターリングラード（一都會）で六千ルーブルの節約をみた。

『赤色ブチロフ工場』の發明家組織は、一九三一年度のうちに合理化提案及び發明によつて工場から六百萬ルーブル節約する事を義務とし、一九三一年の一月一日から四月一日までに既に、二百五十萬六千九百九十二ルーブルの節約に達した。『赤色ブチロフ工場』はその義務を六百萬ルーブルの節約から一千萬ルーブルに高めた。

『エレクトロザウオツド』工場の發明家組織は、一九三一年度に合理化提案及び發明によつて百二十萬ルーブル、即ち従業労働者一人あたり三百ルーブルの節約に達する事を義務とした。

労働者大衆の合理化及び發明運動の發展は、國民經濟計畫の遂行、殊にその質的改善の點に、最大の影響を與へる。合理化提案及び發明の實行が急速に利益を與へること、及びそれを發展さす事が生産計畫の追ひ越しの爲の大きな可能性を與へることを認識して、一聯の經濟組織は、發明家組織に關する一九三〇年十月二十六日のソヴェート同盟×××中央委員會の決定に従ひ、合理化提案及び發明の實行をその一般的合理化計畫のうちに取り入れた。

『ボイラーとタービン』合同の一般的合理化計畫の支出欄には、發明家組織のために九十九萬五千ルーブル（二割七分八厘）を計上し、これによつて達せられる節約額を五百九十一萬ルーブルと見積つてゐる。

交通人民委員部は一九三一年度のその生産及び財政計畫において、二百四十の發明の實行をとり入れた。そのうち鐵道交通における六十九だけでも、三千萬ルーブルの節約になるのである。

『クラスヌイ・ウイボルクシエツツ』工場は、一九三〇年第四四半期において、合理化提案及び發明から四萬五千六百ルーブルの節約を記録し、一九三〇年の特別四半期では十萬六千三百三十一ルーブル、一九三一年第一四半期では十七萬三千二百二十四ルーブルの節約を記録してゐる。

化學工場『コミンテルン』では、一九二九—三〇年第四四半期に、合理化提案及び發明からの節約は十萬六千九百八十六ルーブルに達し、特別四半期には九百三十八の提案がなされ、それによつて十五萬四千四百三十一ルーブルの節約

に達し、一九三一年第一四半期では、七百六十八の提案と二十一萬七千六百七十八ルーブルの節約を記録した。

以上の數字の示す如く、社會主義競争、突撃隊運動、發明家組織、生産協議會、等は、労働者階級の幾百萬大衆の日常労働の方法、全線における社會主義建設の高テンポのための闘争の方法となつた。資本主義はその労働生産性を××××××の下につくつた。だが××××××、××××××なし得たよりはより大きな労働生産性を生み出す事によつて××××××であらう。××××××をなしとげるであらう、蓋しそれは競争を幾百萬人の事柄となし、大衆の間に労働への感激をよび起し、労働を名譽の事柄、光榮の事柄、英雄主義の事柄となしたからである。

(チ) 労働熱意

ソヴェート同盟の労働者階級が社會主義建設において示した英雄主義は、世界史上に前例のないものである。××××××××××××の數年がロシア××××××英雄的時代としてよばれるならば、五ヶ年計畫の遂行の年を何等の誇張なしに、××××××××××の第二の英雄的時代とよぶ事が出来る。労働者によるすばらしい達成がおこなはれなかつたならば、これ程大きな産業的事業に達し得なかつたであらう。あらゆる工業ギガント、あらゆる工業コンビナートは、それ／＼特別な英雄譚を持つてゐる。トウルクシブであれ、ドニエプロストロイ、マグニトゴルスク、クズネツキストロイ、或はその他であれ、此等の巨人の設立にあつては、なんらかのエピソード、なんらかの特別な行爲があらはれ、それは詩や民謡となつて、事業の英雄譚、労働の歌として、口づたへられた。

事實をとつてみよう。一九三〇年春、特にけいしい雪どけが、二ヶ年來工事中であつたドニエブルの建設事業を脅した。増水は急速なテンポで高まり、建築事業を保護するための堰堤をあふれんばかりであつた。そこで、此の巨人的な建築事業を破壊するか維持するかの爲に、自然の威力と人間との間の競争がはじまつた。人間が自然の威力に勝つた—ちなみに四日四晩の間全従業員は、少しの休息もなく、労働者の全體の最大の生命の危険を賭してたゞかつた、彼等はゆるめき、一部は水にひたされた堰堤の上で、荒れ狂ふ激流のまつたゞ中ではたらいたのであつた。だが遂に人間は

金屬労働者	五二二・一	六八六・四	八九二・五	九七五・八	一〇八五・六	一四九一・〇
印刷労働者	八六・七	一〇〇・七	一三六・三	一二九・六	一二六・八	一四〇・四
食糧品労働者	三〇〇・二	三六六・三	四五一・六	四六四・五	四五七・四	四四三・五
製糖労働者	五一・〇	七〇・五	一〇四・九	一一一・一	一〇四・〇	九五・〇
織維労働者	三六九・六	六八五・〇	八三八・四	八八三・一	八七三・四	八三二・五
化学労働者	一五八・九	一九七・四	二五〇・〇	二六四・四	二八〇・一	三四二・四
被服労働者	一三五・五	六五・四	八〇・三	一〇〇・七	一〇九・九	一三五・〇
建築労働者	三四七・五	五七六・二	九二三・七	九九三・八	一〇五三・八	一三〇〇・三
船員及び海員	二九九・四	一三九・一	一七五・四	一七六・七	一八四・八	二〇六・七
鐵道従業員	一〇八〇・五	八五六・七	一一二二・四	一一三一・八	一〇九二・〇	一〇九七・〇
交通労働者	二〇一・八	一六七・八	一八一・三	一七五・八	一八〇・一	二三〇・九
通信労働者	一九七・九	一〇五・〇	一一五・九	一一六・三	一一六・一	一三八・一
技術員	一二二・〇	七五・四	八八・二	九〇・五	九三・三	一〇二・五
保健施設労働者	五六四・二	四〇八・一	五一七・五	五四八・六	五六八・六	五八〇・六
教育労働者	七五七・四	六〇八・二	七五一・四	七九二・九	八三五・五	九五四・四
ソヴェート及び商業 使用人	一〇三二・七	九六五・〇	一二二三・八	一二六五・七	一二八二・四	一四〇九・五
自治體労働者	二〇七・九	二一六・七	二四八・〇	二五六・四	二六〇・六	二七四・三
給養施設労働者	一一五・六	一六〇・八	三八一・五	三二四・八	三四六・三	三五六・五
ソヴェート同盟總計	七九三八・六	七八四六・九	一〇四四二・四	一〇九九四・六	一一五八九・九	一三〇〇九・二

三一八

ソヴェート労働組合は産業別組合の原則によつて構成されてゐる。一九三〇年に至る迄は、二十三種の組合があつた。だが工業の發展及びそれに伴ふ産業管理機關（シンヂケート、トラスト、等）の専門化は——二十三の労働組合組織に

對して八十五の産業シンヂケートがあつた——労働組合組織をも専門化する事を必要ならしめた。かゝる専門化に際しても産別組合のシステムは單に維持されたばかりでなく、各組合は更に一層強く産業に適應せしめられた。ソヴェート労働組合中央評議會第五回總會は、二十三の組合の代りに四十五の生産組合をつくる決定をなした。此の再組織がいかなる目的の爲であるかを次に見よう。

再組織の實例を一つだけとらう、従來金屬労働者組合は二十八の經濟組織の労働者を包含してゐたが、今度此の一つの組合からは七つの組合がつくられた、即ち冶金工業の組合、電機工場及び發電所の労働者の組合、農業機關製造工場労働者の組合、交通機械製造工場労働者の組合、一般的機械製造工場労働者の組合、小製鐵工場の労働者の組合、及び機具及び道具製作工場の労働者の組合、これである。此の七つの組合は、従來の統一的な金屬労働者組合よりもより具體的に個々の生産部門や工場に適應するものである、何故なら従來の組合は、その任務や構造の點で様々な工場を包括してゐたからである。

ソヴェート労働組合は、資本主義諸國における労働組合が果すべき任務——だがそれは改良主義の影響下にあつて利益少し、因果されてゐない——と同一の任務を、労働者階級のために果さなければならぬ、即ち労働者階級の物質的、文化的水準の向上、これである。

資本主義における眞の××××労働組合の××××、××××は、こゝでそれを詳細に論ずる迄もなく、充分によく知られてゐる事柄である。労働者階級の利害とブルジョアジーのそれとは最も××相五×××し、資本主義社會における主要な××××をなしてゐる。此の對立は資本主義世界における××××の中に最も強くあらはれてゐる。賃銀及び労働條件のための闘争は、資本主義の「平穩な」「通常の」時期においては、××××××××××である。××××××××においては、或は命××××××××××に際しては、賃銀闘争、經濟的ストライキは益々著しく××××××××××行動となり「一時的利害の框を越えて、××××××××××經濟秩序の存立を脅かす主要楨杆の一つとなる。これこそは、資本主義的「秩序」の内部においてのみ生存し得る改良主義をして、××××××××××を避けてこれと抗争し、プロレタリアートのあらゆる

これは原則的態度、それに基いてソヴェート労働組合が労働者階級の物質的狀態向上の任務を遂行する一般の方針である。

かくて我々は知る——社会主義における労働組合の任務と目的は資本主義における同一である、即ち労働者階級の物質的狀態を高めること、これである。これに反し此の目的に達する手段は、資本××××××××××××××××××に、一變した。

ソヴェート労働組合は経営内において新しい社会主義競争を組織し、突撃隊運動を組織し、労働者の労働コミュニティを組織し、労働力の正しい配分を組織し、有資格労働力の増大及び養成のために配慮し、生産性を出来るだけ發展させる爲のあらゆる領域で盡力する。労働強度の向上及び新しい社会主義的労働形態の發展の領域における此の新しい任務の遂行の程度に正比例して、ソヴェート労働組合は労働者階級の狀態の向上を生産の増大の任務と結びつける、此の生産増大なくしては、いかに社会主義的経済法則の下でも、労働者階級の生活狀態は高まり得ないのである。

新しい社会主義的労働形態に大衆運動を發展さす爲に、ソヴェート労働組合は物凄しい活動を展開する。單に経営における定期の生産協議会のみならず、全工業、全地方の生産協議会、突撃隊運動及び労働コミュニティの大會、労働者の突撃労働の結果を廣く知らせる展覽會——これらの事が全國至る所で組織遂行されてゐる。労働者階級の狀態の直接的向上はこれと最も密接に結びつき、それは今では、特に促進されねばならぬ一定の工業や職業の生産増大の必要と對應してゐる。かくして鐵道従業員、鑛山労働者、水上運輸労働者の賃銀は、一九三一年二月に二割増加し、それによつて、最初賃銀率に豫定されてゐた増加をはるかに追ひ越した。

幾百萬人の創造的熱意、殆んど全労働者の労働に對する新しい社会主義的態度は、今日では著しい程度に、労働者階級の幾百萬大衆にとつて新しい社会主義的生活の支柱であり促進者であるソヴェート労働組合から出發してゐる。それは、右翼の指導下にあつた過去の時代の×××日和見主義的墮落と掃蕩する事によつて、今日の狀態に至つたのである。生産任務遂行における労働組合の役割は日一日と増大しつつある。労働者大衆は益々著しく計畫労働に直接參加して

ゐる。労働者によつて職場に掲げられる對抗計畫は、廣汎な労働者大衆の計畫である。そして全く當然の事であるが、社会主義工業の建設における高まりつつあるテンポは労働組合に、工場及び職場の従業員を全生産に参加さす爲、直接中央管理部に引き入れられるといふ責任ある任務を課してゐる。我々が最初に取扱つたソヴェート労働組合の再組織は、此の目的のために行はれてゐるのである。現在進行中の此の再組織の遂行後は、ソヴェート労働組合は××××建設のより一層堅固な××、基礎となるであらう。

十一、ソヴェート同盟に於ける婦人労働者

ソヴェート同盟における婦人の地位は、資本主義諸國におけるとは根本的に異なる。此の事は我々は既に以前にのべておいた。こゝでは、生産、工場、経営における婦人労働者の地位を問題としよう。どの位婦人が工業其他に従業してゐるかは、労働組合に組織されてゐる婦人の統計から知られる。

労働組合に組織された婦人の數 (單位千人)

組 合	一九二四年	一九二五年	一九二六年	一九二七年	一九二八年	一九二九年	一九三〇年
農業及び林業労働者	五六・九	一一六・四	一七四・一	二一〇・三	二五一・八	三二九・七	三六九・七
製紙労働者	七・六	九・〇	一〇・五	一一・二	一一・二	一一・四	一三・四
鑛山労働者	三五・四	二四・〇	五〇・八	五二・一	六四・九	五九・一	七七・三
木材労働者	一六・九	一九・五	二五・六	二九・九	三四・〇	三九・二	五五・一
皮革労働者	一三・二	一四・八	一八・三	二〇・〇	二四・一	三二・六	五七・一
金屬労働者	六八・八	八〇・九	九五・七	一〇二・一	一〇九・〇	一二八・〇	二一七・一
印刷労働者	二〇・一	二四・三	二八・九	三八・三	三七・四	三八・〇	四五・七

第五章 労働者の狀態

食糧品労働者	六五・一	七九・八	一〇四・八	一一四・七	一二五・六	一二五・八	一三〇・二
製糖労働者	二〇・二	九・九	一七・九	二一・二	二三・〇	二二・九	二〇・九
織維労働者	二九・〇	三七・〇	四三・三	四六・二	五〇・九	五〇・七	五〇・四
化学労働者	四六・四	五八・五	七〇・八	七六・五	八四・〇	九〇・五	一一二・三
被服労働者	三六・五	三七・一	四二・二	四八・四	六一・五	六七・四	八六・四
建築労働者	一五・三	二五・〇	三八・八	五四・八	六〇・四	八〇・二	一四五・〇
船員及び海員	八・六	八・八	一〇・一	一〇・三	一〇・四	一〇・四	一二・九
鐵道従業員	八一・八	七八・四	九五・三	一〇二・五	一〇一・一	九五・六	一〇〇・〇
交通労働者	一三・六	一三・八	一五・七	一六・一	一五・四	一五・三	一九・八
通信労働者	二八・五	二九・一	三二・三	三二・七	三二・二	三二・三	四二・九
技術員	二四・四	二五・四	二八・五	三一・五	三二・八	三四・四	三七・二
保健事業労働者	三二・八	二五・〇	二九・四	三三・四	三五・七	二七・九	三九五・七
教育労働者	三〇・七	三二・八	三八・〇	四一・二	四三・八	四六・六	五二〇・六
ソヴェート及び商業 使用人	一四三・〇	一六三・二	二〇四・七	二二九・一	二四〇・九	二六二・三	三一八・一
自治體労働者	三二・一	三九・二	四七・六	五三・三	五七・二	六二・一	七四・三
給養事業労働者	八一・七	一一八・四	一七九・七	二二九・三	二五九・三	二八七・九	二七二・七
ソヴェート同盟總計	一六三一・六	一九三四・七	二四一三・六	二七〇〇・八	二九三五・七	三一七九・七	三六二五・九

右の表から見られる如く、婦人はあらゆる職業や産業ではたらいてゐる。一九三〇年には婦人労働者の数は三百六十萬に達した、即ち就業労働者總数の五分の一であり、男の労働者四人に對して一人のわけである。勿論婦人労働者の割合はあらゆる職業や産業で同一なのではない。織維工業や被服業では婦人労働者は男子労働者よりも遙かに多い。興味ある事には、保健事業（醫者、看護婦等）や教育事業（教師）においても婦人労働者は男子をはるかに凌いでゐるのである。

三二四

ある。

ソヴェート同盟では、婦人労働は單に労働法によつて男子労働と同等のものとして承認されてゐるのみならず（同一の労働——同一の賃銀）、婦人の生理的特殊性を考慮して、特別な法律によつても保護されてゐる。此の目的のために様々な職業や産業において労働が婦人の生理體に及ぼす作用に關する調査が繼續的に行はれ、特に婦人に適する職業には完全にそれに携はる道を開き、又他方婦人の生理體に適しない所では婦人労働を除くやうにしてゐる。

ソヴェート同盟の國民經濟の嵐の如き發展に際して婦人労働がいかに大きな意義を持つてゐるかは明白である。一九三一年度だけでも、國民經濟は三百八十五萬の新労働力——うち二百萬以上は有資格労働者——を必要とした。これと關聯して、本年に婦人労働力を得る見透しはどうであるか？

幹部の需要（三百五十八萬は）一九三一年では大部分婦人労働によつてみたされた。問題のかゝる解決は、次の事情によつて促進された、即ち都市人口の勤勞者中約七百萬は専ら家内經濟のみに従事してゐる婦人であり、その中から百萬を生産労働に獲得する事が出来たのであつた。尙少からざる數の婦人が都市人口の他の部類から獲得された。都市人口の婦人の他にも、男子の農村人口と並んで三十萬以上の農村婦人が生産に引入られた。

總計百五十萬以上の婦人が國民經濟に引入られた。これは生産への婦人労働の獲得の巨大な成果であり、いかなる資本主義國も知らなかつた且つなし得ない所である。

婦人をかくも多數に生産に獲得したことは×××建設の巨大な一成功である。此の成功は、百五十萬以上の婦人が×××面纱から解放され、生産的労働に獲得され、かくして經濟的從屬と家内×××の地位から自由にされたといふ事の故にも、貴重なるものである。

だが婦人を生産に獲得する途上には、まだ過去からの大きな諸困難が横はつてゐる。第一の障礙は、家長的「家庭のかまど」（かまどといふのは、古代から火を消さぬ事が婦人の義務とされてゐた事から、家内仕事全般を指す——譯者）——その細々とした、婦人におしつけられた世話、洗濯、炊事、つくる仕事、裁縫、子供の教育、等。

婦人が大規模に生産に入りこんだ事は、労働者階級の状態に完全な変化をもたらした。「家庭のかまど」の代りに共同給食、共同育児があらはれた、或はより正しくいふならば、社会による家内経済の引き受け、があらはれた。

共同給食の大きな意義にかんがみて、ソヴェート政府は一九三一年には、此の目的の爲に一億二千萬ルーブルの支出を計上した——即ち前年に比して十三割の増加である。此の支出によつて、此の給食施設の生産を著しく増大し、一九三一年末には都市だけでも三千七百五十萬回分の食事を調理する事が可能となつた。此の事は、一九三二年末には千四百乃至千五百萬人、即ち都市人口の約四割が共同給食の圏内に引入られる事を意味する。だがこれは全ソヴェート同盟にとつての平均數に過ぎない。個々の部類をとつてみれば、次の如くなる——工業労働者六一八割、建築労働者八十割、専門學校學生十割、等。

共同給食の發展は先づ第一に、此の領域における新しい大施設の建設の方向に進むであらう。最重要な工業地方——ウラル、クズネツク盆地、ドネツ盆地、石油原産地、等——には、一九三一年度のうちに、數十の中央調理場が設立され、各々一日に六萬乃至十五萬回の食事を供給する。マグニトゴルスクとクズネツクの二つの新しい巨大工業は、兩都市の全人口を包括する巨大給食コンビナートを得た。此の施設の給付能力は一日六十萬回分に達する。

共同給食の領域における巨大企業の設立とならんで、その生産の質的向上にも大きな注意が拂はれてゐる。この點での主要任務は、労働者へのサーヴィスを早くすること（それは労働者とその食事のために費す時間を休憩時間の最小限の部分にして、大部分を彼等の文化水準の向上や休息にさく事の出来る様にせんが爲である）、更に食事の質を改善すること、良質の生産積立の準備、生産物の利用と調理を改善すること、生産を合理化し擴大する事に基いて價格を引下げること、及び同時に又質を高めること——これらのことによつて、労働者及びその家族はより一層共同給食を利用し、それにより實質賃銀を高める事も出来るであらう。

あらゆる此等の方策は労働者大衆の直接の参加の下に行はれてゐる。労働者の統制は炊事委員會の形で組織される。都市及び農村ソヴェートの特殊部が給食問題に従ふ任務を持つ。工業經營等が中央炊事場の「後見役」を引きうける。

大經營はその經營だけの労働者協同組合を組織する。

共同給食の主要問題は、此の領域の最良の理論的及び實踐的専門家の協力の下に「同盟給食施設研究所」の研究と活動の對象となつてゐる。

農業を社會主義的に改造すること、大ソヴェート農場を組織することは、農業地方における共同給食をも日程に上せた。一九三一年度には恒常的に機能を營む共同炊事場——先づ第一にソヴェート農場における——の數、並びに播種及び收穫時の臨時炊事場の數は増加した。ソヴェート農場の恒常的労働者總數の五割——七割五分と臨時労働者の十割は、一九三一年度には共同給食の圏内に入った。

經濟組織及び労働組合組織が共同給食に拂ふ注意、並びに此の事項を消費組合の當面の最も緊急な任務に取り入れた事は、此の領域において一九三一年度に豫定された計畫のあます所なき遂行を確保した。

婦人労働を生産に獲得する途上に横はる、一つの重大な障礙は、婦人労働の資格が低い事である。だがこれは決して自然的現象ではなくして、全く社會的現象であり、従來婦人が生産と結びつく事が少かつた事に原因があり、従つてただ一時的な過渡的な現象に過ぎぬのである。自然的に賦與された婦人の労働能力は、多くの職業や産業部門では、はるかに男性にまさつてゐる。従來は傳統やその他の理由からたゞ男性のみが従事してゐた職業（機械製造、機械組立）についてさへ、右のことは通用する。ソヴェート同盟では此等の職業や産業において、近いうちに婦人労働のためになるやうな大きな變化がおこるであらう。

婦人労働が國民經濟に根をおろす事を妨げてゐた種々の客觀的原因のために、有資格婦人幹部の準備は、今までの所ではごく微弱にしか行はれてゐない。が兎も角も——國民經濟の増大しつゝある需要をみたし得ないにしても——一の進歩が見られる。中央統計局の報告によれば、調査工業の諸經營に働いてゐる婦人の百分比は、一九二九年一月一日には二割八分八厘、一九三〇年一月一日には三割二分に達した。

より大きな進歩は、一九三〇年度における労働機關による教育及び資格向上の點にみられる。一九二八—二九年の上

半期では三萬九千の婦人が學校を卒業した、即ち卒業者總數の二割七分八厘である。一九二九—三〇年度には婦人の卒業者數は八萬四千、即ち總數の三割四分七厘に達した。一九三二年度には三十二萬九千の少女、——全學生の四割七分——が工場學校で教育を受けた。そのうち工業の爲の教育を受けた者は二十一萬九千即ち四割七分四厘（工業の教育を受けた總數の——譯者）、交通の爲四萬即ち三割三分三厘、商業——一萬七千即ち八割五分、農業——四萬、即ち五割である。

確定された規準の嚴守は、國民經濟のあらゆる部門における婦人労働の資格水準を高めること、同時に又國民經濟に必要な資格労働者幹部を供給することを確保した。

階級的イデオロギー、社會主義的精神、社會的責任の意識、並びにプロレタリア的×××××意識は、婦人労働者の間に男子の労働者に劣らぬ程發展してゐる。ソヴェート同盟における經驗は、婦人が生産において高度の階級意識と大きな政治的活動性をあらはす事を教へる。例へばソヴェート同盟西部地方の多くの工場「クラスナヤ・ザリヤ」「クラスナヤ・ニイチ」「ウオロダルスキー」「ウリツキイ」などの工場では、就業婦人労働者總數の七割五分が突撃隊ではたらいてゐる。「プロミシレニイ・トルド(工業労働)」工場では婦人は生産を一割九分向上させ、工業及び財政計畫を百二パーセントをもつて遂行した。ウラルの「レーニン」工場では、婦人が社會主義競争の創意者となり、ウラル地方の労働組合評議會から旗を授けられた。かゝる事實は無數に引用する事が出来る。此等すべては、婦人が政治意識をもち社會主義の積極的な建設者であり、労働者階級と完全に歩調を合せてゐる事を物語つてゐる。

代表者會議は、公的の(労働組合内)生活や新しい社會主義的生成や生活において、特に大きな部分を占める。一九三〇年度には、×、労働組合、協同組合によつて組織された十萬七千六百の代表者會議が記録された。ソヴェート同盟×××の全婦人××の三割三分は、代表者會議の活動における特別な才能、乃至は公的生活への参加の故に、××許可されたものである。

婦人が大衆的に生産に編入された事は、上述の如く、單に都市人口においてのみならず、農村人口においても見られ

る所である。完全共營化に基く農業の社會主義的改造は、機械技術の發展に導き、婦人大衆を生産に編入すること、トラクターを使ふ仕事や農業機械の使用や其他の有資格労働のために婦人の有資格幹部を準備することを任務たらしめる。婦人労働を合理的に利用するやうに共同經營の労働を組織する事は、農業に必要な幹部を供給するに當つての決定的なモメントである。

農業における婦人労働の廣汎な合理的利用は、先づ第一に、文化的及び社會的關係における根本的な變化を必要とする。托兒所、兒童ホーム、共同食堂、共同洗濯場、等の廣汎な網は、現在の勤勞婦人大衆の豫備軍を解放するであらう。以上が大體において婦人労働の見透し、及びそれと結びついた任務である。此等の任務がいかに困難であらうとも、××××××××××確乎さと確實さをもつて遂行されるであらう事は疑ひない。此の任務の解決における成功は、婦人労働を偉大な××××××建設に獲得することを更に一層強めるであらう。

十二、生産におけるレーニン主義的コムソモール

××××××建設においては、×、××××××、労働組合、及び婦人労働の組織化とならんで、青年労働者の労働が重要な地位を占める。全労働において青年の要素がどの位あるかは、労働組合に組織された青年労働者の數から明らかであらう。

十八歳以下の労働組合員數 (單位千)

組	合	一九二四年	一九二五年	一九二六年	一九二七年	一九二八年	一九二九年	一九三〇年
農業及び林業労働者		二一・五	五三・七	七四・四	九一・三	一一四・五	一四二・七	不明
製紙労働者		一・二	一・五	一・八	一・七	一・二	一・五	二・六
鞍山労働者		一一・二	一一・〇	一五・九	一五・四	一四・〇	一一・六	一二・七

木材労働者	四・一	六・七	六・四	七・〇	六・九	五・二	不明
皮革労働者	七・一	六・六	八・七	八・五	七・七	五・七	八・〇
金屬労働者	二八・二	三二・五	四三・七	四三・〇	三八・〇	三四・九	六一・一
印刷労働者	四・八	六・一	七・八	五・四	二・六	二・〇	四・七
食糧品労働者	九・六	一一・二	一三・五	一二・四	一一・四	一〇・二	不明
製糖労働者	六・一	二・六	三・五	三・〇	三・〇	三・〇	二・〇
織維労働者	二七・三	三二・〇	三六・〇	三四・〇	三〇・五	二四・三	二三・〇
化學労働者	九・〇	一〇・五	一三・四	一二・九	一一・〇	八・四	一一・八
被服労働者	四・二	四・六	五・五	六・一	六・四	五・六	五・〇
建築労働者	七・三	一三・四	一九・六	二五・一	二二・〇	二〇・八	不明
海員及び船員	三・五	三・八	三・八	三・五	二・七	二・五	四・六
鐵道從業員	一七・〇	一二・五	一九・二	二一・〇	一七・六	一二・〇	一六・六
交通労働者	一・一	一・一	一・三	一・二	一・〇	一・〇	一・七
技術員	〇・八	〇・九	一・一	一二・二	一・一	一・〇	一・二
保健事業労働者	一・一	一・三	一・二	一・〇	一・一	〇・七	二・〇
教育労働者	一・六	二・五	三・二	二・九	二・七	二・八	不明
ソヴェート及商業使用人	一〇・四	一二・九	一七・六	一七・六	一五・七	一七・九	二三・九
自治體労働者	二・八	三・一	三・七	四・四	四・二	三・八	三・〇
給食事業労働者	五・五	八・三	一〇・八	一二・七	一二・七	一三・六	一一・二
ソヴェート同盟總計	一八六・八	二四〇・三	三一二・六	三三一・七	三二八・三	三三一・六	—

ソヴェート同盟の生産における青年労働者の指導は、大衆組織として××××××××××の重要な一要素であるレ

レーニン主義××××同盟の手にある。レーニン主義××青年同盟の成員数は、
 一九二八年……………一、九三六、一〇〇
 一九三〇年……………二、四六〇、〇〇〇

内譯一九三〇年では工業労働者三割四分、農業労働者一割三分四厘、残りの五割二分六厘は學生、生徒、使用人であつた。二百四十六萬の同盟員のうち、經營ではたらいてゐる者即ち直接生産に入つてゐる者は七十一萬三千四百(二割九分)に過ぎず、百七十四萬六千六百の同盟員は、中等及び高等學校大學、アカデミー等の學生である。學校——そこから見られる如く、ソヴェート同盟のはたらく青年は、資本主義におけるが如く決して從順な××××對象ではなくして何よりも先づ××××的經濟及び社會秩序のやがての擔ひ手及び指導者として見られるのである。此の領域における彼等の機能については、後の章で特別に述べるであらう。

××××××××同盟の任務は特に重要である。新しい社會主義的労働形態、社會主義競争、突撃隊運動、労働コムミュニオンを始め、青年の勇氣を促し前進させたのは、レーニン主義××××同盟であつた。同じくまた、ソヴェート同盟の遠隔地方や農村ではじめて共營化にとりかゝり農村青年を××××的精神でみたしたのも、レーニン主義××青年同盟であつた。

巨大な労働強度、無比の労働英雄主義と感激的熱誠——これらは××××建設の最強の支柱であり促進者であるが、それは大部分レーニン主義××××同盟から出發するのである。即ち同盟において、××××××××××××××××あるゼネレーションの最も包括的な教育、啓蒙、組織化が行はれるのである。

十三、消費組合(註一)

年次	五ヶ年計畫による		一年半において實際に遂行された	
	總賣上	小賣々上	總賣上	小賣々上
一九二九—二九年	一九一四二	九五四〇	一九四四七	九八二五
一九二九—三〇年	二三四六三	一一七〇五		五三六七
一九三〇—三一年	二五五六五	一三二〇五		
一九三一—三二年	二七三〇五	一四四一五		
一九三二—三三年	二八九一三	一五六〇〇		

消費組合は人口に供給することの外に、政治的に重要な任務をもつてゐる、即ち都市と農村との間の商品交換を組織して、かくして労働者階級と農民との同盟を強化することである。ソヴェート同盟消費組合——それは例外なく消費組合中央同盟(ツェントロソユーズ)に結合されてゐる——はまさに此の任務をなしとげんとしてゐる、その際に「その發展と成功の度合に應じて×××的分配機構に自らをつくり上げる」といふ見透しを心にとめてゐるのである。

現在の消費組合の状態は次の數字から簡単に特徴づけ得るであらう。

- 成員數——四千二百萬
- 小賣々上高——年百二十億ルーブル
- ツェントロソユーズに結合された組合數——二萬四千五百
- 組合員出資——七億ルーブル
- 賣店——十二萬八千

労働者及び使用人——四十萬

我々はこゝで比較のために次の事實を指摘しておかう。十二のヨーロッパ諸國の消費組合の賣上は一九三〇年度には

三十五億ルーブルに過ぎず、此等資本主義諸國の消費組合は總計千四百萬の組合員を數へてゐるに過ぎなかつた。

一九二五年以來のソヴェート同盟消費組合の發展については左の數字が説明してゐる。

年次	組合數	賣店數	組合員數
一九二五年	一一五、六二五	五一、一〇一	九、四三六、〇〇〇
一九二六年	一一八、七三一	六二、七〇〇	一一、四〇六、〇〇〇
一九二七年	一二八、六一六	七一、九三九	一五、九九一、〇〇〇
一九二八年	一二八、六一二	八五、〇〇〇	二〇、〇〇〇、〇〇〇
一九二九年	—	—	二八、〇〇〇、〇〇〇
一九三〇年(半年)	一二四、五〇〇	—	四二、〇〇〇、〇〇〇

消費組合が小賣商全體において占める割合は

- 一九二七—二八年……………四九・一パーセント
- 一九二八—二九年……………五六・一
- 一九二九—三〇年……………六二・七

あらゆる協同組合(労働者消費組合、農業其他の生産協同組合)が小賣商全體において占める割合は、

- 一九二七—二八年……………五九・一パーセント
- 一九二八—二九年……………六八・七
- 一九二九—三〇年……………七九・三

だが消費組合は一の分配組織であるばかりではなく、人口に供給すると同時に、組合員の文化的水準の向上やその日常生活を新しい基礎の上につくり上げる領域において、大きな活動を果しつゝある。

全日常生活のつくりかへについていへば、消費組合は機械化されたパン製造大工場と共同給食（工場毎に設立された炊事場）との一の建設の方針にたつて活動してゐる。××前には全人口は、自分の家で焼いたか或は小さなパン工場で製造されたパンを食べてゐた。大きなパン製造工場の開設は、此の領域における一の完全×××を意味する。その他消費組合は、児童を扶養する施設（托兒所、幼稚園、等）の網を組織しつゝある。このために婦人は豪所に縛りつけられてゐる事から解放され、育児の負擔が軽くなり、積極的に生産過程及び社會的政治的生活に参加し、その知識水準を高めることが出来るやうになつた。

あらゆる此等の領域における消費組合の活動の規模については、左の數字から推察することが出来る——一九二九—三〇年度には既に消費組合のパン工場七十七が四千三百七十噸のパンを一日に生産してゐた。共同食堂は年に五億一千萬分の晝食を供給し、のみならず更に多數のピュツフェ、朝食食堂場がこれに加はる。消費組合の児童のための施設の数（二千七百二十五の子供の家、二千六百十八の托兒所）は五千三百四十三に達し、母性と児童の爲の特別な賣店が二百六十五、裁縫學校が千五百四十一ある。

日常生活の向上と改造を示す此等の數字の外に、一九二九—三〇年度には尙二千五百萬ルーブルが其他の特殊な文化的目的の爲に支出された。現在既に消費組合は映畫常設館五百、移動映寫所六千二百、ラヂオ放送局三百九十三、擴聲機施設二千三百七十五を持つてゐる。經濟年度一九二八—二九年の間に、協同組合の文盲退治施設は約七萬五千の成人に読み書きを教へ、一九三〇年には此の數は三十萬に上つた。

消費組合の出版所三千三百、同じく農村の賣捌所一萬六千からは、毎年二千萬ルーブルの本が賣れる。消費組合は二千萬の發行部數をもつ八つの中央新聞と、數百萬の發行部數の三十の各種の雜誌を發行してゐる。

ソヴェート同盟の消費組合はその活動の大きな缺陷を極めてよく知つて居り、此の缺陷及び殊におくれた商業形態！

—それは著しい程度に販賣人の低い教育程度と文化水準の結果である——をかくさうとはかつてしなかつた。活動の極度の急速なテンポの際でも、商業網の巨大な成長の際でも、消費組合は同様なテンポで必要な文化的役員幹部を養成することが出来なかつた。四十萬もゐる協同組合使用者や労働者の中では、異階級分子が機構内に侵入するのも避け難いことである。此等の分子は現在直ちに除かれねばならぬ、それは次第に、特別講習會で準備されてゐる若しくは既にそこを卒業した新しい幹部によつておきかへられるであらう。消費組合發展の五ヶ年計畫と結びついて、五十三萬の役員を養成するといふ任務が生じてゐる。既に經濟年度一九三一年においては、十三萬九千五百の新役員が準備され、この目的の爲に二千五百萬ルーブル以上が支出された。

これらの事實が明らかに示す如く、消費組合は組合員の文化的及び一般的水準の向上の領域で實にすばらしい役割を演じてゐる。此の活動は年一年と擴大され深められつゝある、消費組合が文化的活動と組合員の生活水準向上のために極めて多額な支出をするのを非難した組合員は一人もゐない。

消費組合の組合員の増大は主として此の五年間のことである。此の増大は、社會主義的計畫經濟の進歩が消費組合の前に開いた極めて遠大な見透しと、ソヴェート×××ソヴェート同盟×××が一般に協同組合、特に消費組合に對してとつた明確な政治的方針とに負ふものである。

消費組合は農民に工業製品を供給することを組織し擴大し、農産物に關する契約制度の最廣汎な發展によつて農業の一層の成長を刺激し、これによつて都市人口に必要である農産物の反對給付を強めてゐる。契約制度は農村の資本主義的分子及び富農分子による農民の×××の根源を×××、私的商人による農産物に對する投機的取引の可能性を除いてゐる。

農民は農業協同組合及び消費組合の活動に積極的に参加することによつて、協同組合を根柢とせる農産物販賣を自ら組織しつゝある。農民經濟の共營化の廣汎な發展、個人經營を大きな力強い共同經營に結合することは、農民を協同組合に捉へる此の過程を完成させる。

ソヴェート同盟の消費組合は巨大な足どりをもつて、全人口の完全な把握への道を前進しつゝある、それは結合された協同組合の社会秩序、社会主義的社會秩序への道を前進しつゝある。

此の主張の正しさは、ソヴェート同盟の協同組合組織に加入してゐる個人及び個人經營の数の増加に關する次表から最もよく證明される。

	(單位千)	一九二七—二八年	一九二八—二九年	一九二九—三〇年
農業協同組合に加入せる農業經營の數	九、五〇〇	一一、八一〇	一六、五〇〇	
生産協同組合員數	九三五	一、三三六	一、九二二	
消費組合員數	二二、六三八	三二、七五八	四〇、二五八	
各成員が一個の經營を代表するものとしての總數	三三、〇七三	四五、九〇四	五八、六七〇	

(計二)

表の最後にある一九二九—三〇年の數字は一九三一年初に既に著しく引きはなされた。一九三二年一月では總數は六千五百萬以上に達した、これは家族員を計算にいれなければソヴェート同盟の總人口の約五割にあたる。協同組合に把握する領域におけるかゝるテンポ、かゝる昂揚は、世界の他のいかなる國にもなかつたし、又ないのである。

ソヴェート協同組合のすばらしい優越性、眞の協同組合生活、消費者大衆及び労働者階級のための協同組合がプロレタリアート×××の下ではじめて生じ得るといふ事實、また×××の下においてはじめて協同組合はその偉大な×××××任務を果し得るといふ事實は、今日では社會主義及びソヴェート協同組合の×××××——資本主義諸國における改良主義的協同組合指導者——ですらみとめざるを得ない所である。例へば國際協同組合同盟の機關誌「國際協同組合評論」は本年三月に、各國における協同組合組織に關する統計を發表したが、その中でソヴェート協同組合の偉大な成長をみとめなければならなかつた。そこでは次の如くいはれてゐる——

「一九二九年には組合員總數の六九・三パーセントはソヴェート同盟、一二・七九パーセントはイギリス、五・九三パーセントはドイツ、二・九八パーセントはフランス、一・五四パーセントはハンガリーである」

一九二九年には國際協同組合同盟に加入せるあらゆる協同組合の成員數は四八、六五五、九一九に達したが、そのうち三三、四二八、六〇〇はソヴェート同盟の協同組合の成員であつた。而もソヴェート協同組合員數はそれ以來著しく増大した。一九三〇年一月一日には三七、八〇六、〇〇〇の組合員數を數へ、一九三一年一月一日には既に五五、三〇八、六〇〇の組合員數に達した。第十三回全同盟ソヴェート大會によつて確認された消費組合の事業計畫は、一九三二年末までに成員數を八千萬に高めることを豫定してゐる。

ソヴェート協同組合の賣上のすばらしい増大も亦「國際協同組合評論」の中でみとめられてゐる。即ち——
『總賣上のうちソヴェート同盟は七一・三四パーセント、イギリスは一五・六八パーセント、ドイツは四・一六パーセント、フランスは一・四七パーセントである』

ソヴェート同盟の消費組合の賣上は一九二九年には百億ルーブルに達したが、一九三〇年迄には百三十億、一九三一年までには百六十億ルーブルに増加した。その同じ期間に資本主義諸國の消費組合は著しく賣上減少を示してゐる。ドイツの消費組合は、一九三一年一月には一三パーセント、二月には一九パーセント、三月には一五パーセント、四月には二三・七パーセント、夫々前年同月に比して賣上を減少した。

改良主義的國際協同組合同盟の機關誌「國際協同組合評論」の報告についてはこれだけにしよう。だがかゝる承認といへども、アウグスト・カアシー味の如きドイツ消費組合中央同盟の社會ファシスト的協同組合指導者が、ソヴェート同盟に對する最悪の最の偽りの中傷カンパニアと公然たる×××××續行するのを妨げるものではない。ドイツ消費組合中央同盟の「消費組合評論」は、ソヴェート同盟に對する×××××最も汚らしい巢窟である。此の嘘言及び中傷行動によつてドイツの社會ファシスト的協同組合は自分自身に唾をはきかけてゐる。ソヴェート協同組合のすばらしい躍進と偉大な事業に對しては、彼等は非とすべき何ものもなく、これと同價値のものや同等のものを對置することは尙

更のこと出来ない。ソヴェート同盟のソヴェート×××××の全政策はレーニンの協同組合計畫の首尾一貫せる實踐的實現である。×大會並びにソヴェート大會のあらゆる決定の基礎は次の如くである——即ち、國家及びその諸機關によつて協同組合を特に支持すること、協同組合組織への人口の自發的參加、おくれた人口層をも協同組合に引き入れること、協同組合に所屬せる大衆の自己活動を發展させること、協同組合に組織された大衆の文化水準及び商業形態の水準を高めるための倦まざる活動——その目的は、一般に協同組合、特に消費組合を、その達成や成果の度合に應じて眞に社會主義的な分配機構につくり上げることがある——、これである。

(註一) ソヴェート同盟の消費組合に關する數字は、モスコのツェントロソユエ理事同志バダイエフの報告からとつた。

(註二) 各々の經營に二重の成員がある、即ち農業協同組合の成員が同時に又消費組合の成員である——そして又その逆の場合——場合がある以上、總数は勿論條件つきのものである。

十四、クラブ及び文化宮殿

文化及び教化活動の組織——ソヴェート同盟の労働者の休息時間の組織も含めて——のために、主として労働組合が人民教化局、×××同盟組織、協同組合、その他の社會的諸組織の積極的參加の下に、これを世話してゐる。文化及び教化活動並びに休息時間の組織が集中される主要な足場は、文化宮殿、労働者クラブ、經營や經營住宅の赤い隅、赤軍の兵舎や軍艦や商船や労働者住宅にある赤い隅、民衆の家、讀書室、共同經營や共營農村の赤い隅、スポーツ廣場、水上及びスキー・スポーツ・クラブ、文化の休養の公園、避暑庭等^{リゾート}である。

以上に挙げた文化活動の支點は大部分労働組合の指導下であり、その他の施設は政府の諸機關や様々の社會的諸組織によつて指導されてゐる。一九三〇年七月には、四千八十一の文化宮殿と労働者クラブ、七萬九千の赤い隅が、労働組合の指導下にあつた、かつて×××、×××のロシア×××、××××クラブ、地主や資本家の邸宅、等は文化活動の

目的のために提供される。その他に幾百の新しい文化宮殿やクラブが建設された。

あらゆる労働者が此のクラブに加入してゐる。一九三〇年四月までは労働者クラブは會費を基礎としてつくり上げられて居り、會費の額はクラブ員集會できめられた。一九三〇年四月、同盟のあらゆる労働者クラブの協議會の決定に基づき、クラブ員の規則及び會費納附の義務は廢止された。文化及び教化活動、閑暇を組織することの指導は、工場やソヴェート農場の經營委員會内に組織されてゐる文化顧問の手にある。此の文化顧問は經營内労働者、労働組合、×××同盟、協同組合及びあらゆる其他の社會的組織の代表者から成る。文化顧問は文化活動のための統一的計畫と統一的財政計畫をたてる。文化及び教化活動のための資金は、労働組合、經濟諸機關、協同組合、及び其他の社會的諸組織から提供される。クラブ及び其他の文化施設において廣汎な教化的及び藝術的活動が行はれる。労働者は様々なサークルにおける研究に熱心に參加する。そこでは生産技術の問題が論ぜられ、一般的教育、藝術、音樂、唱歌、演劇、スポーツ、ラヂオ、外國語のサークル、發明家サークル、航空や電機エレクトロニクスのサークル、等がある。一九二九年十月一日までの報告によれば、二百三十七萬九千の労働組合員即ち全労働組合員の二割二分が此等のサークルに參加してゐた。

クラブには労働者の爲に、その閑暇を合理的に休養するための一切の前提條件がそなはつてゐる。クラブの催し、映畫の夕、演劇上演、等が系統的に行はれ、様々な科學的及び社會政治的問題に關する講演會、討論會、報告かこれを補足してゐる。文化宮殿には種々の科學の爲の特別な研究室及び特に労働者のために設けられた實驗室がある。最近二ヶ年間に、五日週への移行と關聯して、新しい型の休養の家が廣く發展した、これは五日目のための休養の家であつて、政府及び労働組合の援助をもつてその機能を果してゐる。あらゆる労働者は四日働いた後に休日を持つ。此の休日を労働者は僅かな費用(五コペック乃至二ルーブル)でかゝる休養の家で過す事が出来る。此の休養の家で労働者は、充分な食事、日光浴、スポーツ施設、娛樂、音樂、演劇、等を自由に享樂し得るのである。労働者の休日を文化的な休養の機會とするといふ點で、國立劇場は大きな役割を演じてゐる、蓋しそれはあらゆる労働者にとつてたやすく入場し得るものだからである。一定の上演への入場券を集團的に購入すること、労働者のための音樂會を組織すること、等が大規



昭和八年六月三日印刷
昭和八年六月九日發行

(定價金八拾錢)

〔落丁亂丁は何時でも取替へます〕

(盟同ト一エヅサ)
卷二第

翻譯者
發行者
發行所

産業労働調査所

東京市麹町區四番町九番地

足助たつ

東京市麹町區四番町九番地

叢文閣

振替東京四二八八九番
電話九段(33)二五六八番

印刷所

東京市芝區南佐久間町二丁目九番地

山浦印刷所

松坂兵吉

1010
49

終



.80